



Microsoft®

SharePoint® Server 2010

Microsoft SharePoint Server 2010 自習書

インストール・アップグレードガイド(Beta2)

注意事項

本資料に記載されている機能および画面デザインは、開発途中にあるベータ版製品に基づく内容です。今後断り無く、変更される可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

著作権

このドキュメントに記載されている情報（URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む）は、将来予告なしに変更することがあります。別途記載されていない場合、このソフトウェアおよび関連するドキュメントで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などの名称は架空のもので、実在する名称とは一切関係ありません。お客様ご自身の責任において、適用されるすべての著作権関連法規に従ったご使用をお願いします。マイクロソフトは、このドキュメントに記載されている内容に関し、特許、特許申請、商標、著作権、またはその他の無体財産権を有する場合があります。別途マイクロソフトのライセンス契約上に明示の規定のない限り、このドキュメントはこれらの特許、商標、著作権、またはその他の無体財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

2010 Microsoft Corporation. All rights reserved.

SharePoint、Excel、Internet Explorer、は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。記載されている会社名、製品名には、各社の商標のものもあります。

はじめに

2009年11月、Microsoft SharePoint Server 2010のパブリックベータ版の提供が開始され、SharePointの最新バージョンを評価していただける環境が整いました。Microsoft SharePoint Server 2010は、すべてのOffice製品のコラボレーションプラットフォームとなるだけでなく、カスタムアプリケーションの開発基盤にもなるよう、多数の新機能が用意されています。

サーバー構成も、特にファーム構成(複数台サーバーから構成される環境)はより柔軟な構成が可能になる様に再設計されているため、以前のバージョンの製品より冗長性、可容性にすぐれ、企業が安心して使用することのできるプラットフォームへと進化を遂げています。

本自習書では、まだ発売前のMicrosoft SharePoint Server 2010ベータをいち早く評価するために必要な「環境づくり」が容易に行えるように支援するための自習書です。また、今からアップグレードの検証が出来るよう、基本的なアップグレード手法についても記載しています。

尚、SharePoint Server 2010は現時点ではベータ版のため、複数の追加手順、修正モジュールの適用、インストール中のエラー発生などが生じる可能性があります。また、この一連の手順、対処方法は**製品版で予告無く変更される可能性がありますのでご了承ください。**

なお、Microsoft SharePoint Server 2010ベータ版からRTMへのアップグレードはサポートされていません。そのため本自習書も運用環境ではなく、あくまで機能評価、検証用に環境を構築することを目的にしています。

自習書を通していち早く最新のSharePoint Server 2010を検証していただければ幸いです。

変更履歴

バージョン	リリース時期	変更内容
Version 1.0	2010年1月	初版リリース

前提環境について

評価用の Active Directory 環境と電子メールサーバーが既にあることを前提環境とします。

本自習書を記述する際に使用した前提環境は下記の通りです。

・Active Directory

サーバーOS: Windows Server 2008 R2 (x64)

サーバー名: DC2008

サーバーの役割: AD DS、DNS

ドメイン名: Contoso.com

ドメイン機能レベル: Windows Server 2003 ネイティブ

IP アドレス	192.168.1.100
サブネットマスク	255.255.255.0
DNS	127.0.0.1

・電子メールサーバー

サーバーOS: Windows Server 2008 R2 (x64)

サーバー名: MAIL2010

アプリケーション: Microsoft Exchange Server 2010

インストール: Exchange Server の標準インストール(Hub、CAS、Mail Box、Exchange 管理ツール)

IP アドレス	192.168.1.200
サブネットマスク	255.255.255.0
DNS	192.168.1.100

・SharePoint Server 2010 インストールサーバー

サーバーOS: Windows Server 2008 R2 180 日評価版

SQL Server: SQL Server 2008 試用版

IP アドレス	192.168.1.110
サブネットマスク	255.255.255.0
DNS	192.168.1.100

サービスアカウント: SPADMIN (あらかじめ Active Directory 上にサービスアカウントとして作成しておきます)

SharePoint Server 2010はベータ版のため、評価環境もマイクロソフトダウンロードセンターで用意されている試用版を使用しています。

メモ

ベータ製品の評価環境のため、Active Directory ドメインコントローラーと Exchange Server を同一のサーバーにインストールし、最低限のサーバー数で検証することも可能です。その場合、6GB 以上の物理メモリが搭載されているハードウェアを使用して検証することをお勧めいたします。

目次

Microsoft SharePoint Server 2010 自習書.....	1
インストール・アップグレードガイド(Beta2).....	1
はじめに.....	3
変更履歴.....	4
前提環境について.....	5
目次.....	7
第 1 章 インストール環境の構築.....	8
1.1 SharePoint Server 2010 評価環境構築の前に.....	9
1.2 推奨ハードウェアとソフトウェア.....	11
1.3 必要コンポーネントのダウンロード.....	13
1.4 インストール サーバー OS の準備.....	20
1.5 インストール サーバー OS の準備（必要な機能の追加）.....	26
1.6 サーバーへ修正プログラムの適用.....	33
1.7 ドメインへ参加する.....	34
1.8 SQL Server 2008 のインストール.....	40
第 2 章 SharePoint Server 2010 のインストール.....	51
2.1 SharePoint Server 2010 をファーム構成でインストールする.....	52
2.2 SharePoint 製品とテクノロジー構成ウィザードを実行する.....	57
2.3 SharePoint ファームの初期設定を行う.....	64
2.4 SharePoint Server 2010 サイトの機能の確認.....	68
2.5 評価に必要な設定を行う.....	73
2.6 Microsoft Office 2010 ベータ製品をインストールする.....	79
2.7 Visual Studio 2010 Ultimate ベータ 2 をインストールする.....	82
第 3 章 SharePoint Server 2007 からのアップグレード.....	85
3.1 アップグレードを始める前に.....	86
3.2 既存環境が 64 ビットで、インプレースアップグレードを計画する.....	87
3.3 データベースの移行によるアップグレード.....	113

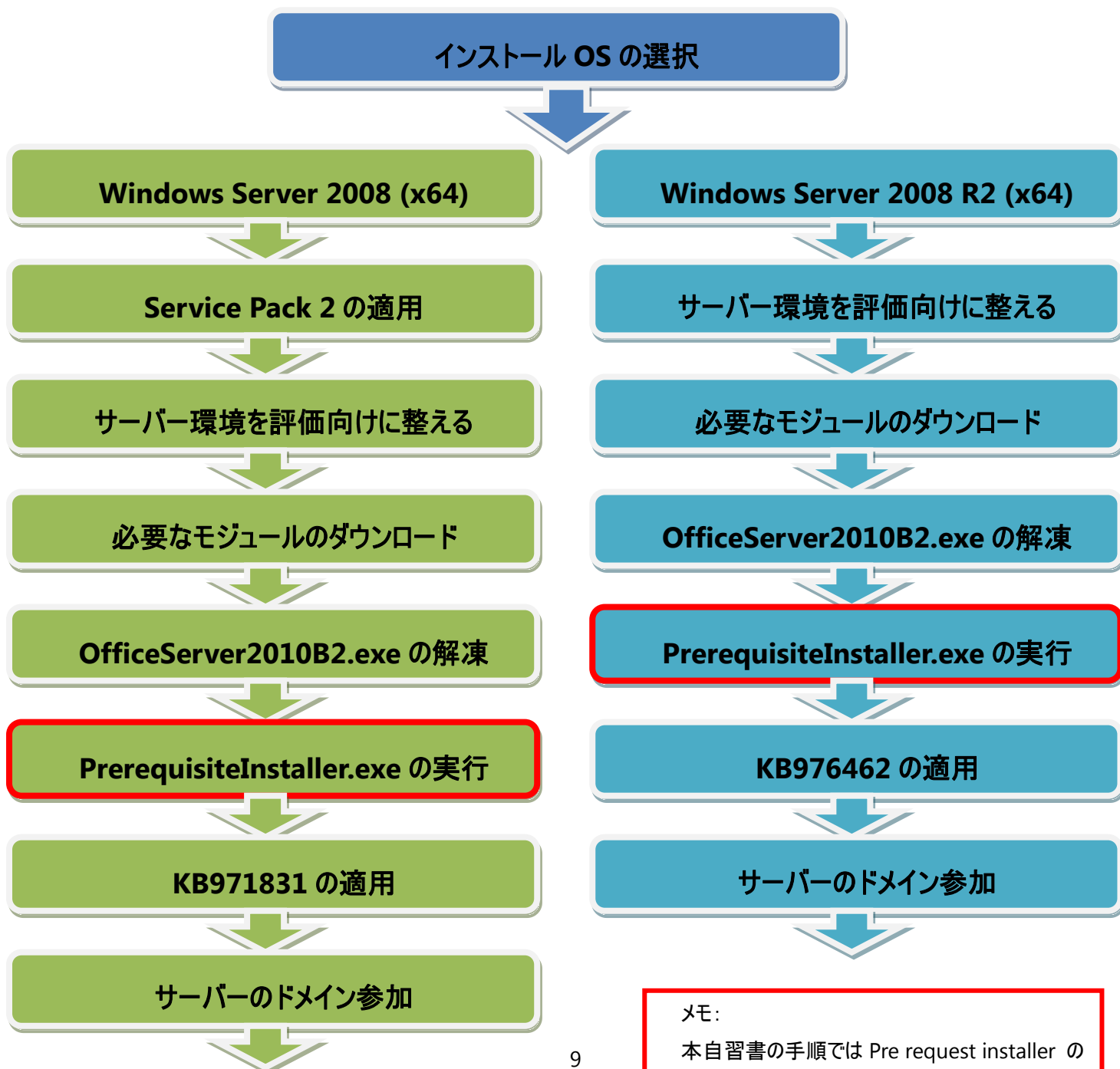
第1章 インストール環境の構築

1.1 SharePoint Server 2010 評価環境構築の前に

この評価環境では、可能な限り少ないサーバー台数で評価を行うことができるよう、SharePoint Server 2010 と SQL Server 2008 を一台の環境に展開します。インストール時には、必要な追加モジュールのインストールのためにインターネットに接続されている環境が必要です。一度追加モジュールのインストールとダウンロードが終わったら、インターネット接続環境を切り離すことも可能です。

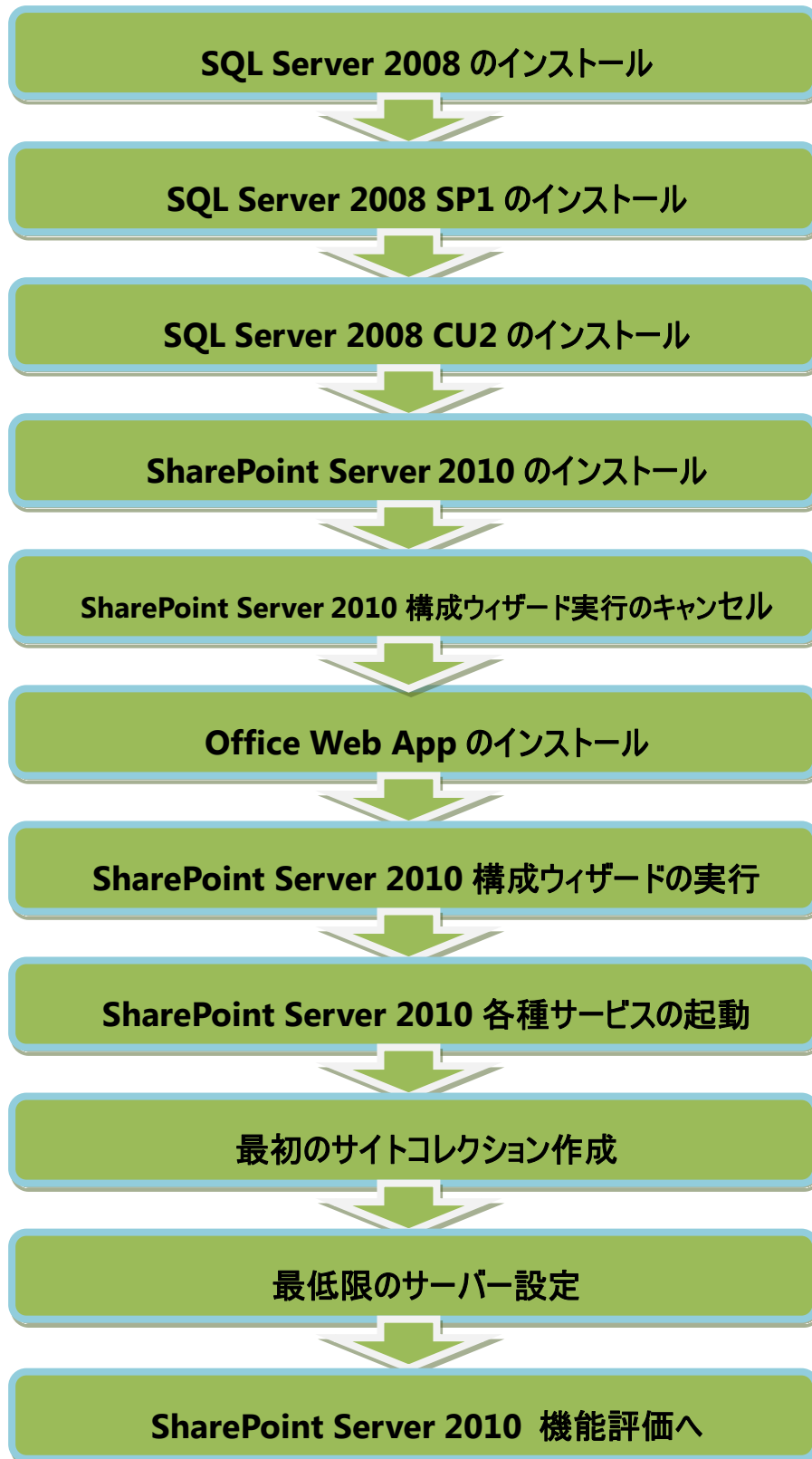
(フェデレーション検索機能や一部の Web パーツ、RSS 機能などインターネット接続を常時必要とする機能を使用するのであれば、複数枚のネットワークカードが搭載されているサーバーを利用されることをお勧めいたします。)

Microsoft SharePoint Server 2010 のインストールを開始する前に、全体の流れを確認しておきましょう。



メモ:

本自習書の手順では Pre request installer の実行が終了した時点で、インターネット接続はオフラインに出来ます。



なお、ベータ版の評価環境のため、SharePoint Server 2010 をインストールするサーバーで使用する OS、SQL Server は、すべて「**期限付き評価版**」を使用しています。

1.2 推奨ハードウェアとソフトウェア

Microsoft SharePoint Server 2010 ベータをインストールするサーバーのハードウェア、ソフトウェアの推奨要件は下記のとおりです。

ハードウェア要件:

プロセッサ	64 ビット、デュアル プロセッサ、3 GHz
メモリ	スタンドアロンまたは評価用のインストールには 4 GB 運用で使用する単一サーバー ファーム インストールおよび複数サーバー ファーム インストールには 8 GB
ハードディスク	80 GB
その他	DVD ドライブ

ソフトウェア要件:

ファーム内のデータベース サーバー	Microsoft SQL Server 2005 Service Pack 3 (SP3) または Microsoft SQL Server 2008 Service Pack 1 (SP1)と修正モジュール
スタンドアロン サーバー	64 ビット版の Windows Server 2008 SP2、もしくは Windows Server 2008 R2 --- 下記コンポーネントは <i>SharePoint 2010 PrerequisiteInstaller.exe</i> ツールで自動構成可能 Web サーバー (IIS) の役割 アプリケーション サーバーの役割 Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 SQL Server 2008 Express SP1 Microsoft "Geneva" Framework Microsoft Sync Framework Runtime Version 1.0 (x64) Microsoft Filter Pack 2.0 Microsoft Chart Controls for the Microsoft .NET Framework 3.5 Windows PowerShell 2.0 CTP3 SQL Server 2008 Native Client Microsoft SQL Server 2008 Analysis Services ADOMD.NET ADO.NET Data Services v1.5 CTP2
ファーム内のフロントエンド Web サーバーとアプリケーション サーバー	64 ビット版の Windows Server 2008 SP2、もしくは Windows Server 2008 R2 --- 下記コンポーネントは <i>SharePoint 2010 PrerequisiteInstaller.exe Install</i> ツールで自動構成可能 Web サーバー (IIS) の役割 アプリケーション サーバーの役割 Microsoft .NET Framework 3.5 SP1

Microsoft "Geneva" Framework
Microsoft Sync Framework Runtime Version 1.0 (x64)
Microsoft Filter Pack 2.0
Microsoft Chart Controls for the Microsoft .NET Framework 3.5
Windows PowerShell 2.0 CTP3
SQL Server 2008 Native Client
Microsoft SQL Server 2008 Analysis Services ADOMD.NET
ADO.NET Data Services v1.5 CTP2

クライアント要件:

PC	SharePoint Server 2010 でサポートされているブラウザを搭載していること Silverlight 3
-----------	---

メモ:

一見すると、非常にハイスペックなハードウェアを搭載したサーバーが必要に思われますが、「評価目的」であれば、最低推奨ラインの 4GB メモリ、3GHz 前後の CPU でも機能評価を行うことができます。しかし、SharePoint 2010 はまだベータ版であるために下記の点をご注意ください。

- ・物理メモリ搭載量が十分でなく、かつ CPU がロースペックの場合、インストール後の「構成ウィザード」がタイムアウトにより正常完了しない場合があります。その場合は、再度構成ウィザードを実行します。
- ・可能な限り「ファーム構成」を行います。
- ・SharePoint Server 2010 機能評価だけでなく、開発環境も含めて評価する場合は、必ず十分な物理メモリを搭載したサーバーで SharePoint Server 2010 を展開します。

本自習書では、下記スペックのサーバーで評価環境を構築しました。

SharePoint Server 2010 機能評価のみ：(評価用ドメインコントローラー、メールサーバーは別機)

CPU	Intel Core 2 Duo E8600
メモリ	6GB
ハードディスク	160GB
インストール内容	Windows Server 2008 R2 + SharePoint Server 2010 + SQL Server 2008

SharePoint Server 2010 開発環境を含む：(ドメインコントローラー、メールサーバーは別機)

CPU	Intel Core 2 Duo E8600
メモリ	8GB
ハードディスク	160GB
インストール内容	Windows Server 2008 R2 + SharePoint Server 2010 + SQL Server 2008 + Office Professional Plus 2010 ベータ + Visual Studio 2010 ベータ

1.3 必要コンポーネントのダウンロード

本自習書では、評価版の Server OS と SQL Server を使用します。あらかじめダウンロードし、必要であれば DVD への書き込みを行います。

1. マイクロソフト ダウンロードセンターから Windows Server 2008 R2 180 日評価版をダウンロードします。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=ba571339-5436-4cf5-9c37-6ed7dab6f781&DisplayLang=ja>

ISO イメージで用意されているため、そのまま DVD 書き込みソフトウェア等を使用し、OS インストールディスクを作成します。

2. マイクロソフト ダウンロードセンターから SQL Server 2008 Enterprise Evaluation: IT プロフェッショナル用トライアル版をダウンロードします。(64 ビット版のダウンロード)

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=265f08bc-1874-4c81-83d8-0d48dbce6297&DisplayLang=ja>

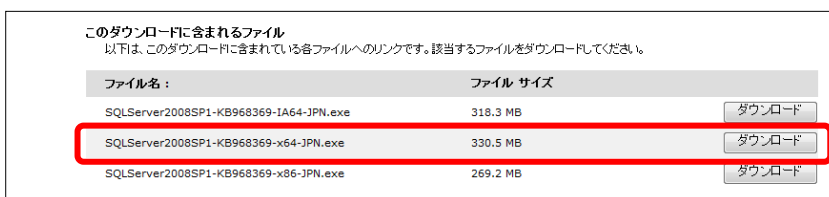
ISO イメージと自己解凍形式の実行可能ファイルの 2 種類が用意されていますが、自習書では **x64 自己解凍形式** をダウンロードして使用します。



3. マイクロソフト ダウンロードセンターから SQL Server 2008 SP1 をダウンロードします。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=66AB3DBB-BF3E-4F46-9559-CCC6A4F9DC19&displaylang=ja>

64 ビット版の **SQLServer2008SP1-KB968369-x64-JPN.exe** を選択しダウンロードします。



4. SQL Server 2008 Service Pack 1 の累積的な更新プログラムパッケージ 2 をダウンロードします。

<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=165962&clid=0x411>

ページ左上のリンク [この技術情報に対応する修正プログラムのダウンロードのリスト] をクリックし、[マイクロソフト サービス アグリーメント] に同意します。



64 ビット版の修正プログラムを選択し、電子メールアドレスを記入して修正プログラム入手のリクエストを送信します。



送
信されてきた電子メールにあるダウンロードリンクから修正プログラムをダウンロードします。

5. KB976462 をダウンロードします。(Windows Server 2008 R2 を使用している場合のみ。Server 2008 は「メモ」を参照)
<http://connect.microsoft.com/VisualStudio/Downloads/DownloadDetails.aspx?DownloadID=23806>
 64 ビット版の [Windows6.1-KB976462-x64.msu] を選択し、単一のファイルをダウンロードします。
 Microsoft Connect サイトからダウンロード可能です。
 ※既にファイル転送マネージャ (FTM) がインストールされている環境では、FTM を使用してダウンロードしてもかまいません。

タイトル	KB976462	
リリース日	2009/11/18	
サイズ	10.91 MB	
バージョン	Hotfix	
カテゴリ	ビルド	
マイルストーン		
説明	FIX FOR: WCF: Sharepoint Shared Services Roll-up	

ファイルは、Windows 98SE 以降と互換性のある File Transfer Manager (FTM) を使用してダウンロードできます。FTM を使用すると、ファイルのグループのダウンロード、一時停止、および中断時のダウンロードの再開が可能になります。詳細については、File Transfer Manager の Web サイトを参照してください。

お近くのダウンロード サイト:
 アジア

ダウンロードしたファイル:

<input checked="" type="checkbox"/> ファイル名	ファイル サイズ	単一のファイルをダウンロードする
<input type="checkbox"/> Windows6.1-KB976462-ia64.msu	2.67 MB	ダウンロード
<input checked="" type="checkbox"/> Windows6.1-KB976462-x64.msu	4.13 MB	ダウンロード
<input type="checkbox"/> Windows6.1-KB976462-x86.msu	4.11 MB	ダウンロード

ダウンロード FTM を使用中の選択されたファイル

メモ:

OS に Windows Server 2008 SP2 64 ビット版を使用する場合は、上記の KB976462 は必要ありません。代わりに KB 971831 (<http://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=160770&clcid=0x411>) (<https://connect.microsoft.com/VisualStudio/Downloads/DownloadDetails.aspx?DownloadID=21953>) をダウンロードします。どちらも WCF に関する修正プログラムになります。

6. マイクロソフト ダウンロードセンターから SharePoint 2010 ベータをダウンロードします。
<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=77c30c6c-47fc-416d-88e7-8122534b3f37&DisplayLang=ja>
 ダウンロードページに記載されている「プロダクトキー」を必ず控えておきます。
7. マイクロソフト ダウンロードセンター (英語) から Microsoft Office Web Apps (ベータ) をダウンロードします。
<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=en&FamilyID=27d81b1c-18ae-4983-8e1c-224bb747eb99>
 言語ごとのダウンロードリンクから直接日本語を選択します。
 日本語版: webapps¥14.0.4536.1000_WcServer_none_ship_x64_ja-jp_exe¥WcServer_ja-jp.exe

Files in This Download
The links in this section correspond to separate files available in this download. Download the files most appropriate for you.

File Name:	File Size	
webapps\14.0.4535.1000_WcServer_none_ship_x64_zh-cn_exe\WcServer_zh-cn.exe	263.2 MB	Download
webapps\14.0.4536.1000_WcServer_none_ship_x64_de-de_exe\WcServer_de-de.exe	179.9 MB	Download
webapps\14.0.4536.1000_WcServer_none_ship_x64_en-us_exe\WcServer_en-us.exe	177.8 MB	Download
webapps\14.0.4536.1000_WcServer_none_ship_x64_es-es_exe\WcServer_es-es.exe	183.9 MB	Download
webapps\14.0.4536.1000_WcServer_none_ship_x64_fr-fr_exe\WcServer_fr-fr.exe	179.8 MB	Download
webapps\14.0.4536.1000_WcServer_none_ship_x64_ja-jp_exe\WcServer_ja-jp.exe	203.9 MB	Download
webapps\14.0.4536.1000_WcServer_none_ship_x64_ru-ru_exe\WcServer_ru-ru.exe	179.2 MB	Download

インストールドキュメントをダウンロードします。(英語)

<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=166484&clcid=0x409>

ドキュメント内に、Office Web Apps インストール時に必要となる「プロダクトキー」が記載されています。

8. マイクロソフトダウンロードセンターから 開発環境 (Visual Studio 2010) をインストールする場合に必要な追加モジュール ADO.NET Data Services version 1.5 CTP2 をダウンロードしインストールします。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=a71060eb-454e-4475-81a6-e9552b1034fc>

Files in This Download
The links in this section correspond to separate files available in this download. Download the files most appropriate for you.

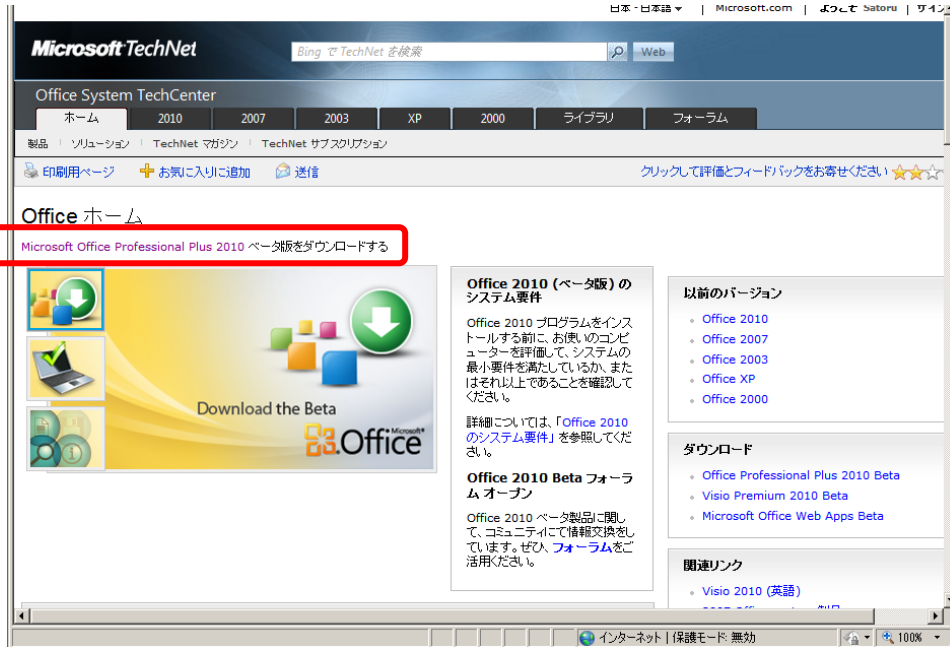
File Name:	File Size	
ADONETDataServices_v15_CTP2.exe	3.2 MB	Download
ADONETDataServices_v15_CTP2_RuntimeOnly.exe	3.2 MB	Download
DataServicesCTP2Reference.chm	2.3 MB	Download
Readme.txt	10 KB	Download

[↑ Top of page](#)

9. Microsoft Office Professional Plus 2010 ベータ版を Microsoft TechNet サイトからダウンロードします。

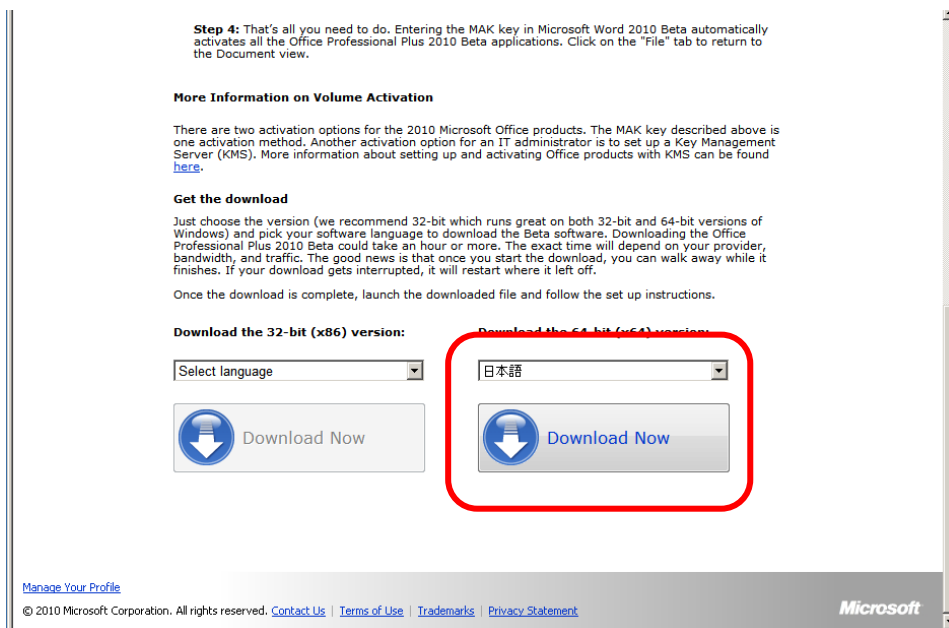
<http://technet.microsoft.com/ja-jp/office/default.aspx>

Live ID を使用し、ユーザー登録後、プロダクトキーとダウンロードリンクが発行されます。プロダクトキーを忘れずにメモもしくは印刷し、ダウンロードマネージャを使用してダウンロードを開始します。



英語のページですが、ダウンロードプロダクトの言語を選択することができます。

また、32 ビット版か 64 ビット版を選択することができます。64 ビット版のサーバーにインストールするときでも、32 ビット版を選択することもできますし、64 ビットネイティブで動作する新しい 64 ビット版を使用することも可能です。



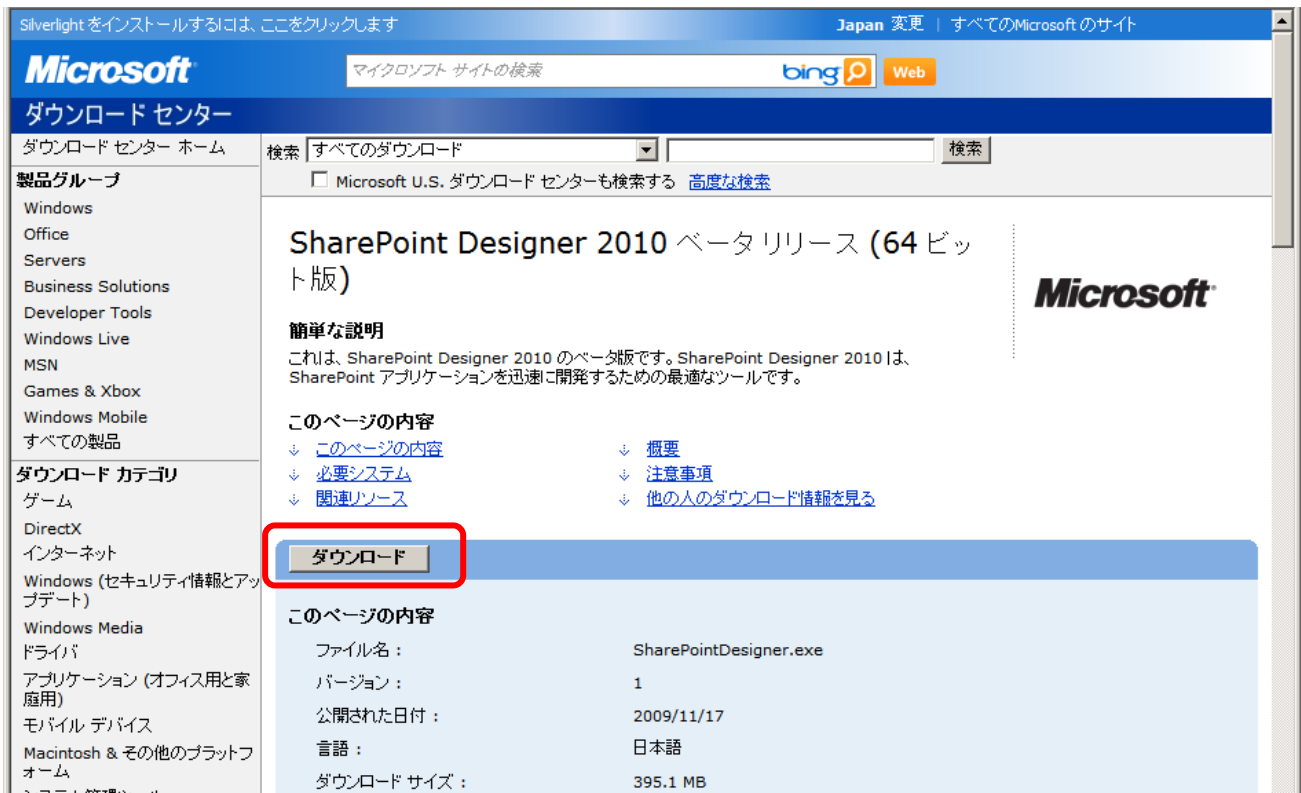
10. Office SharePoint Designer 2010 ベータ版をマイクロソフトダウンロードセンターからダウンロードします。

32 ビット版:

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=82DF15BD-16A5-460E-A7C4-22599C669BB1&displaylang=ja>

64 ビット版:

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=EEDA9AB1-AC53-4870-9E1C-38940343D677&displaylang=ja>



メモ:

Microsoft Office Professional Plus 2010 のバージョンと必ず一致させる必要があります。32 ビット版をダウンロードした場合は、SharePoint Designer 2010 も 32 ビット版をダウンロードし使用してください。プロダクトごとに 32 ビット版と 64 ビット版を混在させることはできません。

11. (オプション) Microsoft Office Visio Premium 2010 ベータを Microsoft TechNet サイトからダウンロードします。

<http://technet.microsoft.com/en-us/evalcenter/ee390821.aspx>

Visio 2010 もユーザー登録後、プロダクトキーが発行されます。メモもしくは印刷後、ダウンロードしインストールします。

必ず Microsoft Office Professional Plus 2010 のバージョンに合わせ、32 ビット版か、64 ビット版を選択してください。

12. (オプション) Microsoft Visual Studio 2010 Ultimate ベータ 2 をダウンロードします。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=dc333ac8-596d-41e3-ba6c-84264e761b81>

4つのファイルをダウンロードし、.exe形式のファイルを実行すると、4つのファイルが結合され、ひとつのISO形式のファイルが作成されます。ISOファイルをDVDなどのメディアに書き込みます。

このダウンロードに含まれるファイル

以下は、このダウンロードに含まれている各ファイルへのリンクです。該当するファイルをダウンロードしてください。

ファイル名:	ファイル サイズ	
VS2010B2Ult-JPN.part1.exe	700.0 MB	<input type="button" value="ダウンロード"/>
VS2010B2Ult-JPN.part2.rar	700.0 MB	<input type="button" value="ダウンロード"/>
VS2010B2Ult-JPN.part3.rar	700.0 MB	<input type="button" value="ダウンロード"/>
VS2010B2Ult-JPN.part4.rar	356.0 MB	<input type="button" value="ダウンロード"/>

メモ:

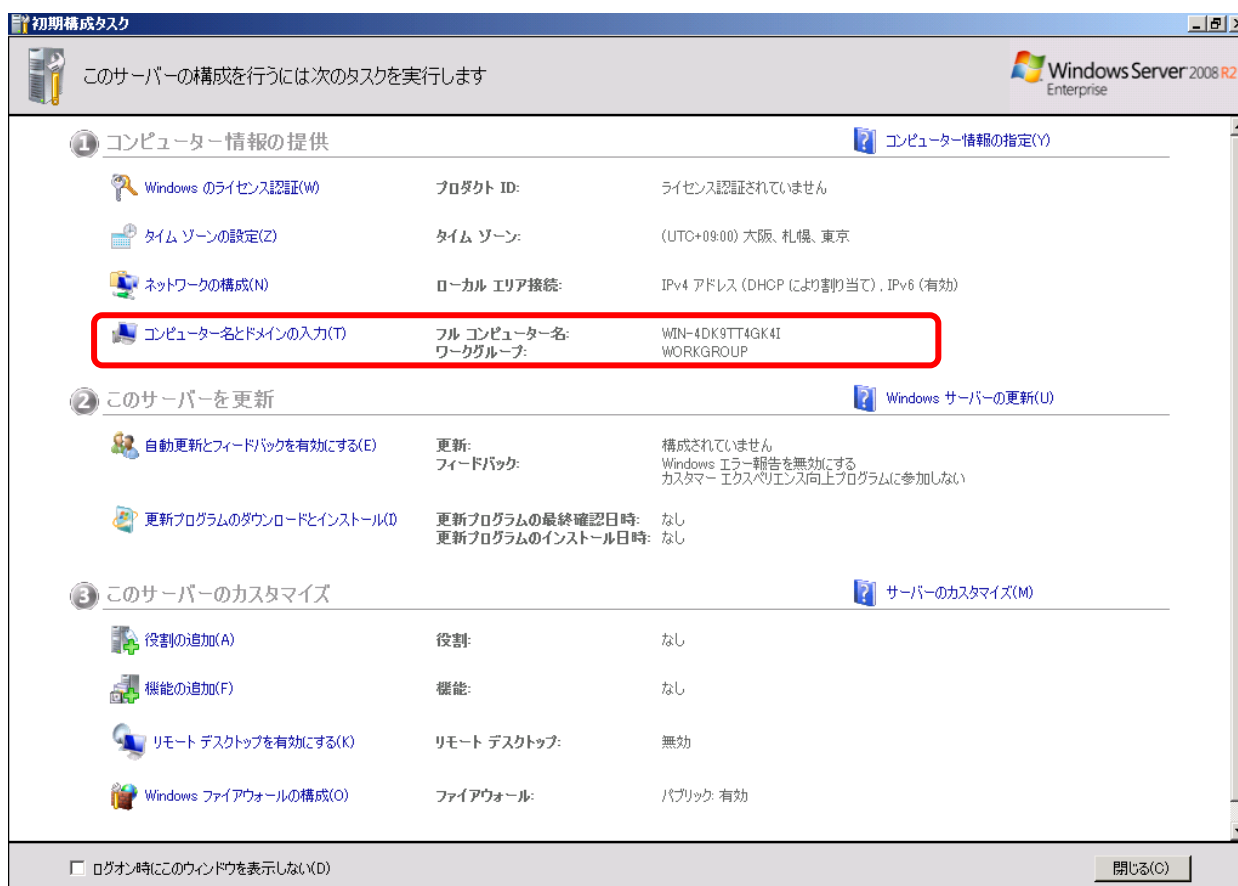
ここまでで SharePoint Server 2010 ベータをインストールするために必要な修正プログラムは以上で揃いましたが、PrerequisiteInstaller.exe 実行が終了するまでは引き続きインターネットに接続された環境が必要です。

1.4 インストール サーバー OS の準備

180 日評価版の Windows Server 2008 R2 をインストールします。OS インストールはサーバー環境により 20 分から 1 時間程度時間がかかります。

OS のインストールが終了したら、評価環境を作成するために次の作業を行います。なお、構築する環境は評価環境であり、運用環境を想定したものではありません。

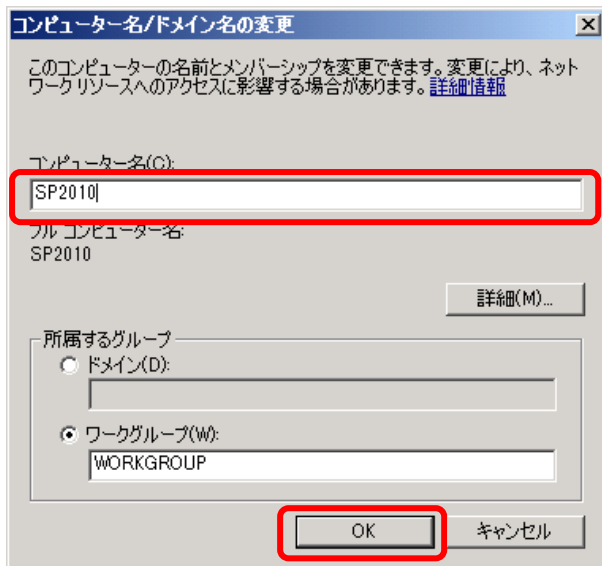
1. OS インストールが完了すると [初期構成タスク] 画面が展開されます。



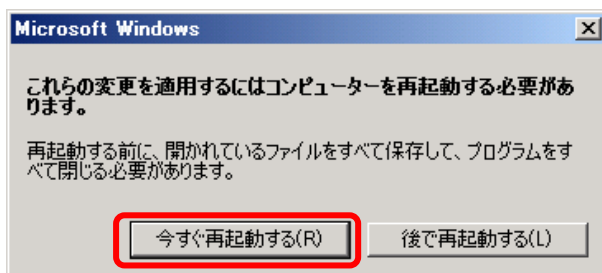
2. ダッシュボードの上位項目から順番に必要な構成タスクを行っていきます。

Windows のライセンス認証	今は行わない
タイムゾーンの設定	既定
ネットワークの構成	今は行わない
コンピューター名とドメインの入力	行う（手順3を参照:コンピューター名は SP2010）

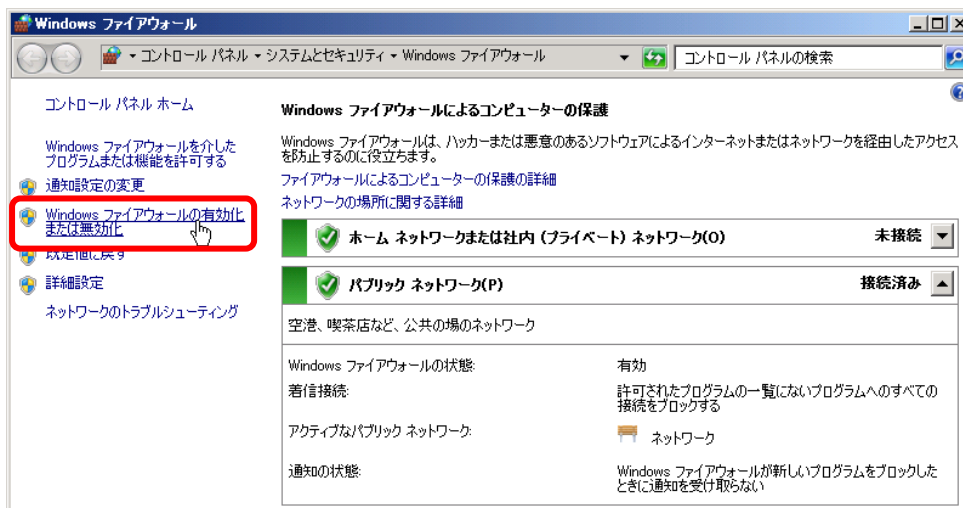
3. [コンピューター名の変更とドメインの入力] をクリックし、コンピューター名を入力します。
本自習書ではコンピューター名を“SP2010”とします。



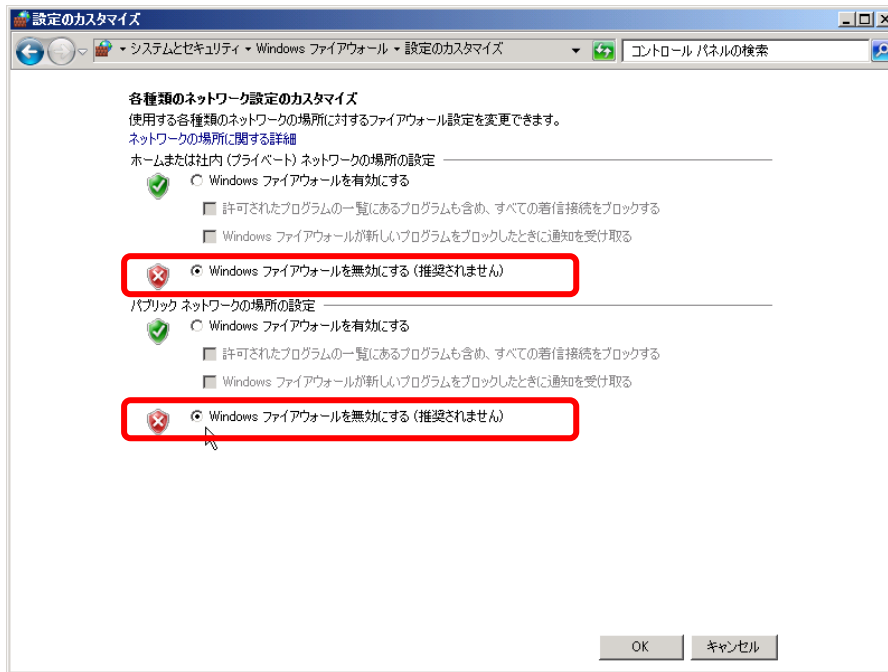
新しいコンピューター名を入力後、再起動が求められるので指示に従って[今すぐ再起動する] を選択します。



4. 再起動後、[初期構成タスク] 画面から[Windows ファイアウォールの構成] をクリックし設定を行います。



左側のリンクから[Windows ファイアウォールの有効化または無効化] をクリックし、ホーム、パブリック共にファイアウォールを無効にします。



メモ: (重要)

※今回の評価環境では迅速に環境を構築するためにファイアウォールをすべて無効にしますが、実際の運用環境ではファイアウォールを有効にし、適切な例外ルールを設けてください。

推奨されたファイアウォール設定を維持したまま、SQL Server を使用するのに必要なポート解放に関する情報は <http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/cc646023.aspx> で参照することができます。

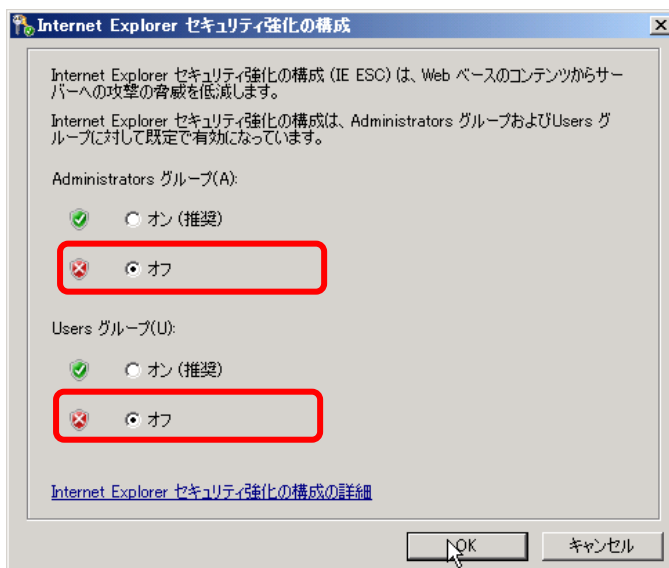
5. 初期構成タスクを終了します。この際、[ログオン時にこのウィンドウを表示しない] にチェックをいれておきます。



6. 初期構成タスクを終了すると、[サーバー マネージャー] が起動します。



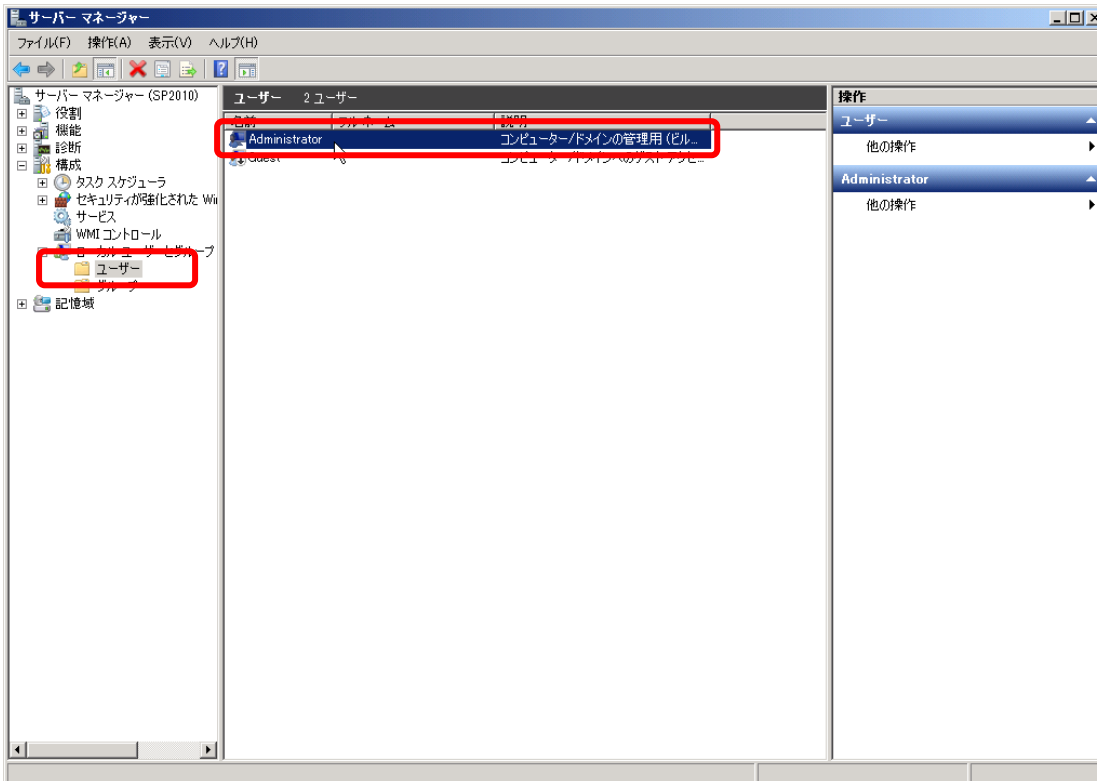
[セキュリティ情報] の欄で[IE セキュリティ強化の構成(ESC)] を構成します。左側のリンクから [IE ESC の構成] をクリックし、[Administrators グループ]、[Users グループ] 共に[オフ] にします。



7. (オプション手順)

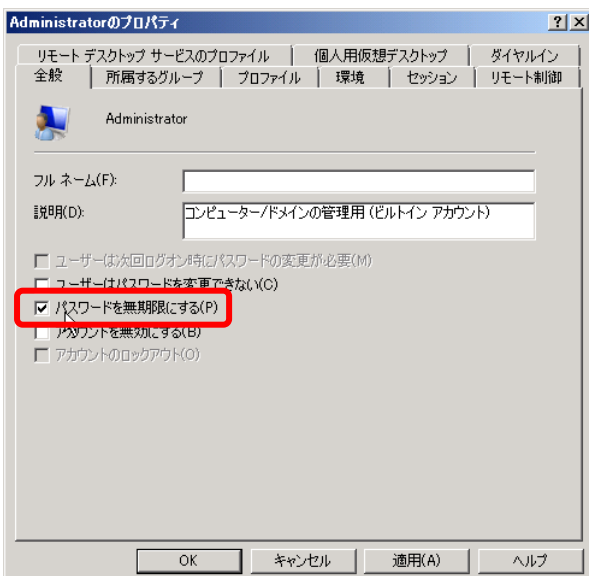
ローカルの Administrator のパスワードを無期限に設定します。Windows Server 2008 ではインストール直後にパスワードの設定を行っていますが、パスワードの期間が無制限になっていないため、既定のパスワードポリシーにより定期的なパスワードの変更が求められます。この動作はセキュリティの観点からは望まれた既定の動作です。

また、最終的にはドメインに参加し、ドメインユーザーを使用するため、この作業は必ずしも行っていただく必要はありませんが、ローカルアカウントに戻ってサーバー作業するときのことを考え、設定手法を記載します。



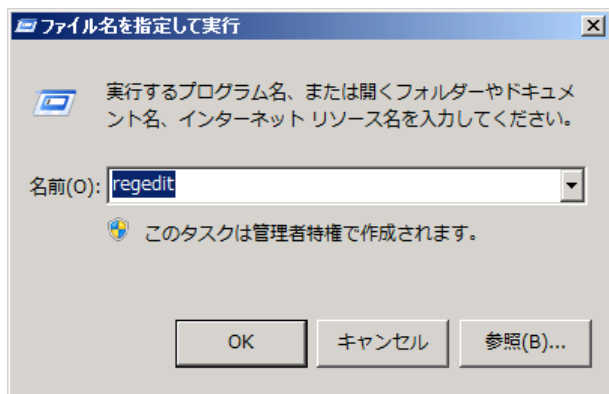
サーバーマネージャの左ペインで[構成] を展開し、[ユーザー] を開きます。[Administrator] ユーザーをダブルクリックし、プロパティを開きます。[パスワードを無期限にする] にチェックを入れ、[OK] をクリックします。

サーバーマネージャを一度終了します。

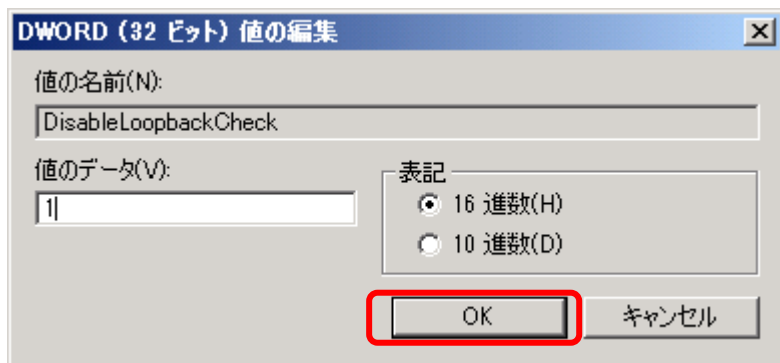
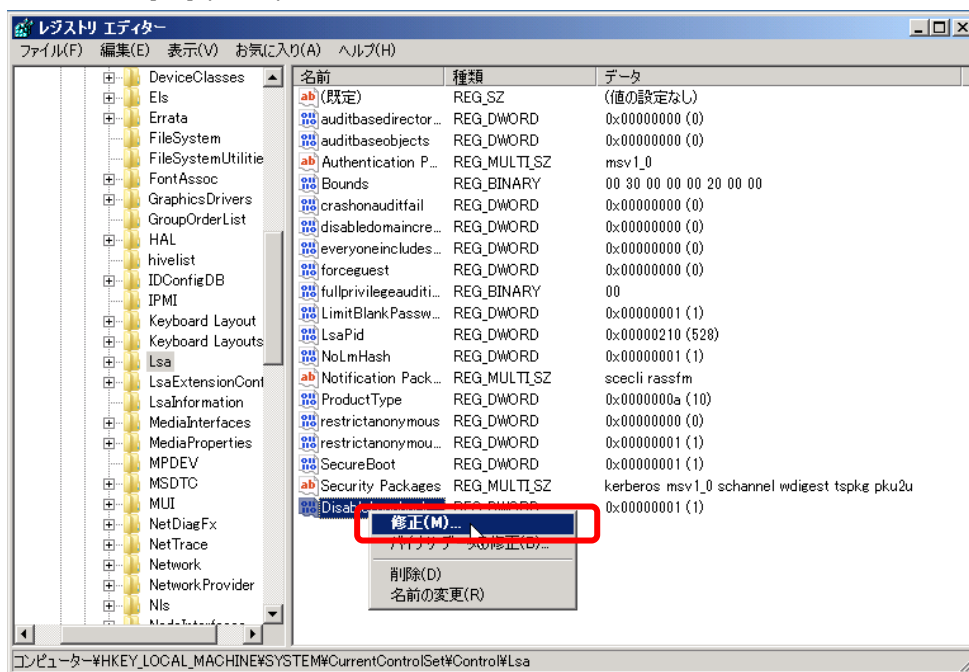


8. レジストリに DisableLoopbackCheck 値を追加します。

[スタート] から[プログラム名を指定して実行] をクリックし、[regedit] と入力しレジストリエディタを表示します。



HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Lsa に DisableLoopbackCheck の DWORD を作成し、値に[1] (16 進)を入力します。



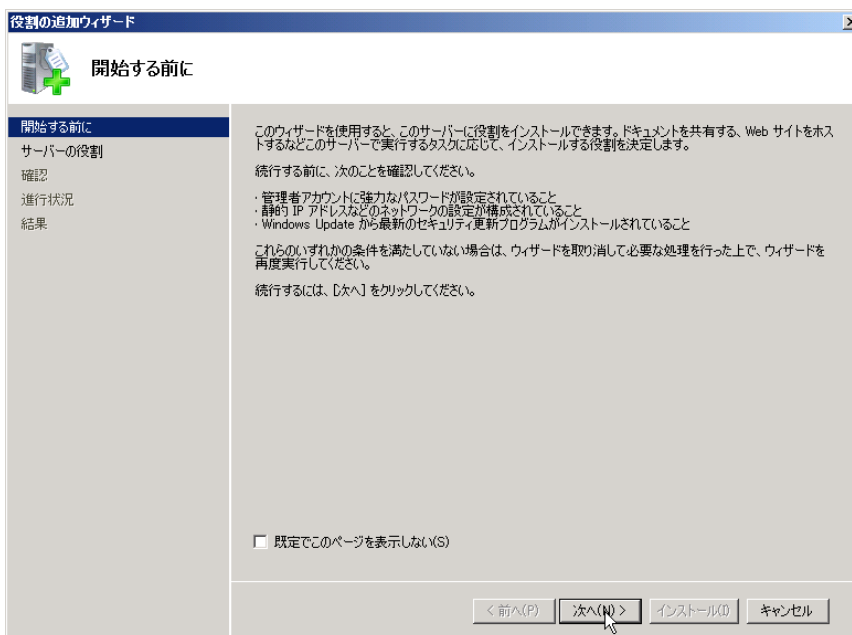
値を入力後、[OK] をクリックし編集を終了します。

1.5 インストール サーバー OS の準備（必要な機能の追加）

1. サーバーの役割追加を行います。[スタート] から[管理] をクリックし、[サーバー マネージャー] をクリックします。
[機能の追加] をクリックします。

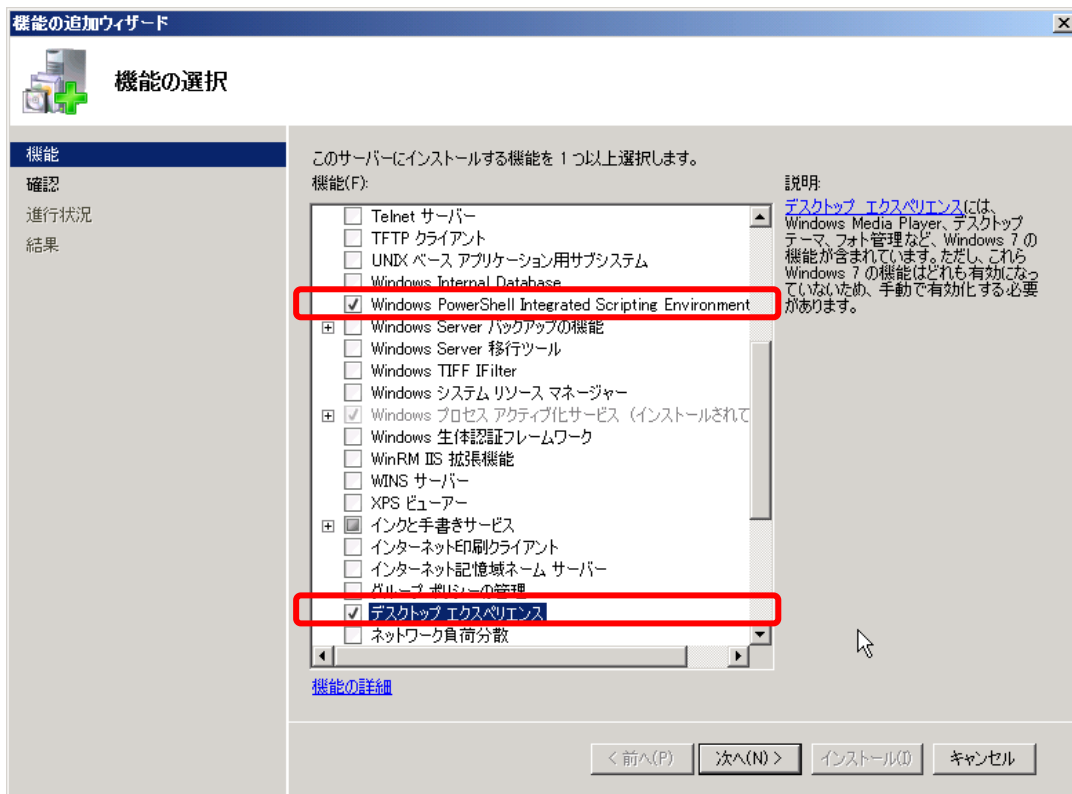


[機能の追加ウィザード] ウィンドウが開きます。[次へ] をクリックします。



機能の追加では、以下の2つの役割を追加します。

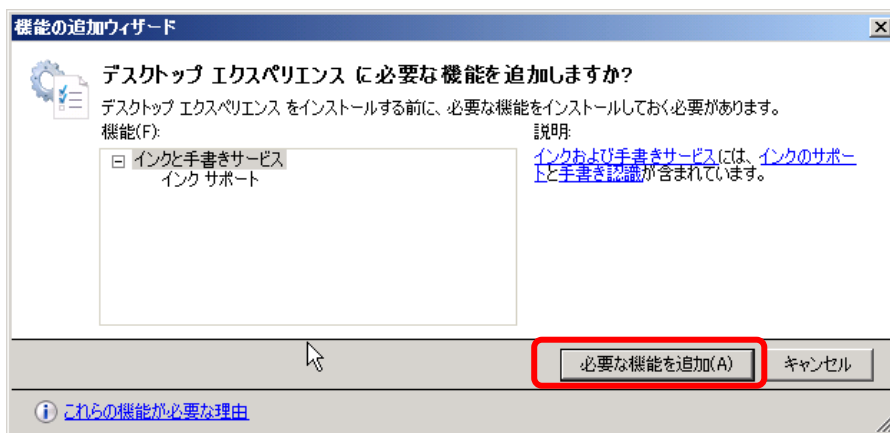
- ・Windows PowerShell Integrated Scripting Environment (ISE)
- ・デスクトップ エクスペリエンス



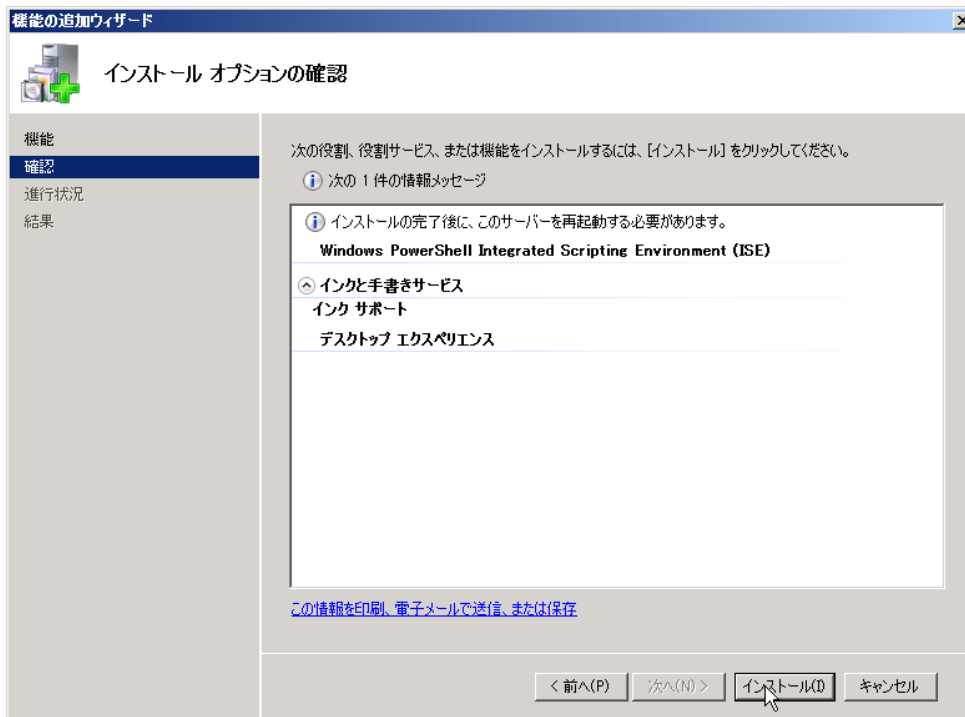
チェックボックスを選択すると、それぞれの「機能」を実行させるのに必要な追加コンポーネントが表示されます。

- ・.NET Framework 3.5
- ・インクと手書きサービス

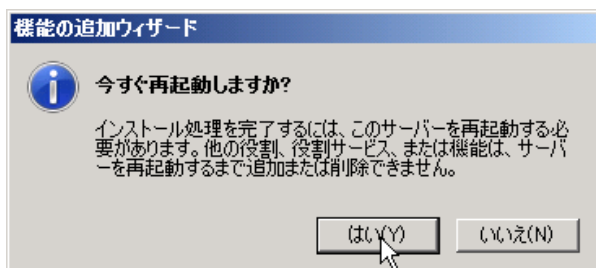
[必要な機能を追加] をクリックします。



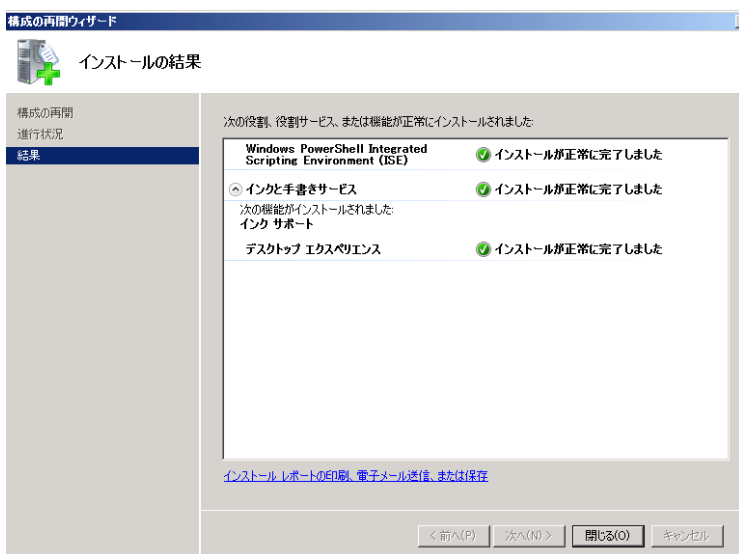
インストールオプションの確認をし、[インストール] をクリックします。



インストール後はサーバーの再起動が必要となります。再起動が求められたら、[はい] をクリックします。



再起動後、インストールが正常に完了していることを確認し、[閉じる] をクリックします。

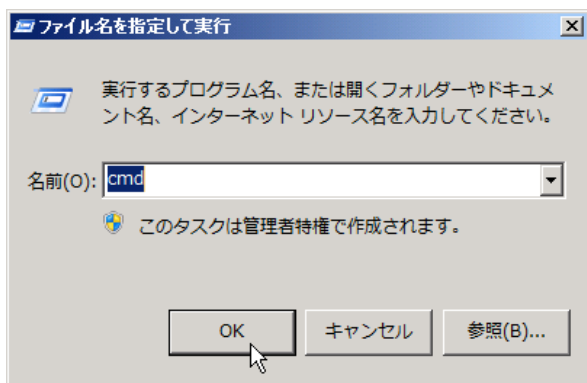


2. SharePoint Server 2010 PrerequisiteInstaller.exe Installer（事前準備ツール）の実行環境を整えます。
ダウンロードした SharePoint Server 2010 ファイルを解凍します。

メモ:

ダウンロードした SharePoint Server 2010 ファイルは、Exe 形式の実行ファイルになっており、そのまま実行して SharePoint のインストールを完了することができますが、本手順書では SharePoint インストール前の準備ツールの実行（インターネット接続が必要）、ドメイン参加、SQL Server のインストール、SharePoint Server 2010 プログラムのインストールと手順を踏むため、そのまま SharePoint Server 2010 のプログラムを実行せずに解凍し、ステップ バイ ステップで進めます。

[スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。「cmd」と入力し、[OK] をクリックします。



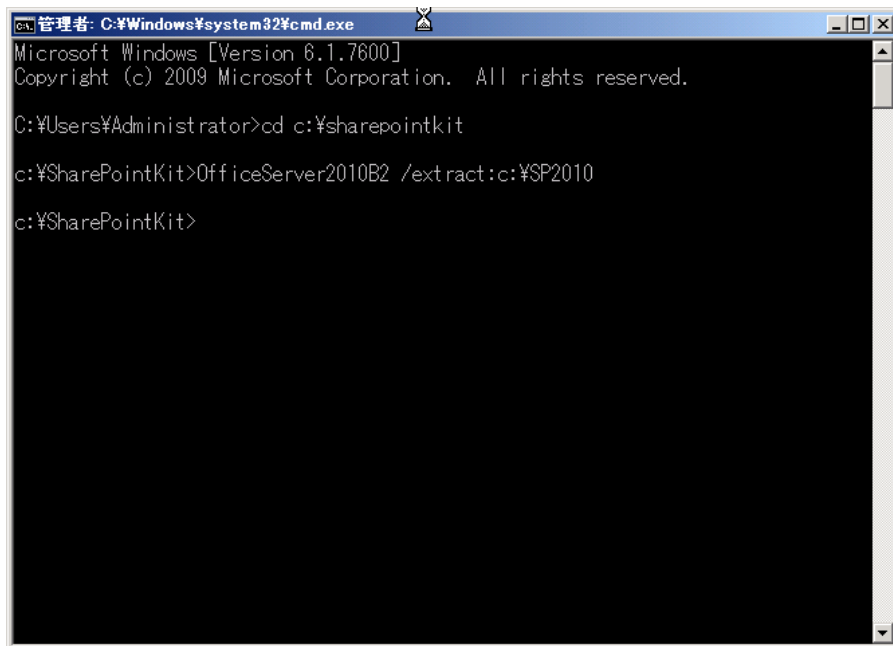
コマンドプロンプトが開きます。/EXTRACT コマンドを使用して解凍します。

EXTRACT コマンドの書式:

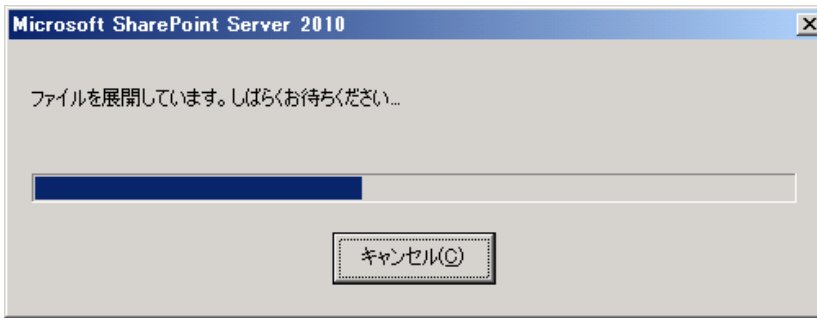
[ファイルの場所] [ファイル名] /extract:[解凍先フォルダの指定]

例: C:¥OfficeServer2010B2.exe /extract:c:¥SP2010

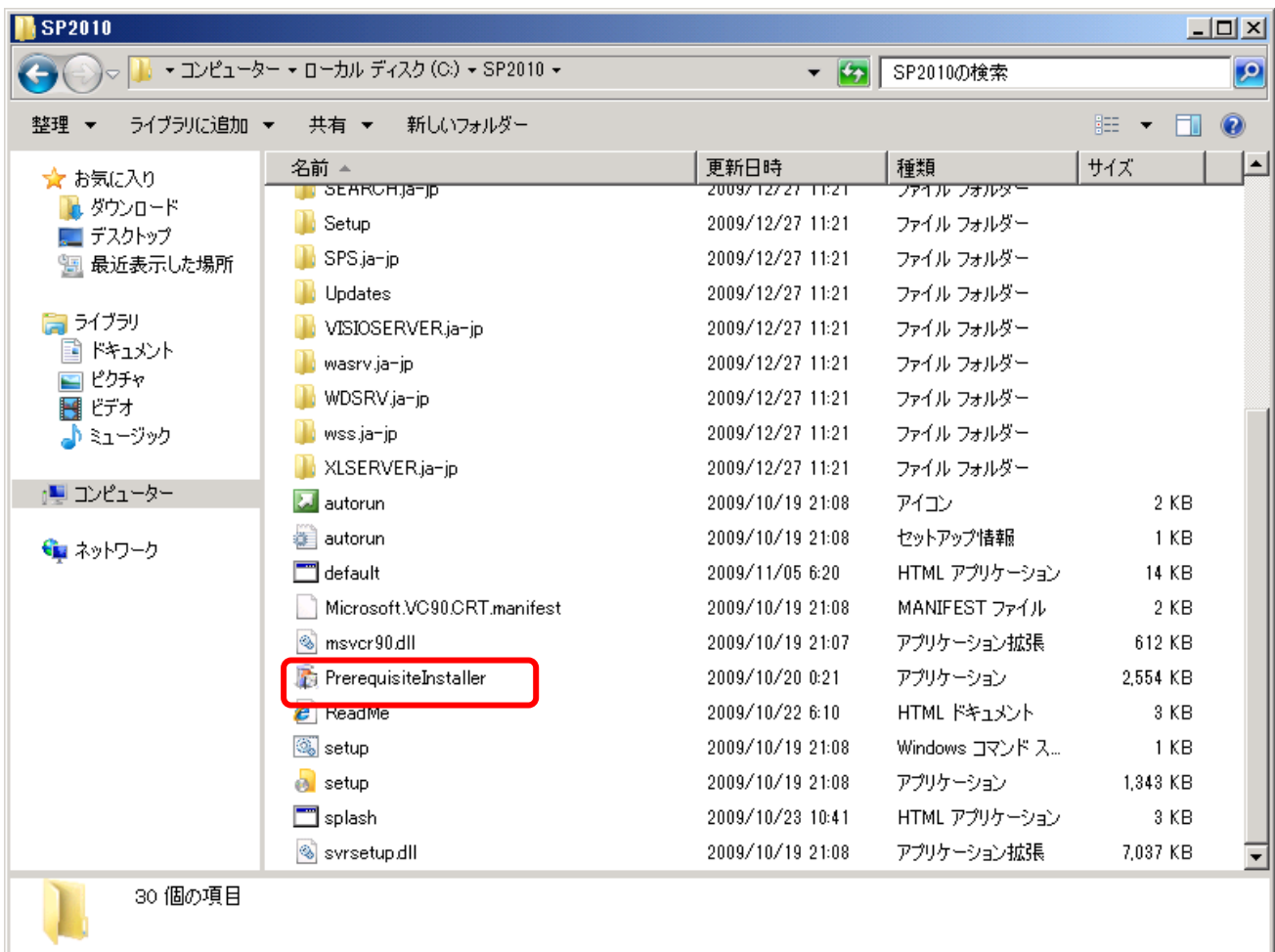
(C ドライブの直下にある SharePoint プログラムを C ドライブの「SP2010」という名前のフォルダに解凍)



解凍が始まります。



解凍が終了したら [OK] をクリックし、解凍先に指定したフォルダを確認します。



メモ:

OfficeServer2010B2.exe をそのまま実行し、サーバーの準備を行うこともできますが、OfficeServer2010B2.exe は実行する度に「解凍」作業が行われるため、上記のように一度あらかじめ解凍しておくことをお勧めいたします。

3. PrerequisiteInstaller.exe（事前準備ツール）を実行します。

解凍したフォルダにある PrerequisiteInstaller.exe をダブルクリックし実行します。

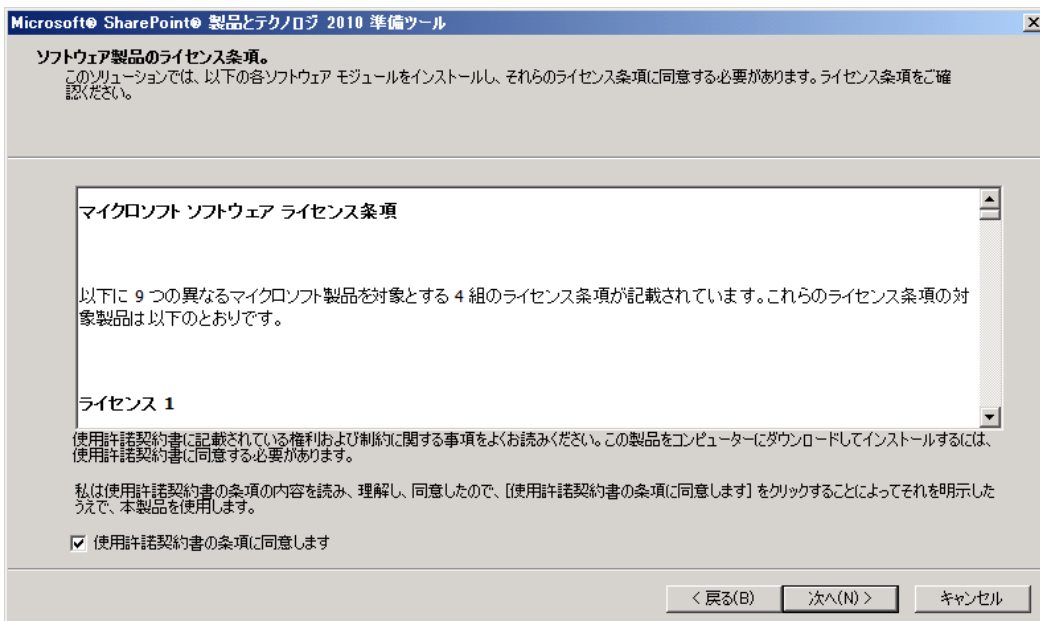
「Microsoft SharePoint 製品とテクノロジー 2010 準備ツールへようこそ」ダイアログボックスが開きます。

インターネットに接続されていることを確認し、[次へ] をクリックします。

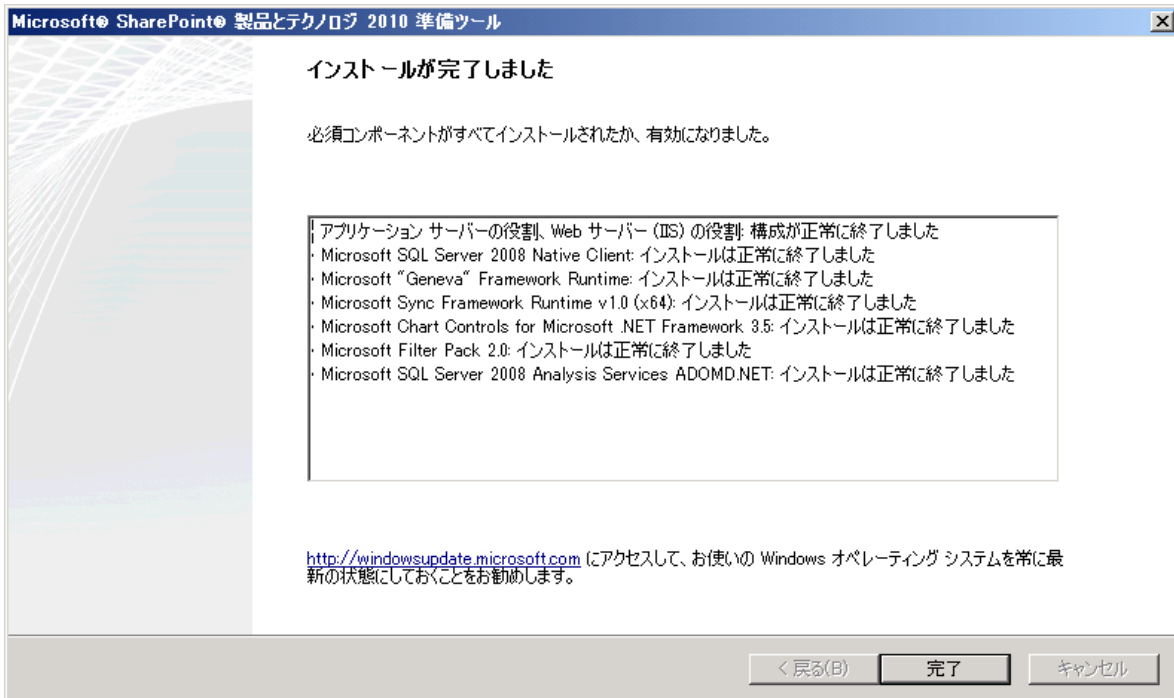


準備ツールを実行することにより、IIS の構成、アプリケーション サーバーの役割構成、必要なコンポーネントのダウンロードとインストールが行われます。

「使用許諾契約書の条項に同意します」にチェックを入れ、[次へ] をクリックします。



インストールが完了したら、必須コンポーネントの構成とインストールが正常に終了したことを確認し [完了] をクリックします。



メモ:

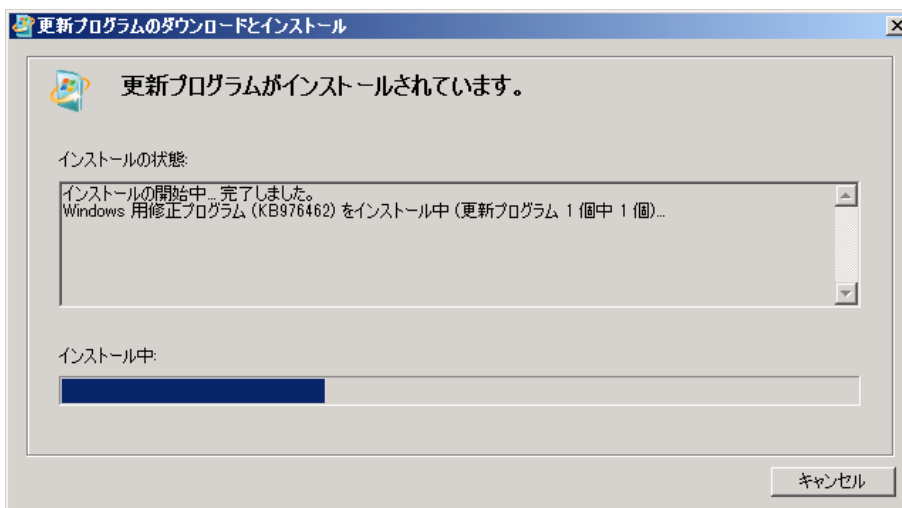
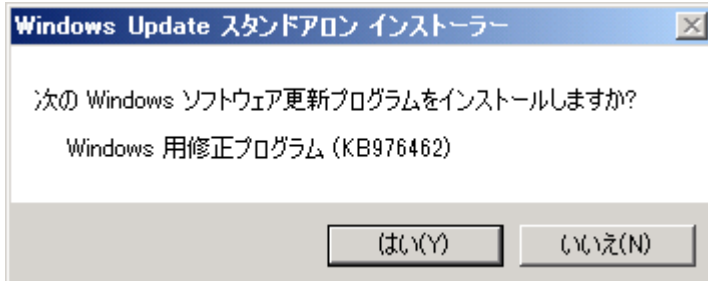
インストールが正常に終了していない場合は、インターネット接続を確認してください。

なお、インターネットに接続できない環境の場合は、必須コンポーネントを個別にダウンロードし、手動でインストールすることにより、SharePoint Server 2010 をインストールする環境を準備することができます。

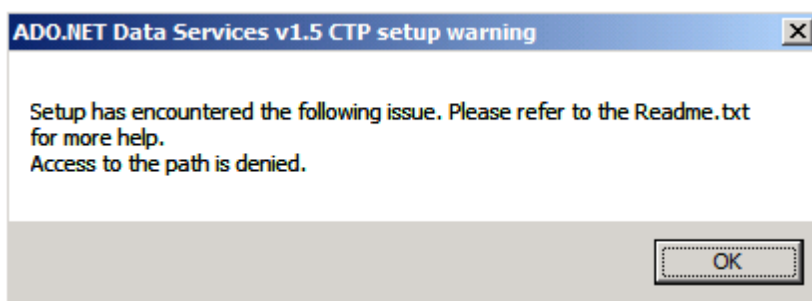
1.6 サーバーへ修正プログラムの適用

最初のステップでダウンロード済みの修正モジュールを適用します。修正プログラムの適用は必ず SharePoint Server 2010 の PrerequisiteInstaller.exe を実行した後に行ってください。

1. KB976462 を実行します。（Windows Server 2008 SP1 の場合は KB971831 を代わりに適用してください）ダウンロードした KB976462 修正プログラムをダブルクリックし、[はい] を選択しインストーラーを起動します。



2. ADONETDataServices_v15_CTP2.exe を実行します。修正プログラム適応中、以下のようなメッセージが出ますが、[OK] をクリックします。



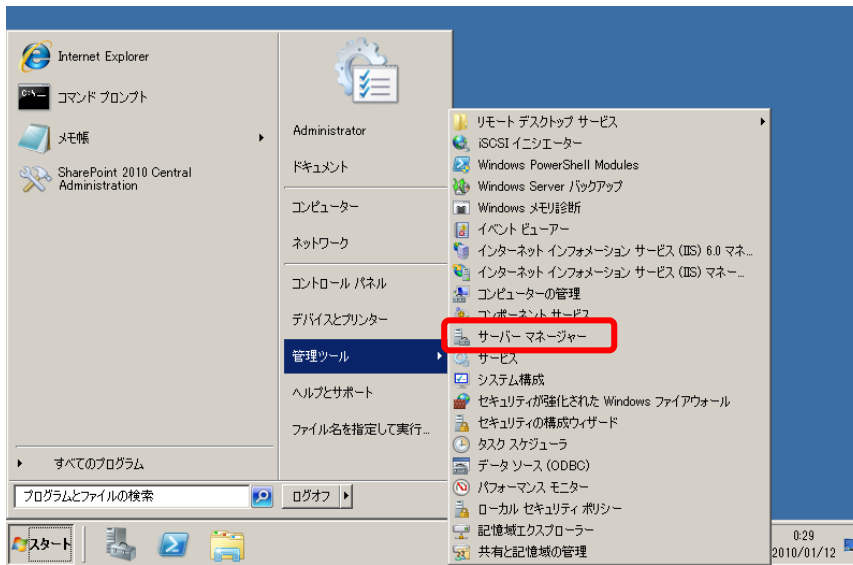
メモ： 上記ウィンドウが背面に表示されていることがありますので、タスクバーで確認をしてください。

1.7 ドメインに参加する

SharePoint Server 2010 をインストールするサーバーの事前準備(特にインターネット接続が必要な準備項目)が終了したら、サーバーに固定 IP アドレスを割り当て、ドメインへの参加、SQL Server のインストールと構成、そして SharePoint Server 2010 のインストールを行います。本自習書では Contoso というドメイン名を使用しています。

1. サーバーに固定 IP アドレスを設定します。

[スタート] をクリックし、[管理ツール] から[サーバー マネージャー] を選択します。



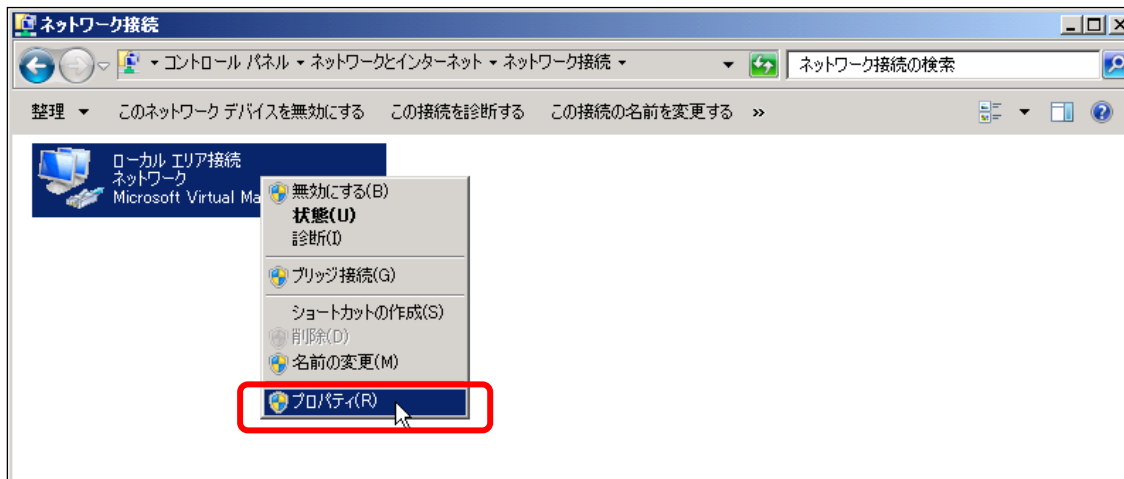
サーバー マネージャーの「サーバーの概要」から[ネットワーク接続の表示] をクリックします。



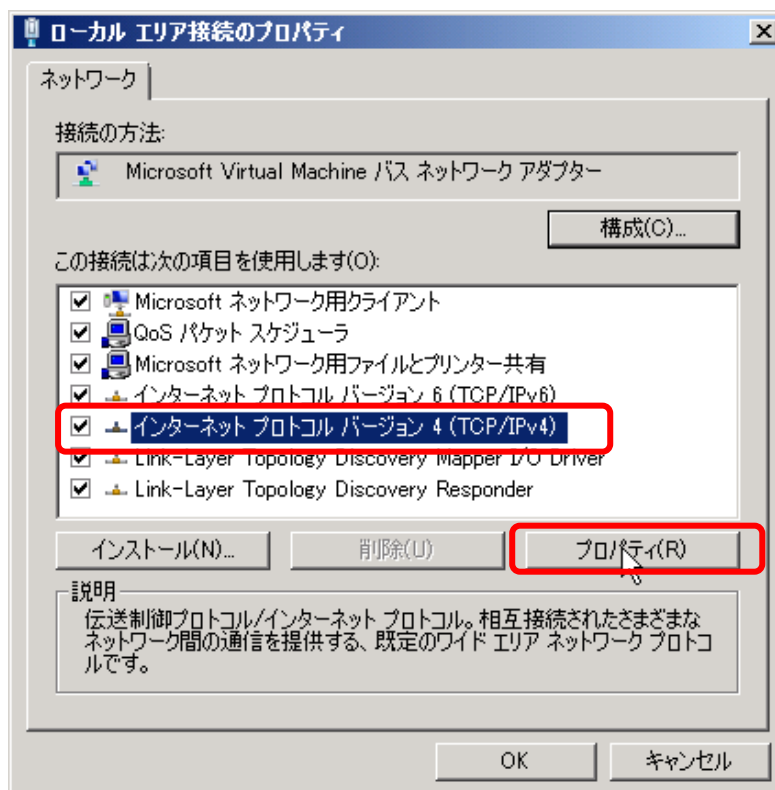
ネットワーク接続のウィンドウで、現在有効になっているネットワークデバイスを選択し、右クリックメニューから [プロパティ] を選択します。

メモ:

本自習書の例では「ローカルエリア接続」が有効なネットワークになります。ネットワークカードの枚数によって、表示されるローカルエリア接続の数は異なります。



[プロパティ] で[インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)]を選択し、[プロパティ] をクリックします。



[次の IP アドレスを使う] を選択し、IP アドレスを入力します。同じように[次の DNS サーバーのアドレスを使う]を選択し、DNS サーバーを指定します。

本自習書では下記のように設定します。

IP アドレス	192.168.1.110
サブネットマスク	255.255.255.0
優先 DNS サーバー	192.168.1.100

インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ

全般

ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

IP アドレスを自動的に取得する(O)

次の IP アドレスを使う(S):

IP アドレス(I): 192 . 168 . 1 . 110

サブネット マスク(L): 255 . 255 . 255 . 0

デフォルト ゲートウェイ(D): . . .

DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)

次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):

優先 DNS サーバー(P): 192 . 168 . 1 . 100

代替 DNS サーバー(A): . . .

終了時に設定を検証する(L)

詳細設定(V)...

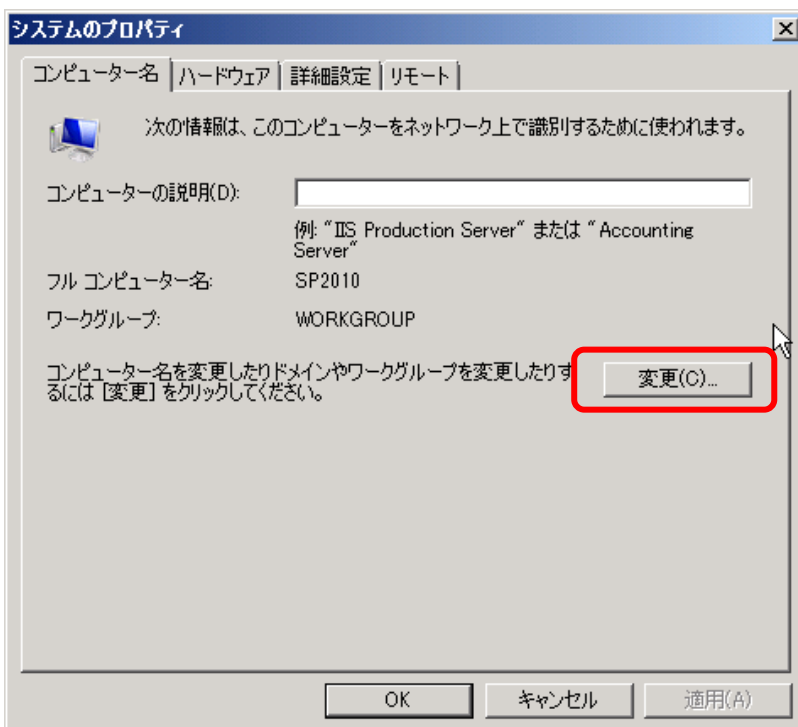
OK キャンセル

2. ドメインに参加します。

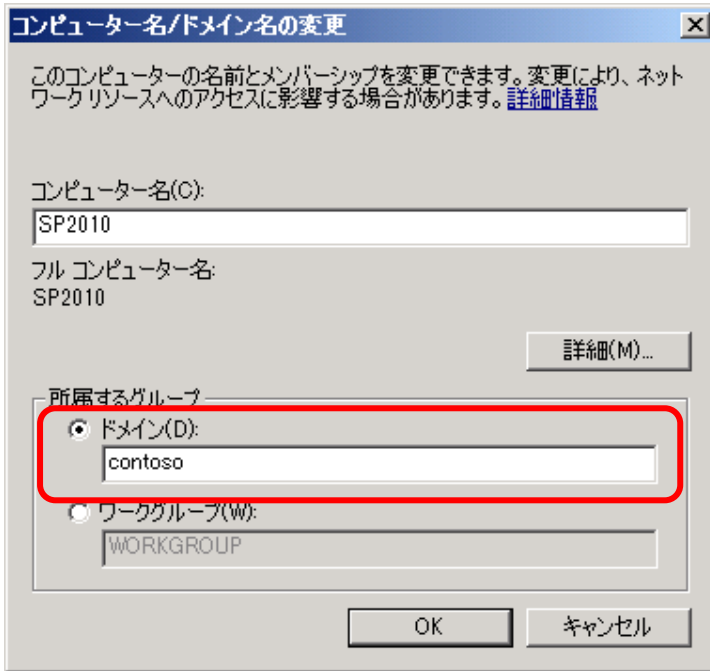
サーバー マネージャーから[システム プロパティの変更]をクリックします。



[システムのプロパティ] ダイアログの[変更]をクリックします。



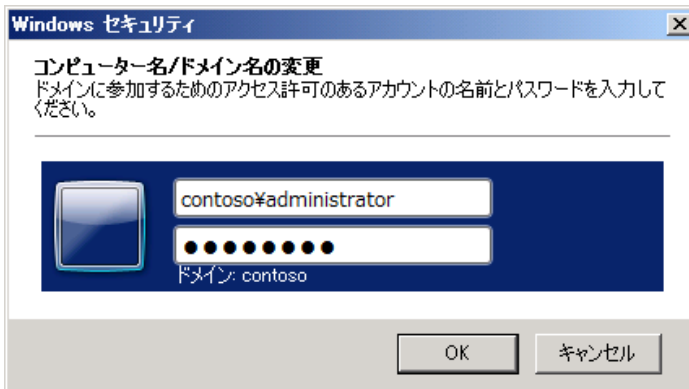
[所属するグループ] で[ドメイン] を選択し、ドメイン名を入力します。本自習書では Contoso と入力します。



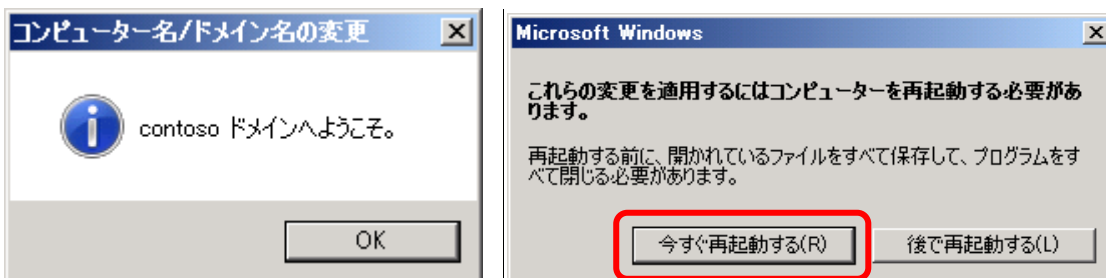
ドメイン参加に必要なアクセス許可があるアカウント名とパスワードを入力します。

本自習書では以下のように入力します。

- ・ユーザー名: contoso¥Administrator
- ・パスワード: P@ssw0rd



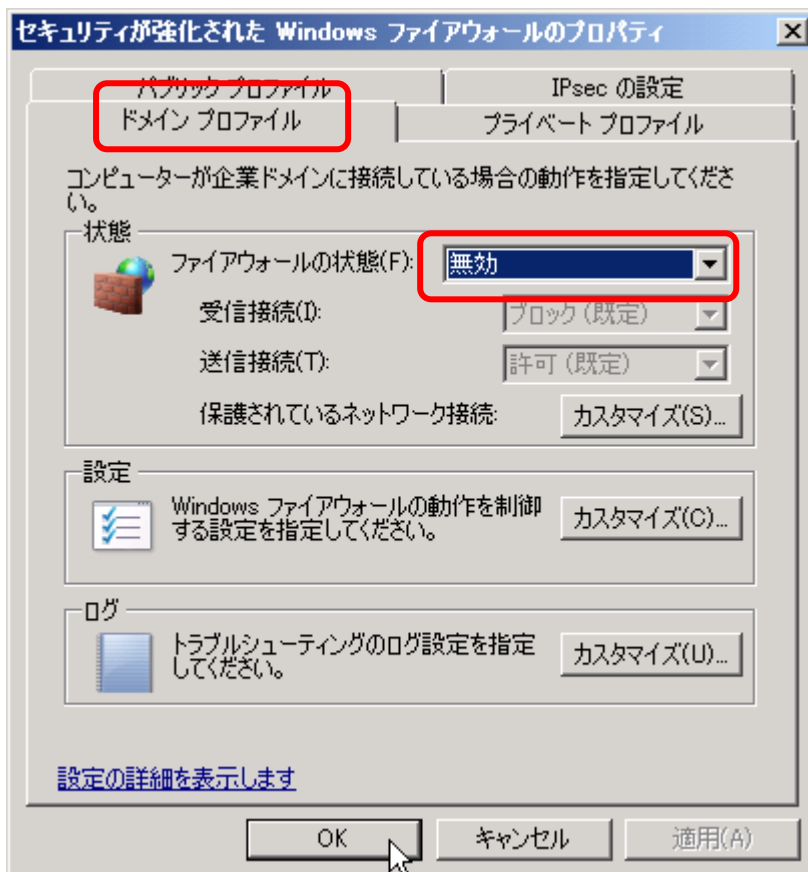
ドメインに参加した後、サーバーを再起動します。再起動後はローカルではなく、ドメインへログオンします。



3. ドメイン参加後、Windows ファイアウォールをもう一度確認します。

前述のステップですでに Windows ファイアウォールを無効にしていますが、ドメインに参加すると、ドメイン用のファイアウォールプロファイルが有効になります。

サーバー マネージャーを開き、[Windows ファイアウォール]の設定から、ドメインでの Windows ファイアウォールを無効にします。



メモ:

本自習書ではベータ版の評価環境を迅速に構築するために「無効」を選択していますが、運用環境では有効にした状態でサーバーを保護します。

1.8 SQL Server 2008 のインストール

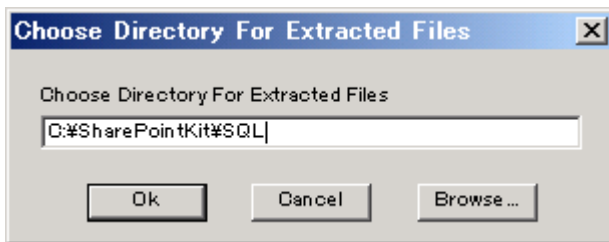
ドメインへ参加後、SQL Server 2008 をインストールし、構成します。SQL Server 2008 インストール後は SP1 と CU2 のアップデート適用が必要です。

1. マイクロソフトダウンロードセンターでダウンロードした試用版の SQL Server 2008 を使用します。試用版は ISO ではなく、実行型ファイルになっています。実行し、解凍する必要があります。

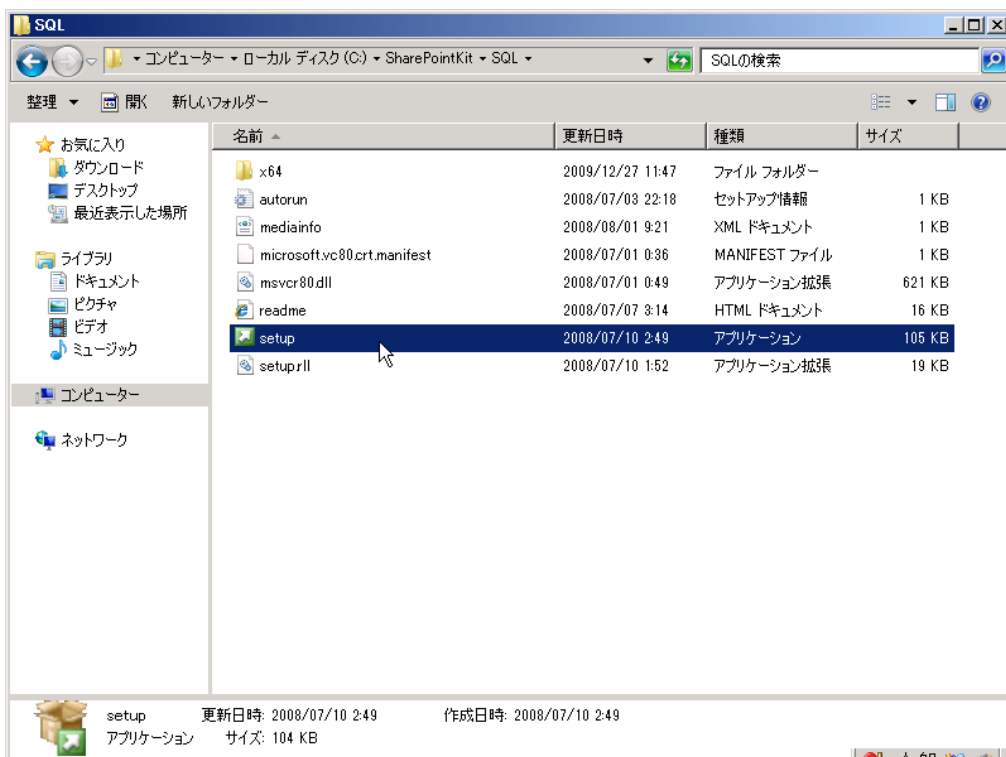
メモ:

ダウンロード仕様版ではなく製品版の SQL Server 2008 を使用することも可能です。その場合も同じように SP1、CU2 の適用が必要です。なお、Windows Server 2008 R2 に SQL Server 2008 をインストールしようとするとき「互換性のないプログラム」とインストール警告が出ますが、インストールを継続します。

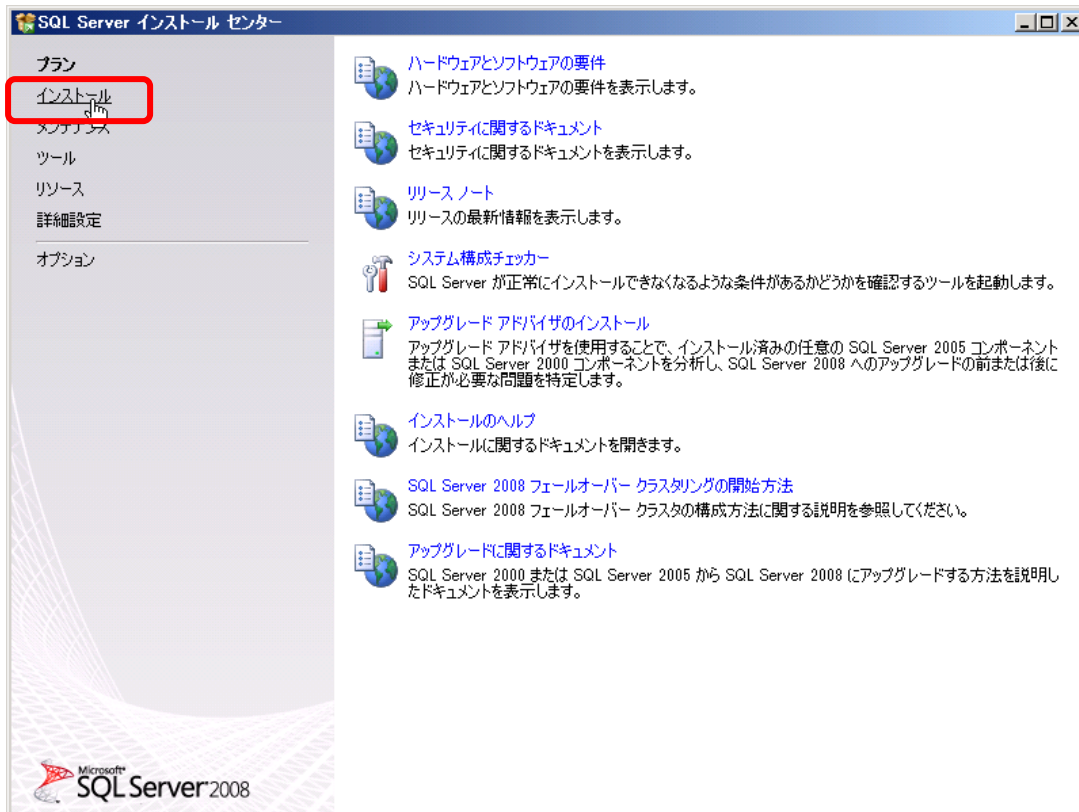
ダウンロードしたファイルをダブルクリックで実行します。解凍先を指定します。下記の例では「SQL」という名前のフォルダに解凍しています。



解凍後、指定したフォルダに正常に解凍されているか確認します。フォルダにある「setup.exe」をダブルクリックし、実行します。



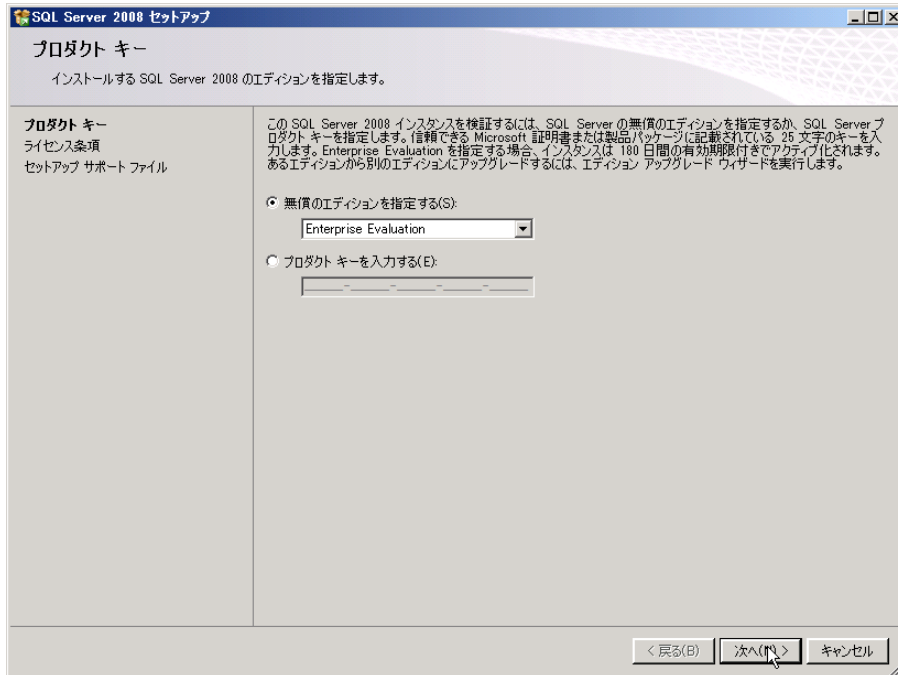
左ペインから[インストール] をクリックします。



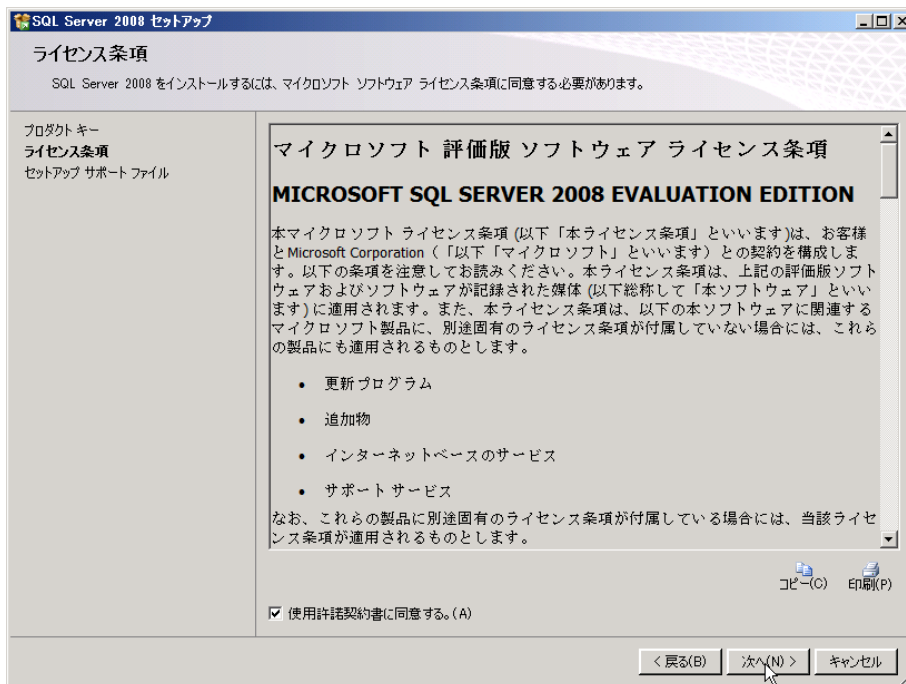
[SQL Server の新規スタンドアロン インストールまたは既存のインストールへの機能の追加] をクリックします。



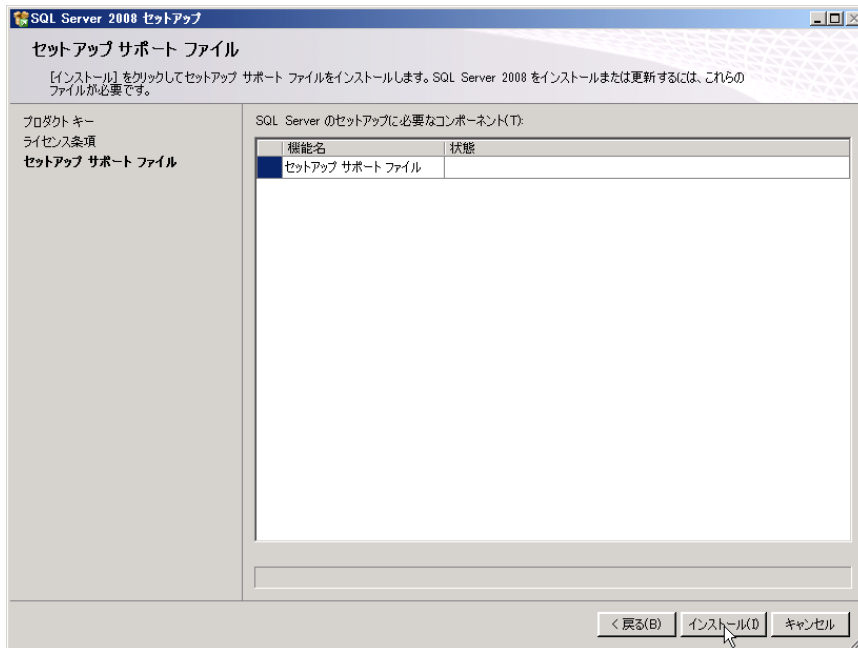
プロダクトキー画面では[無償のエディションを指定する] が既定で選択されているのを確認し、[次へ] をクリックします。



[使用許諾契約書に同意する] にチェックを入れ、[次へ] をクリックします。

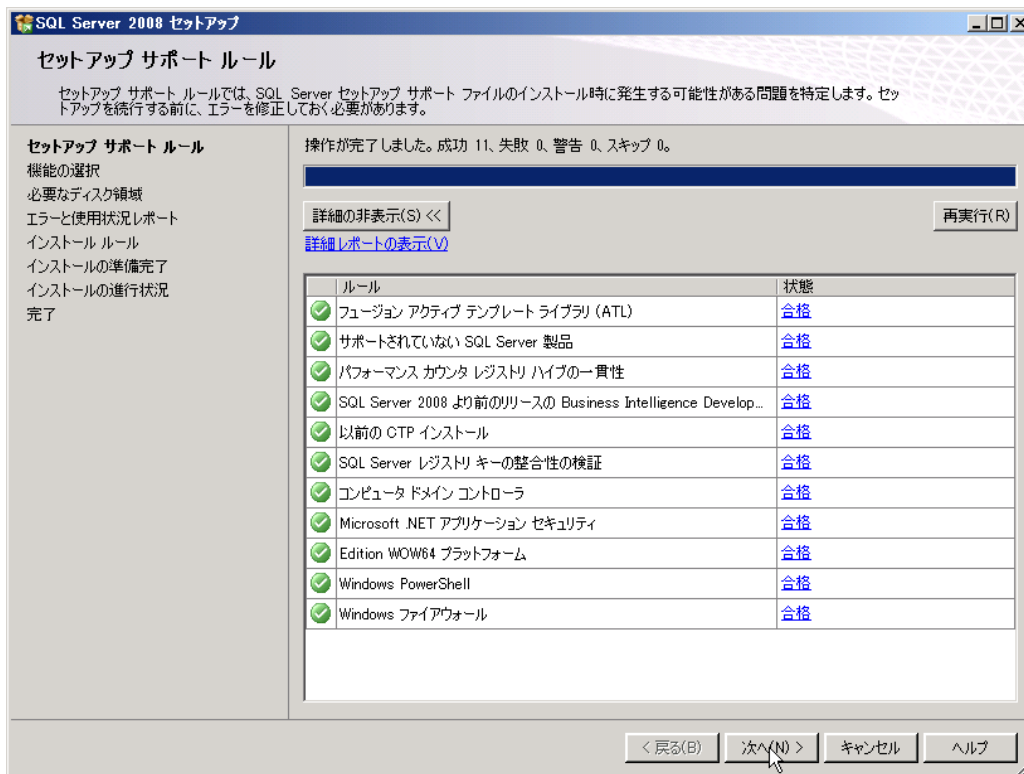


セットアップサポートファイルをインストールします。



一連のチェック項目状態が「合格」になっていることを確認します。

使用する SQL Server のメディアによっては「バージョンの警告」などが出る時がありますが、後に SQL Server 修正プログラムを適用するため問題ありません。「ファイアウォールに関する警告」が出た場合には、この評価環境では Windows ファイアウォールが無効になっているか確認してください。

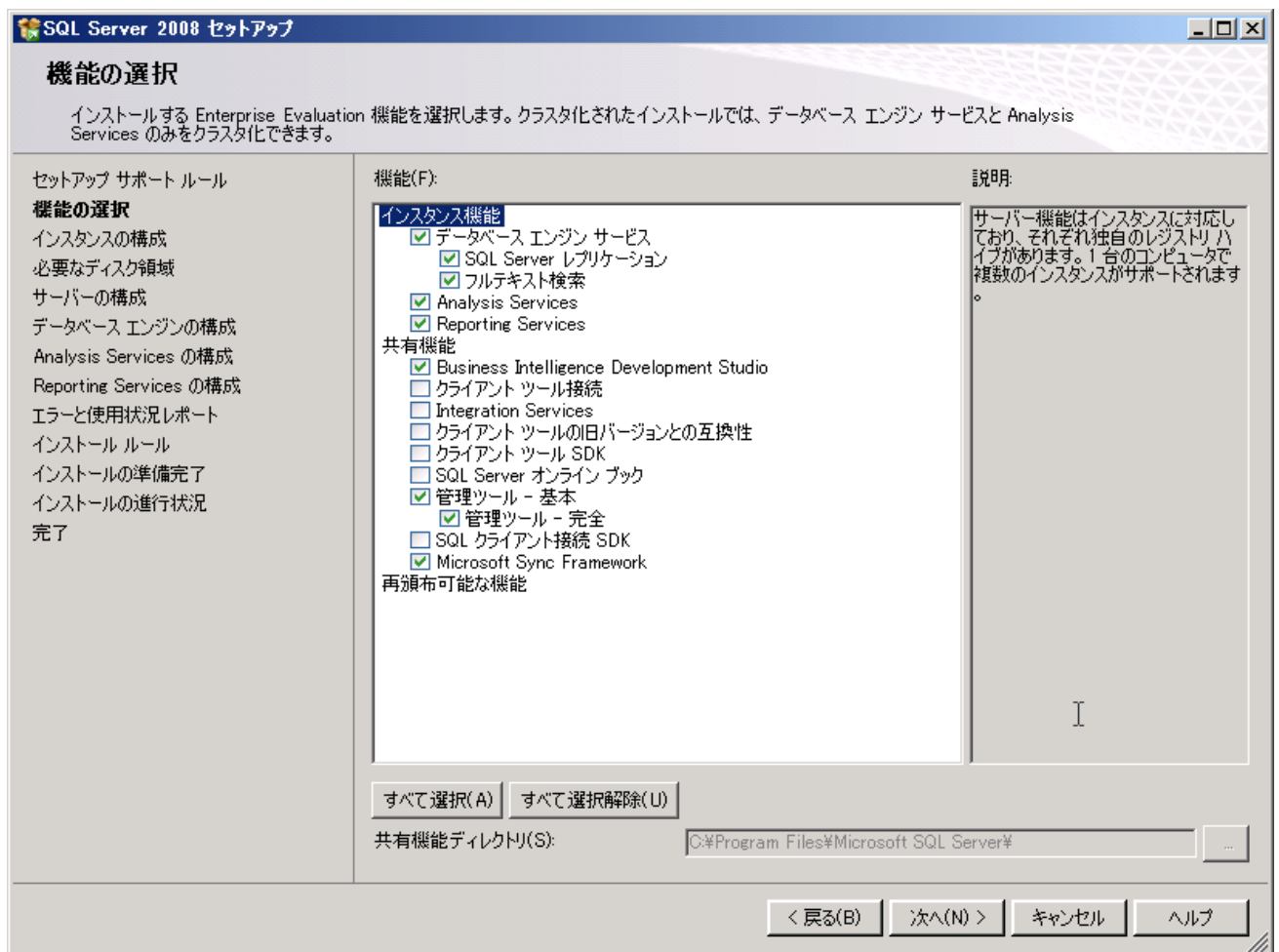


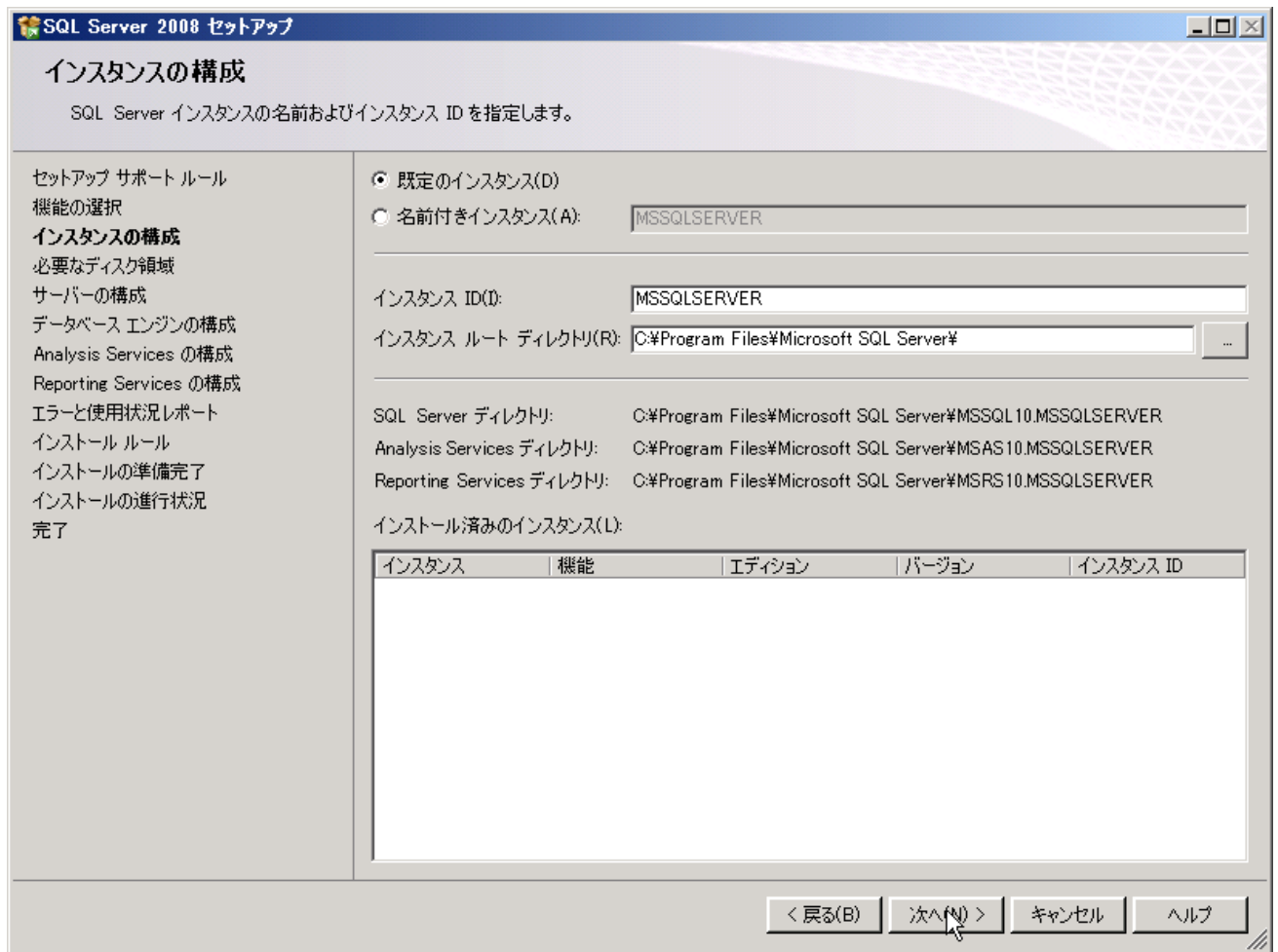
インストールする機能を選択します。

本自習書では評価環境用に下記の機能をインストールします。

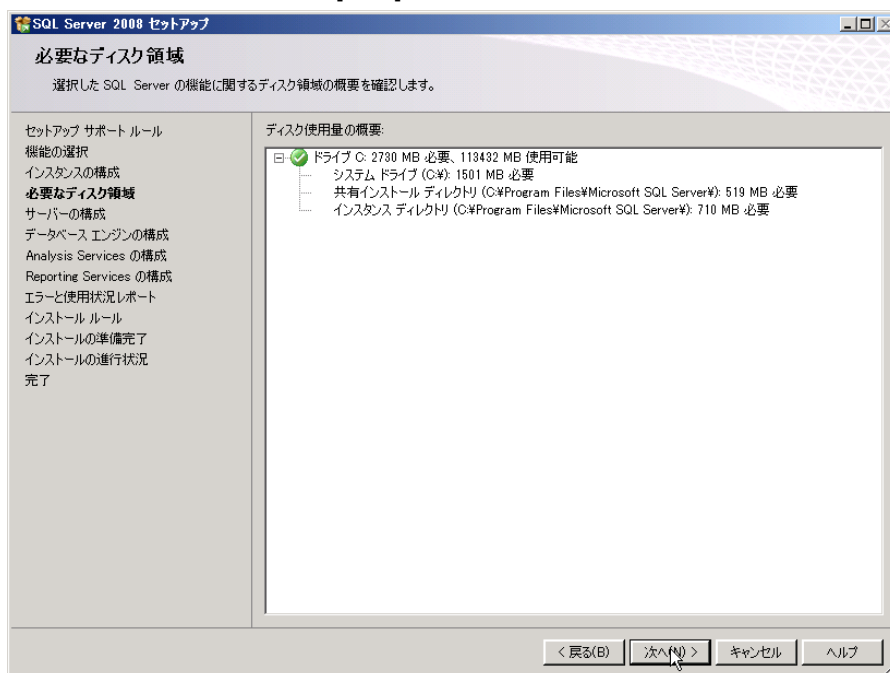
インスタンス
データベース エンジンサービス
SQL Server レプリケーション
フルテキスト検索
Analysis Services
Reporting Services
共有機能
Business Intelligence Development Studio
管理ツール - 基本、完全
Microsoft Sync Framework

必要な機能を選択し、[次へ] をクリックします。インスタンスの構成は既定値のまま[次へ] をクリックします。

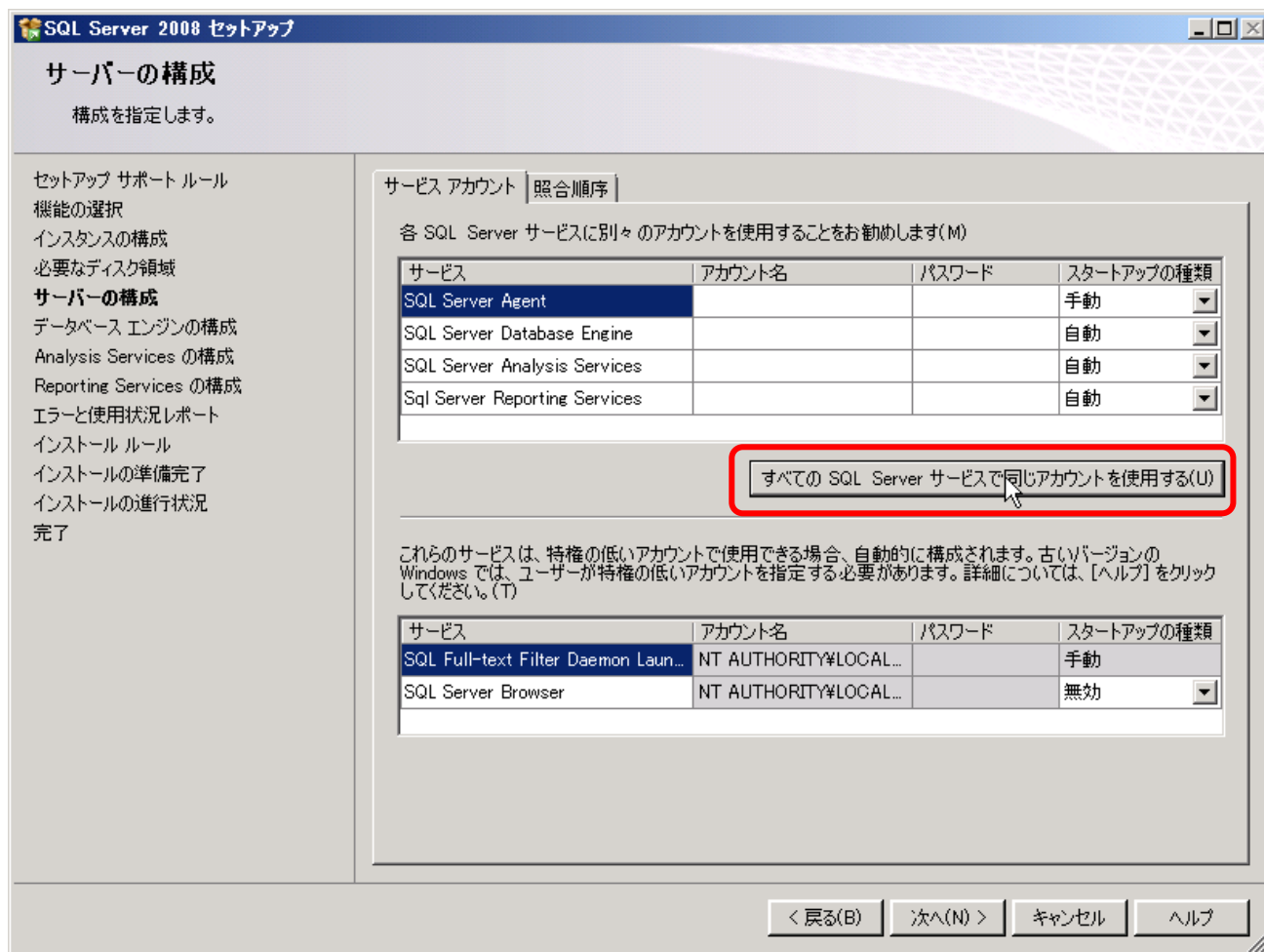




必要なディスク領域を確認し、[次へ] をクリックします。

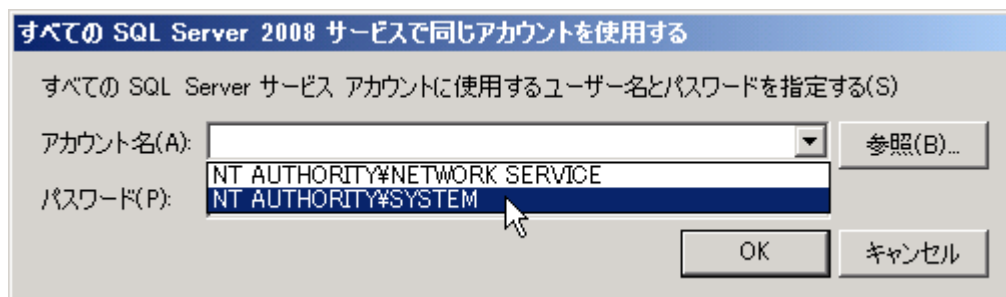


サービスアカウントの指定をします。[すべての SQL Server サービスで同じアカウントを使用する] をクリックします。



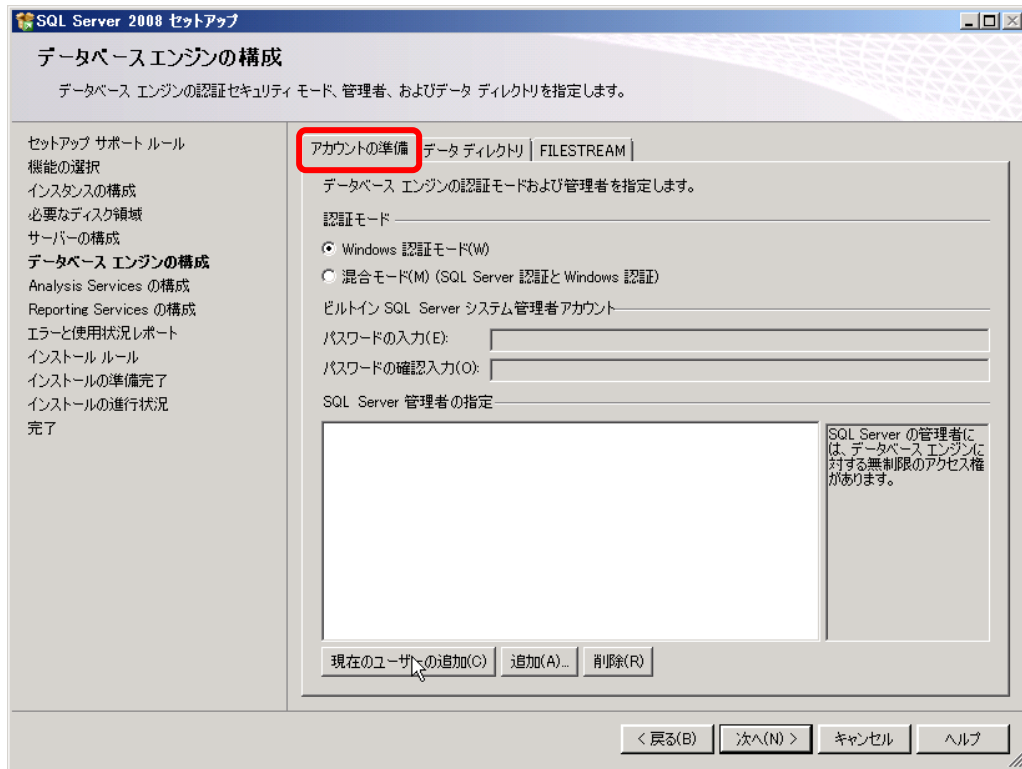
アカウント名のドロップダウンリストを表示し、NT AUTHORITY\SYSTEM を選択します。

パスワードは入力しません。[OK] をクリックします。



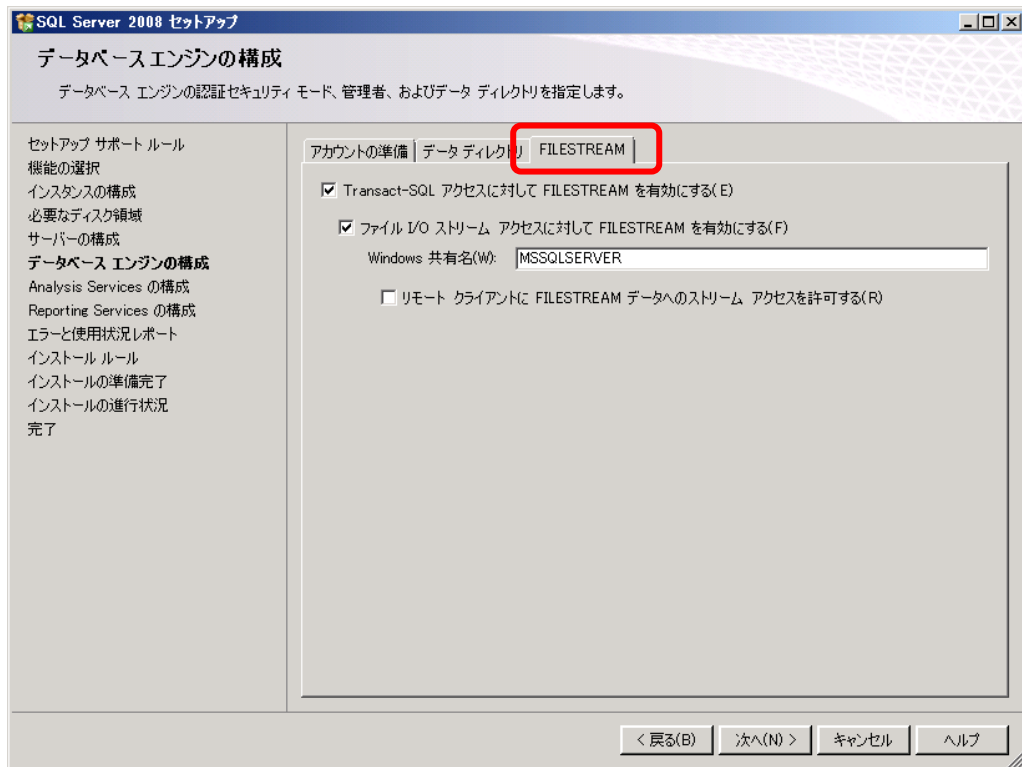
データベースエンジンの構成で SQL Server 管理者を指定します。

[現在のユーザーの追加] をクリックします。



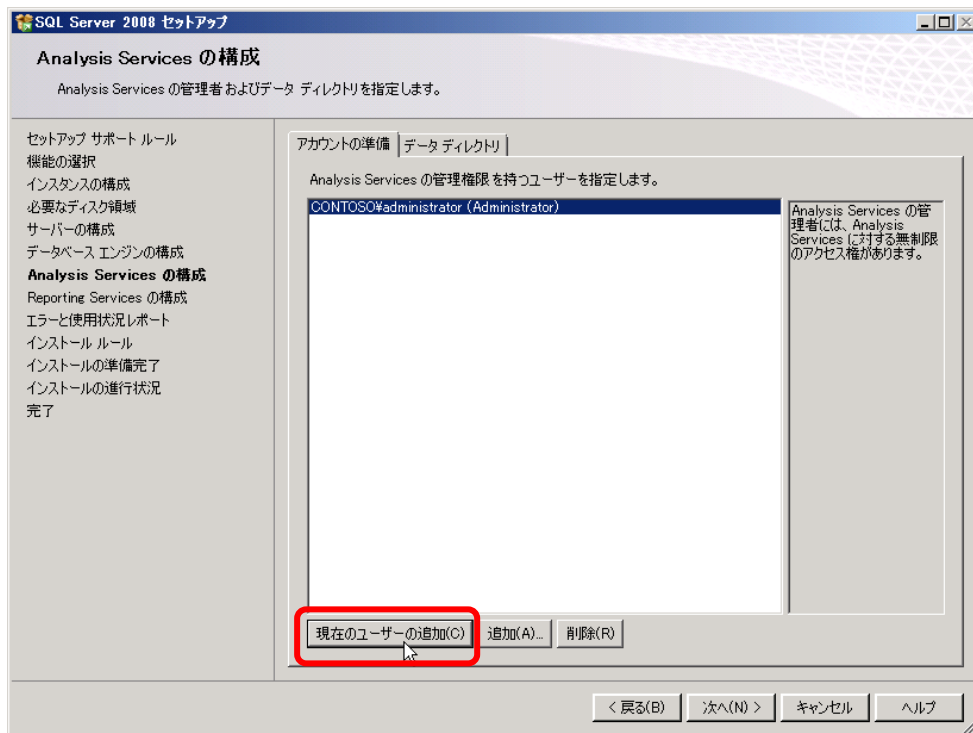
同じウィンドウにある [FILESTREAM] タブを開き、[Trasact-SQL アクセスに対して FILESTREAM を有効にする] チェックボックスと [ファイル I/O ストリームアクセスに対して FILESTREAM を有効にする] チェックボックスにチェックを入れます。

[次へ] をクリックします。

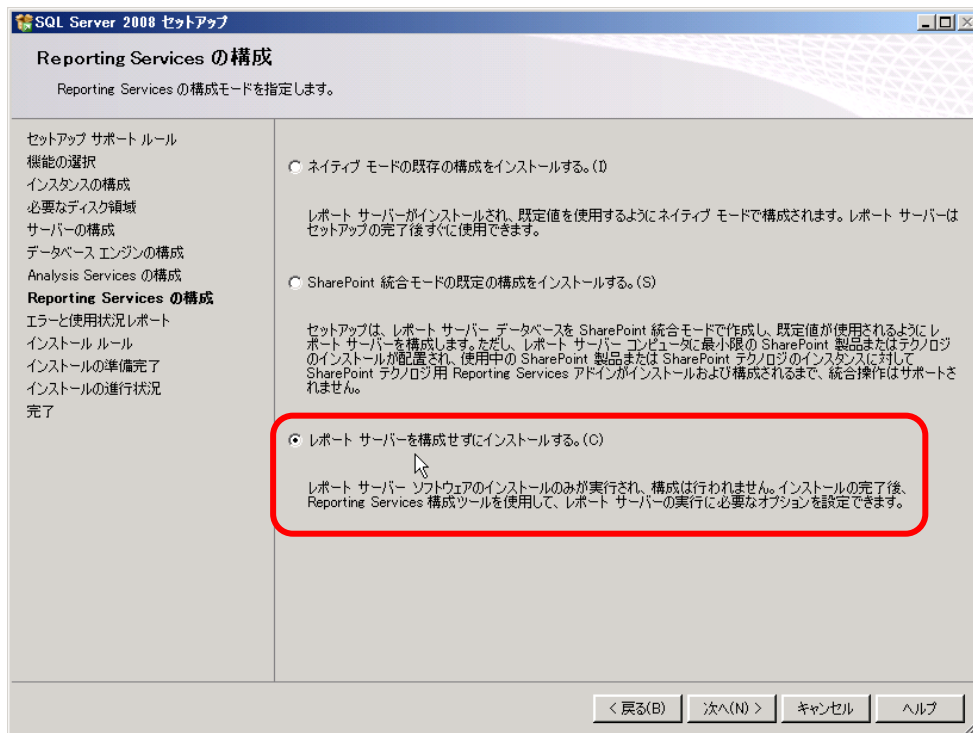


Analysis Services の構成で、管理権限のあるアカウントを指定します。

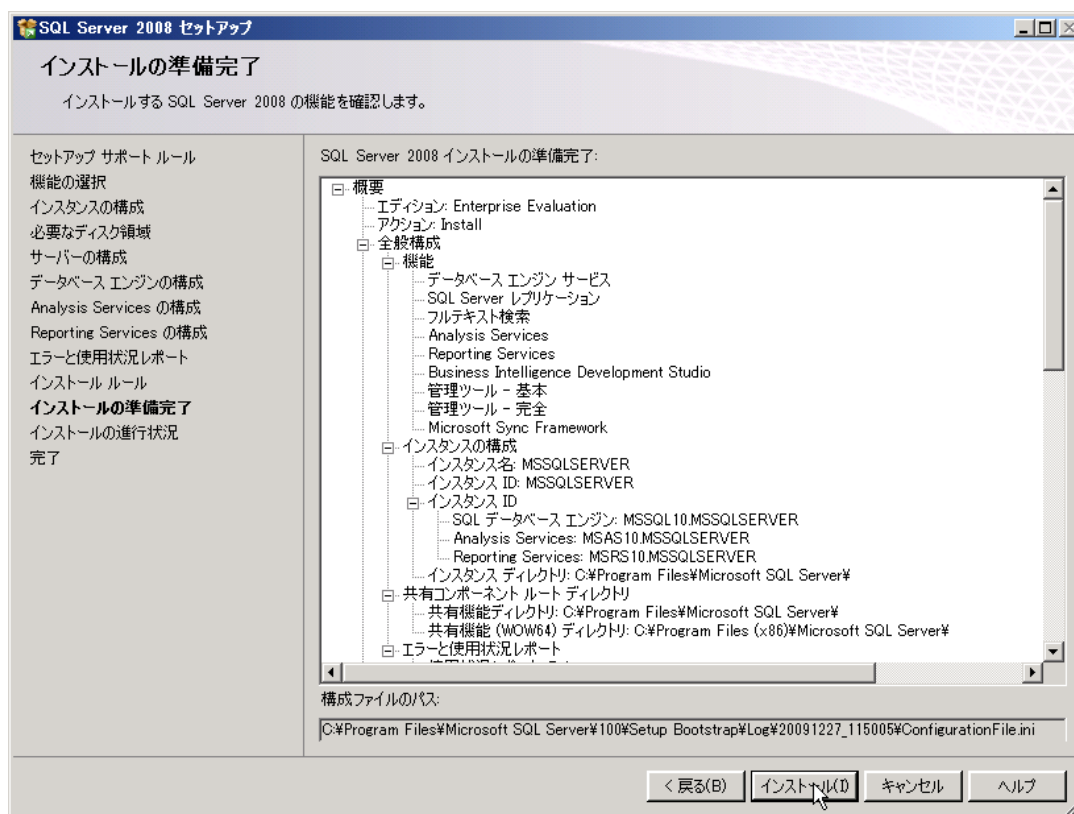
[現在のユーザーの追加] をクリックします。 [次へ] をクリックします。



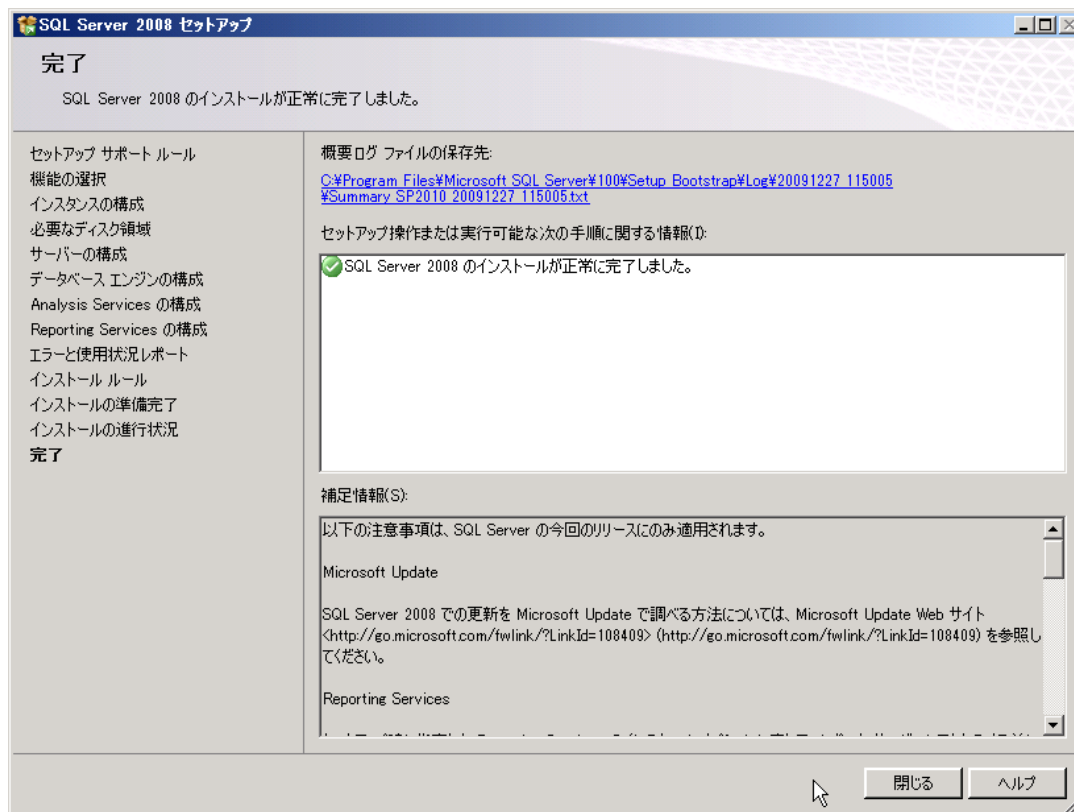
Reporting Services の構成では[レポートサーバーを構成せずにインストールする] を選択し[次へ] をクリックします。



インストールの準備完了ウィンドウで設定の確認をし、[インストール] をクリックします。



インストールが正常に完了したことを確認し、[閉じる] をクリックします。



2. SQL Server 2008 SP1 をインストールする。

ダウンロード済みの SP1 を実行します。入力する項目は特にありません。[次へ] で進めていき、インストールを終了してください。



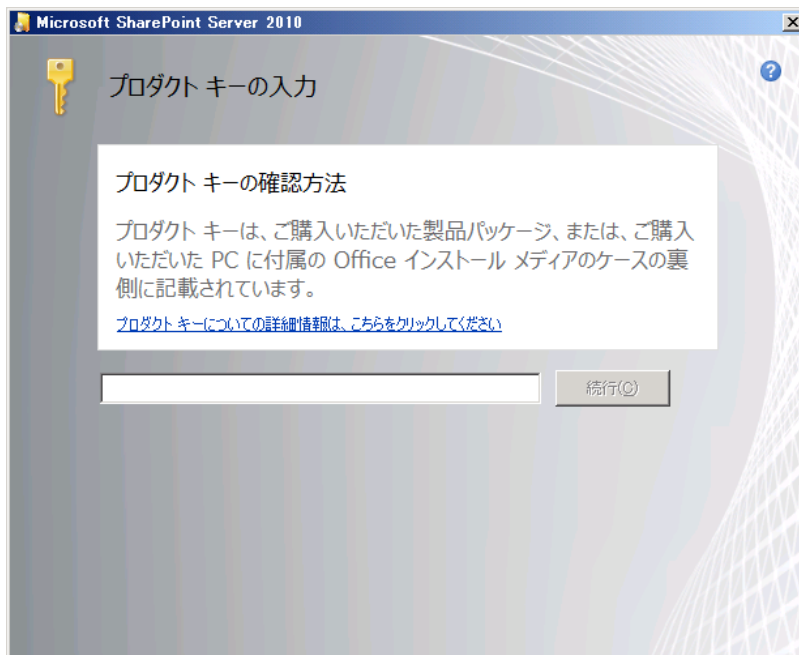
3. SP1と同様にあらかじめダウンロード済みの SQL Server 2008 CU2 をインストールします。この修正プログラム適用も特に入力する項目はありません。[次へ] で進めて行き、完了します。

第2章 SharePoint Server 2010 のインストール

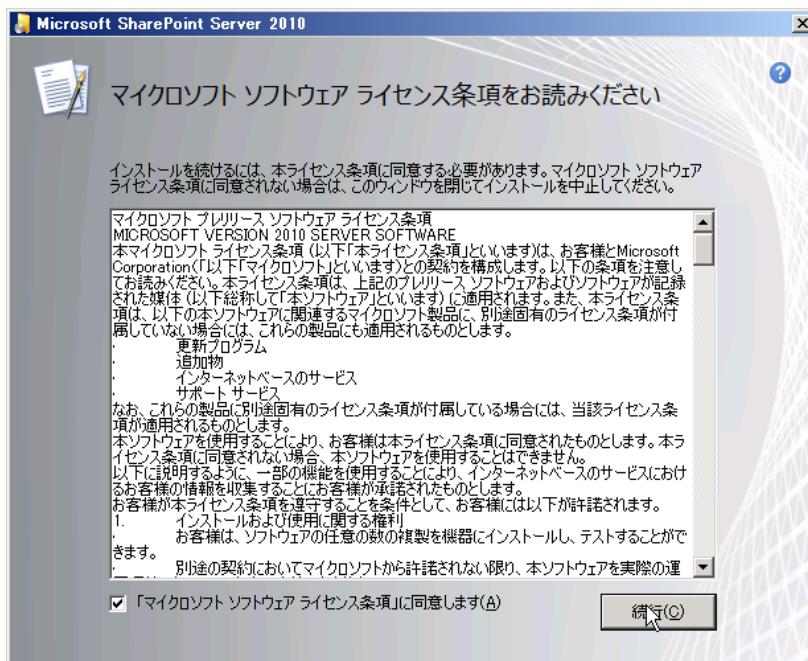
2.1 SharePoint Server 2010 をファーム構成でインストールする

SharePoint Server 2010 をファーム構成 (SharePoint Server 2010 + SQL Server) でインストールします。

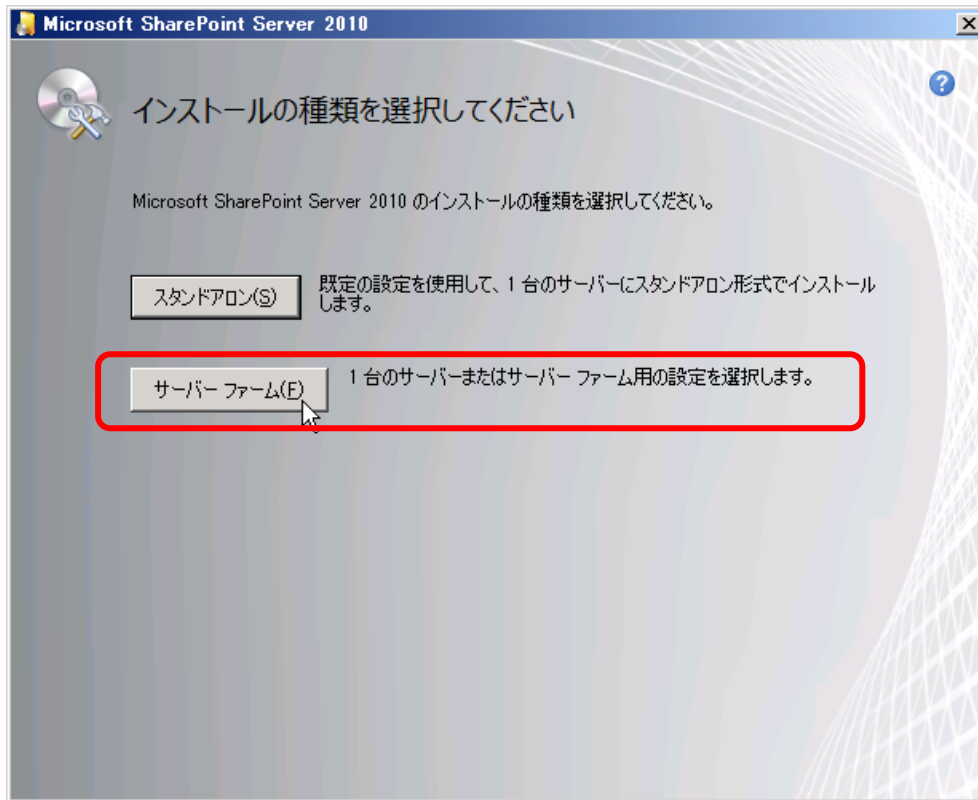
1. すでに解凍済みの SharePoint Server 2010 フォルダから [setup.exe] を実行します。
プロダクトキーの入力が求められるので、SharePoint Server2010 ダウンロード時にメモしたプロダクトキーを入力し、
[続行] をクリックします。



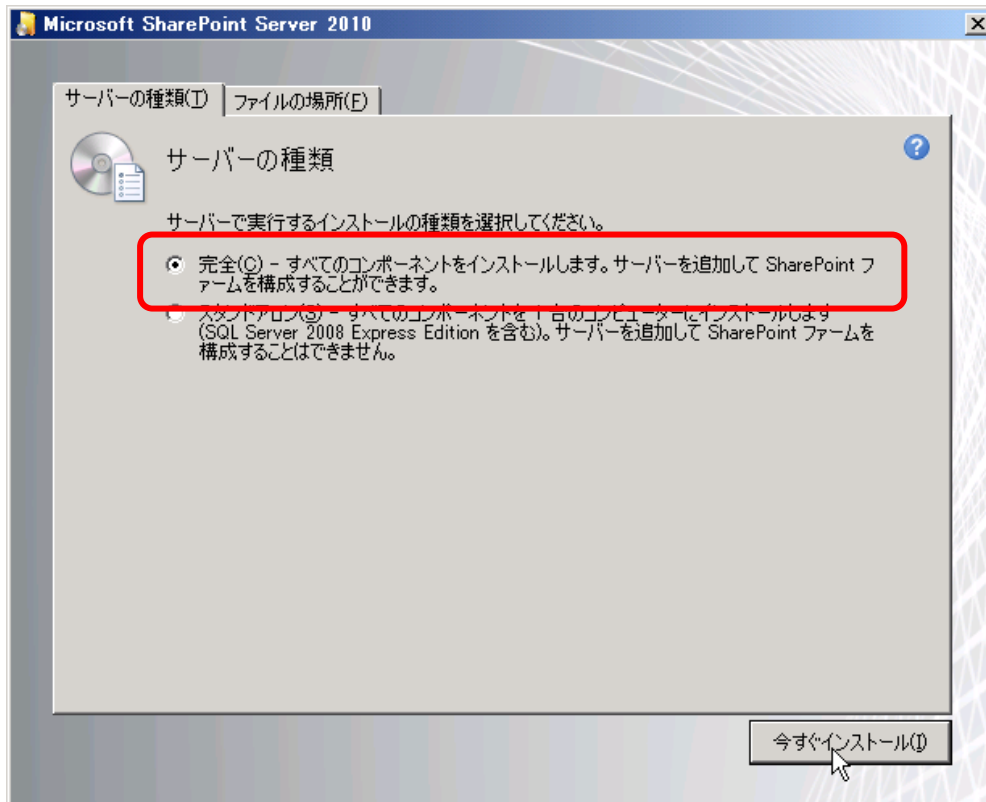
ライセンス条項を確認し、「[マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項]」に同意しますのチェックボックスを選択した後、
[続行] をクリックします。



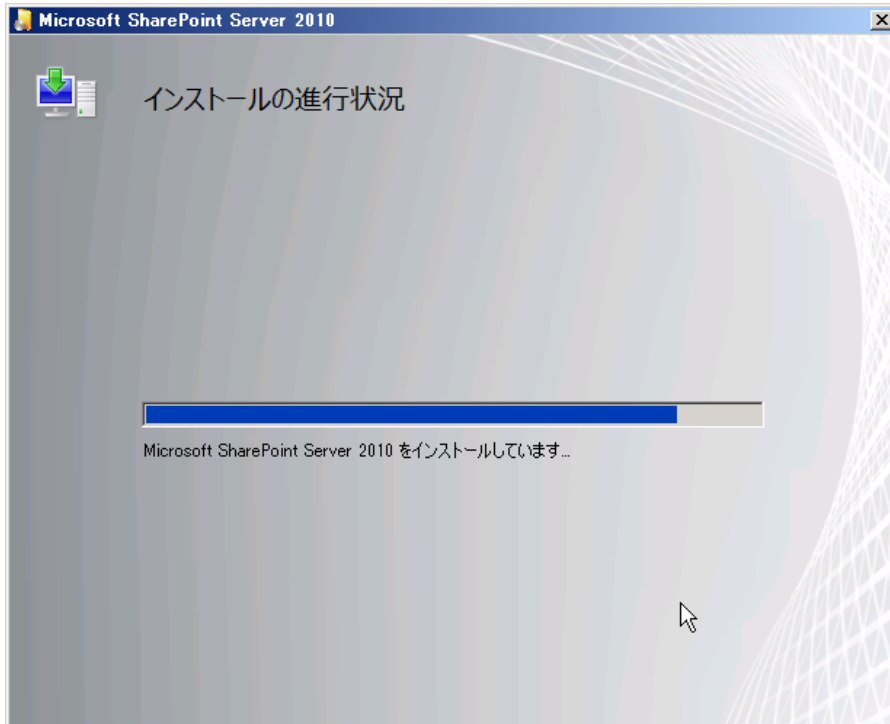
インストールの種類を選択します。ファーム構成を行うため[サーバー ファーム]をクリックします。



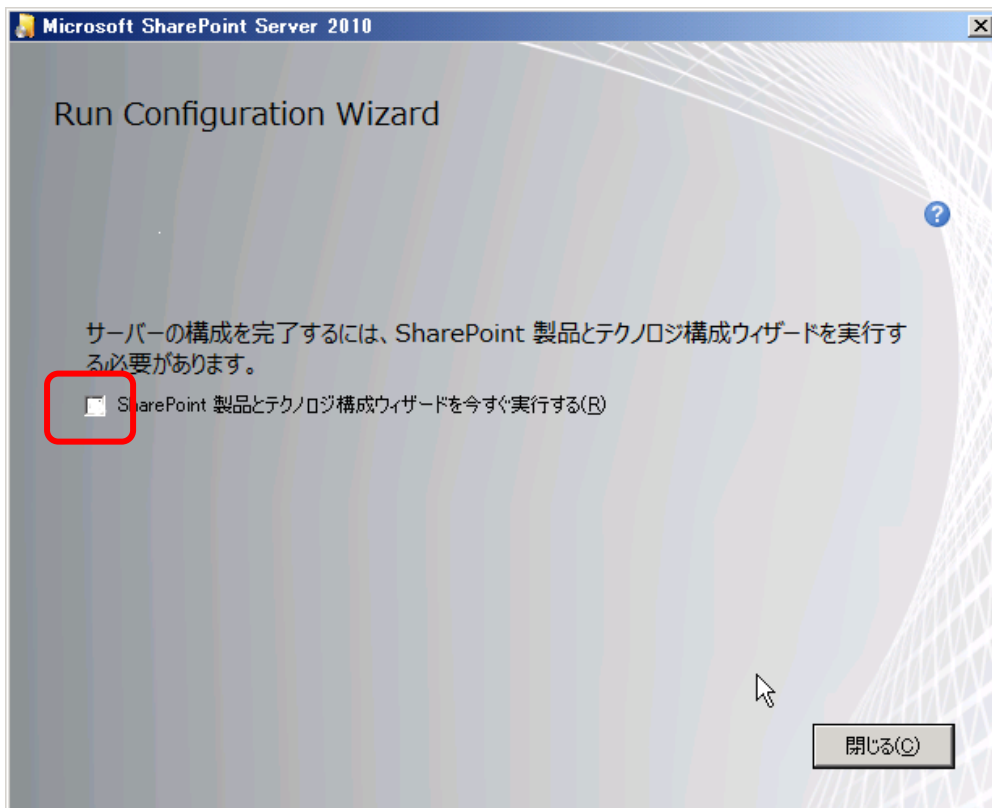
サーバーの種類で[完全] を選択し、[今すぐインストール] をクリックします。



SharePoint Server 2010 のインストールが開始されます。



インストール終了後、 [Run Configuration Wizard] が表示されます。しかし、Office Web Apps をインストールするため、ここでは [SharePoint 製品とテクノロジー構成ウィザードを今すぐ実行する] のチェックを外し [閉じる] をクリックします。

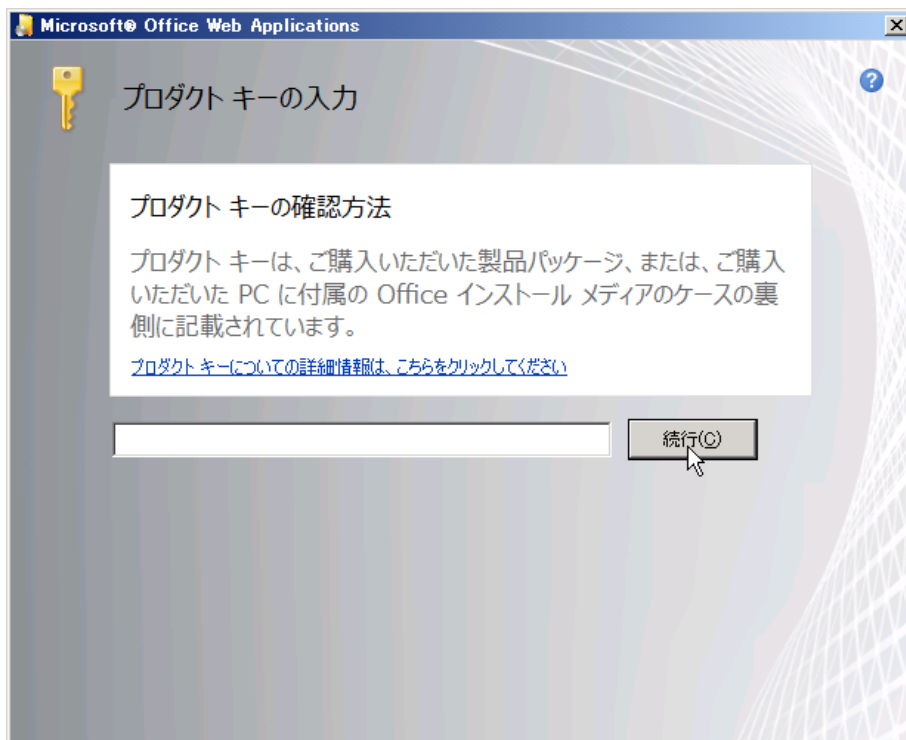


2. Office Web Apps をインストールします。

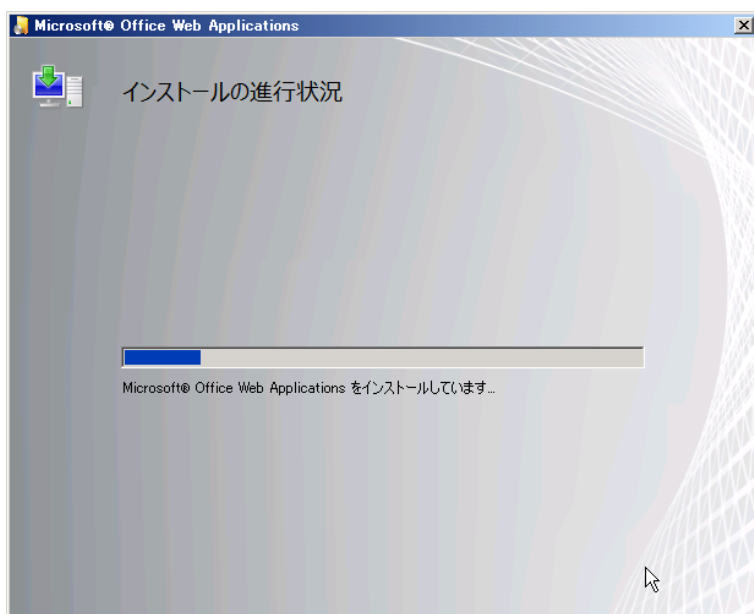
Office Web Apps をインストールすると、Web ブラウザ上で Office Word 文章、Office Excel シート、Office PowerPoint プレゼンテーションを簡易編集、閲覧することが可能になります。

あらかじめダウンロード済みの「WcServer_ja-jp.exe」を実行します。

インストールドキュメントに記載されているプロダクトキーを入力し、[続行] をクリックします。



インストールが始まります。



インストール完了後、[Run Configuration Wizard]が表示されます。 [SharePoint 製品とテクノロジー構成ウィザードを今すぐ実行する] チェックボックスが選択されていることを確認し、[閉じる] をクリックして構成ウィザードの実行を始めます。



2.2 SharePoint 製品とテクノロジー構成ウィザードを実行する

SharePoint Server 2010、Office Web Apps のインストール終了後は「構成ウィザード」を実行します。構成ウィザードを実行することにより、SharePoint ファームの構成情報が記録される「構成データベース」と各種機能 (feature) のファームへのインストールと展開、SharePoint の全体管理 Web アプリケーションの準備がなされます。

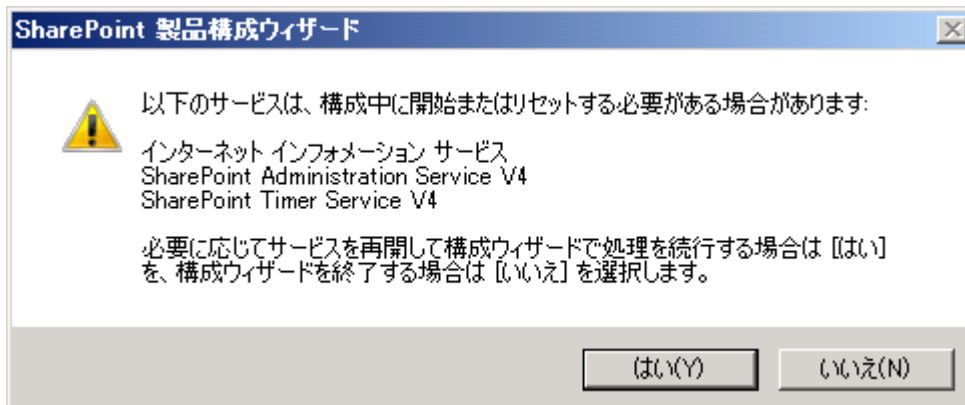
1. Office Web App インストール後、[SharePoint 製品とテクノロジー構成ウィザードを今すぐ実行する] が選択されているのを確認し、[閉じる] をクリックします。



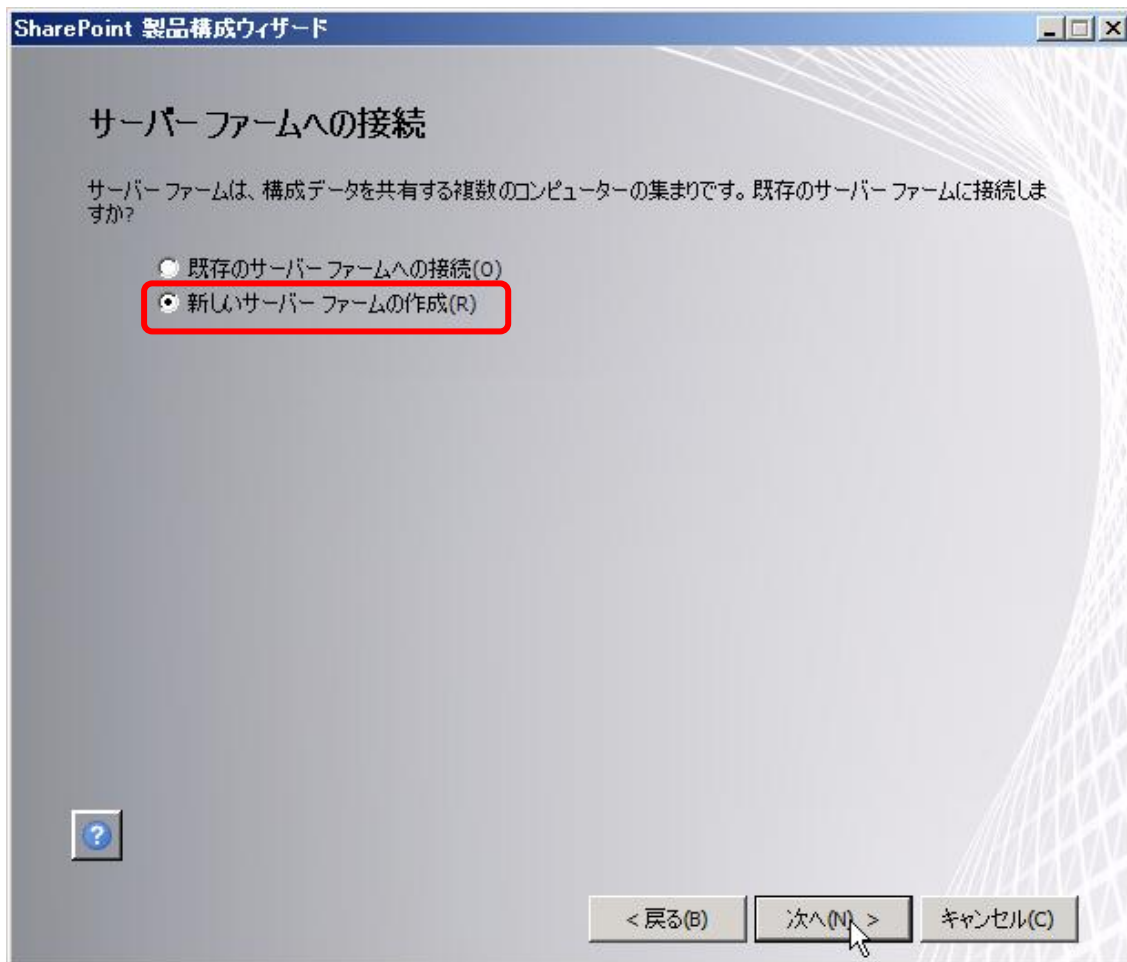
[SharePoint 製品へようこそ] で[次へ] をクリックします。



構成ウィザード実行中にリセットされる可能性のあるサービス一覧を確認し、[はい] を選択します。



[サーバー ファームへの接続] で [新しいサーバー ファームの作成] を選択し、[次へ]をクリックします。



構成データベースの設定を行います。本自習書では以下のように構成します。

データベース サーバー	SP2010
データベース名	既定値のまま [SharePoint_Config]
ユーザー名	Contoso¥spadmin
パスワード	P@ssw0rd

メモ:

データベースアクセスアカウントはドメインアカウントである必要があります。(ファーム構成の場合)

本自習書では spadmin というアカウントを作成し、 P@ssw0rd というパスワードを設定しています。

詳しくは前提条件をご確認ください。

SharePoint 製品構成ウィザード

構成データベースの設定

サーバー ファームのすべてのサーバーで構成データベースを共有する必要があります。データベース サーバーとデータベース名を入力してください。データベースが存在しない場合は、新しく作成されます。既存のデータベースを再利用するには、そのデータベースを空にする必要があります。データベース サーバーのセキュリティ構成とネットワーク アクセスの詳細については、[ヘルプ](#)を参照してください。

データベース サーバー(S): SP2010

データベース名(A): SharePoint_Config

データベース アクセス アカウントの指定

このコンピューターが構成データベースと接続するときに常に使用する既存の Windows アカウントを選択してください。構成データベースが別のサーバーでホストされている場合は、ドメイン アカウントを指定してください。

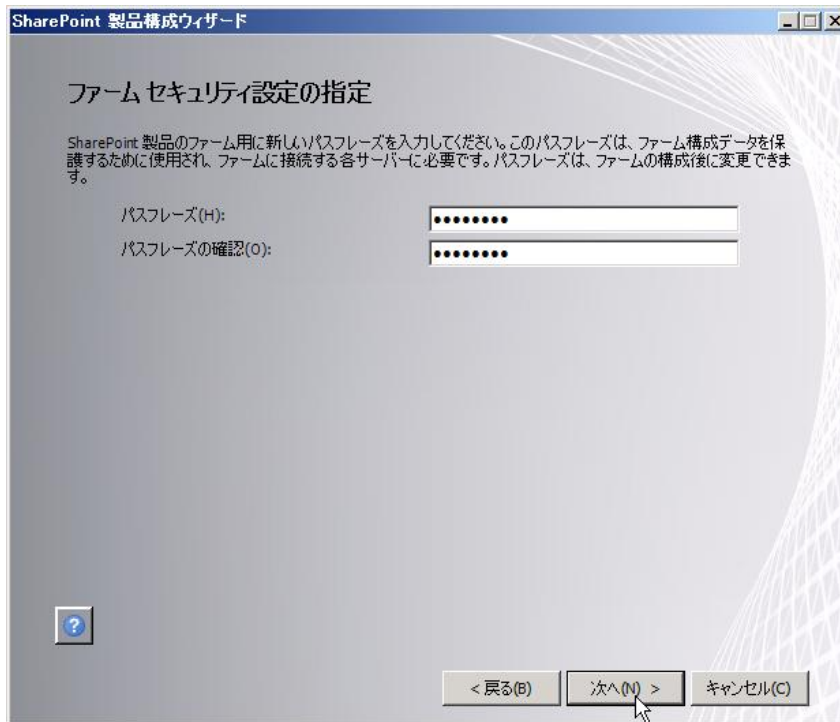
アカウントのユーザー名を DOMAIN\User_Name の形式で指定し、パスワードを入力してください。

ユーザー名(U): contoso¥spadmin

パスワード(P): ●●●●●●

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル(C)

ファームセキュリティ設定を行います。パスワードを求められるため、[P@ssw0rd] を入力します。
[パスワードの確認] にも同等の[P@ssw0rd]を入力し、[次へ] をクリックします。



メモ:

これまでは、既存の SharePoint ファームに新規のサーバーを追加する場合（例えば更に冗長化を行う場合など）、既存の構成データベースを指定するだけで追加することができましたが、SharePoint Server 2010 では新たにサーバーを SharePoint ファームに追加する場合、もしくは構成ウィザードにより構成情報に変更が加えられる場合にはパスワードが要求され、ファーム構成のセキュリティを高めます。

SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションの構成を行います。

SharePoint Server 2010 を GUI で設定、管理するために使用する「SharePoint サーバーの全体管理」用 Web アプリケーションのポート番号を指定し、Web アプリケーションの認証手法を指定します。

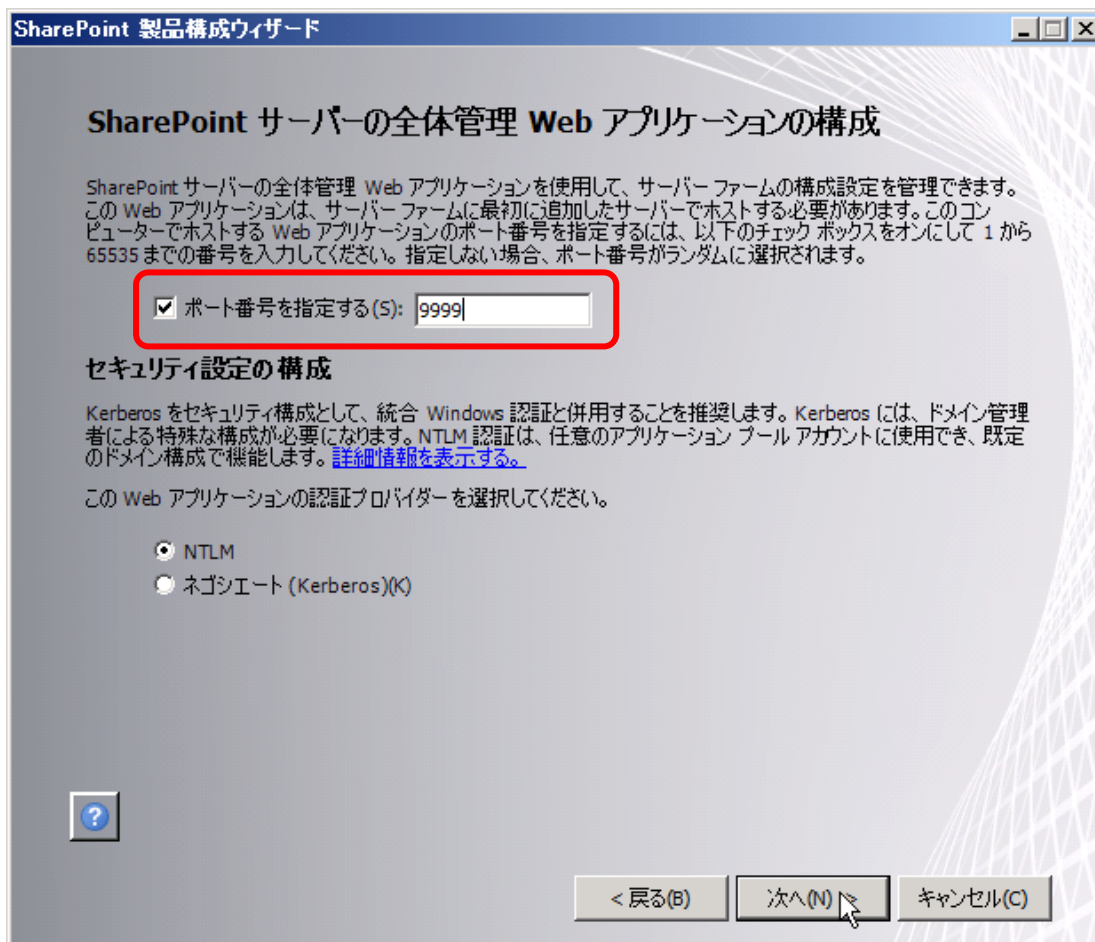
既定ではポート番号は自動的にランダムな値が割り当てられますが、[ポート番号を指定する] にチェックを入れ、自分のわかりやすい任意のポートを指定することも可能です。

本自習書では以下のように設定しています。

ポート番号を指定する	9999
認証プロバイダ	NTLM

注意：

ポートは、任意のポートを割り当てることができますが、そのポートが「空いて」いることを確認する必要があります。



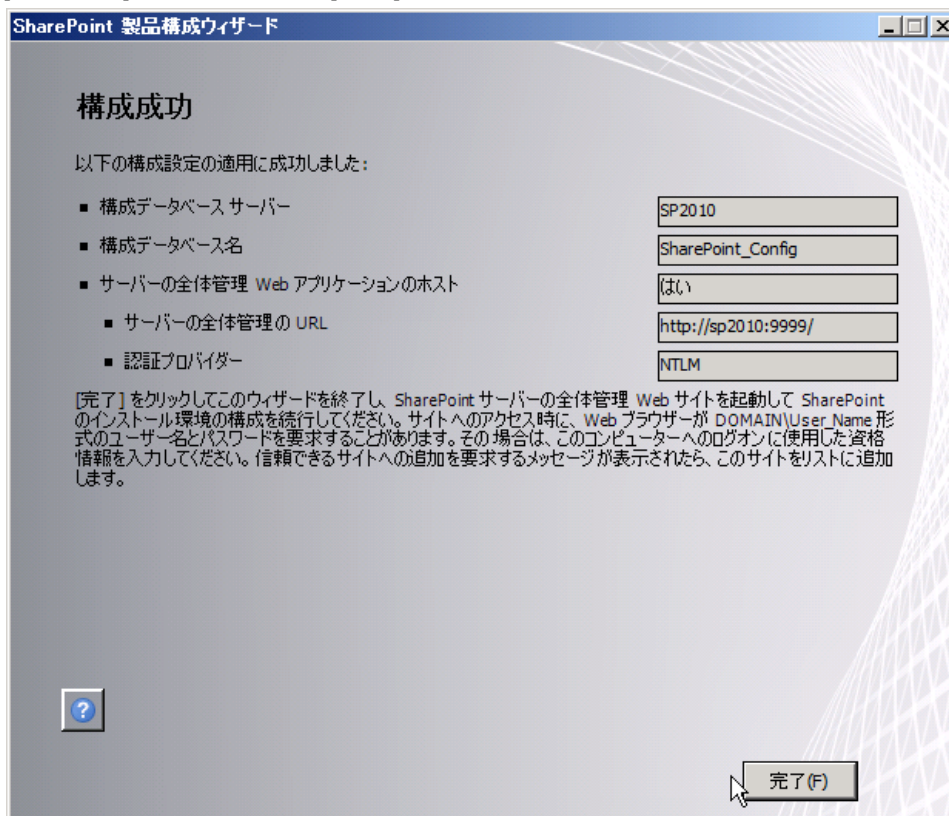
[次へ] をクリックします。

SharePoint 製品構成ウィザードが実行されます。

このウィザードが完了するためには、10-15 分程度時間がかかります。(サーバースペックによる)

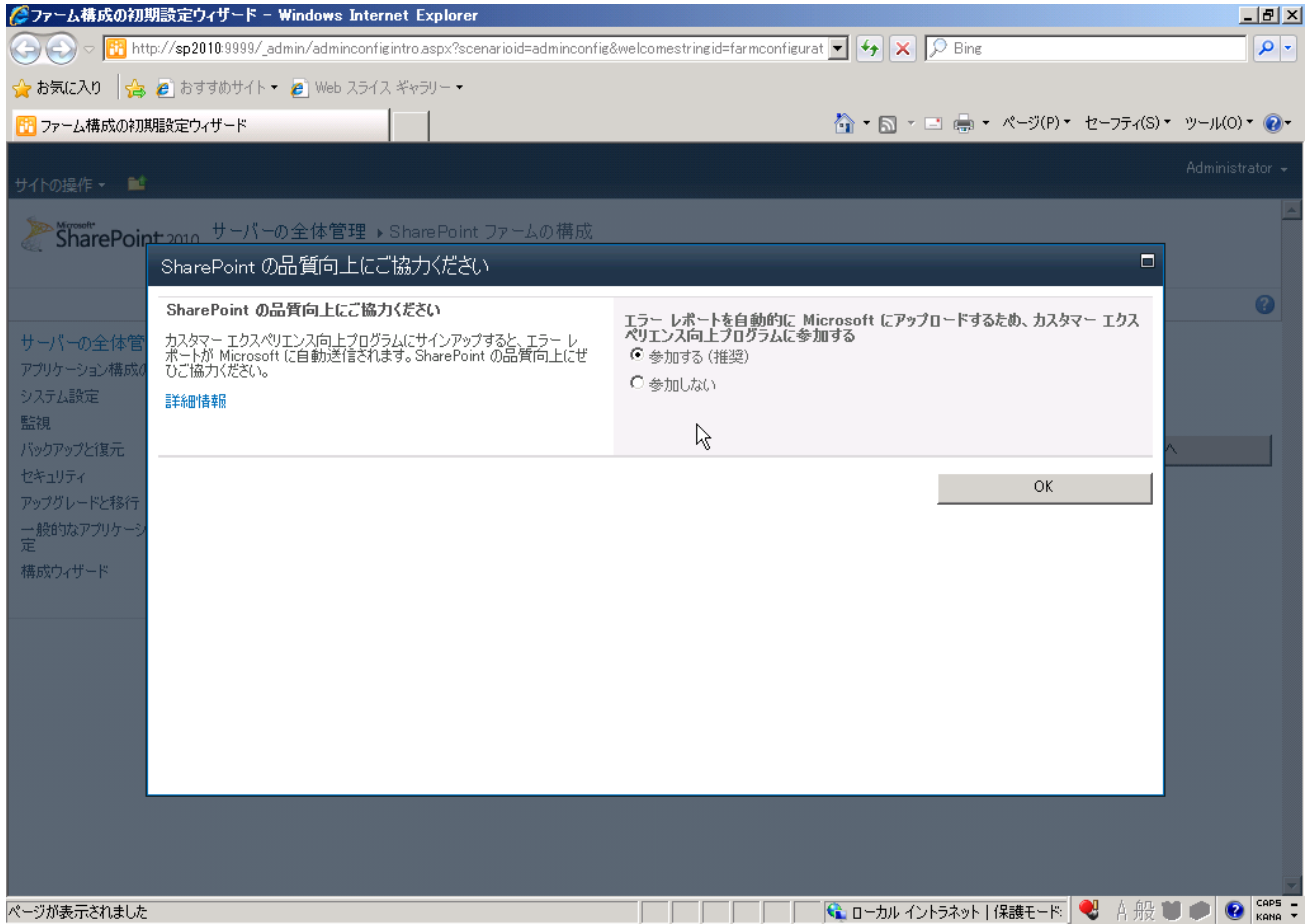


[構成成功] が表示されたら、[完了] をクリックしウィザードを終了します。



構成ウィザード終了後、[ファーム構成の初期設定ウィザード] ウィンドウが起動します。

[SharePoint の製品品質にご協力ください] ダイアログで [エラーレポートを自動的に Microsoft にアップロードするため、カスタマーエクスペリエンス向上プログラムに参加する] が聞かれるため、[参加する(推奨)] を選択し[OK] をクリックします。



2.3 SharePoint ファームの初期設定を行う

SharePoint Server 2010 のインストール、構成ウィザードの実行が終了したら、ファームの初期構成を行います。初期構成では、インストール済みのサーバーがファーム内でどのような「役割」(サービス)を果たすのかを設定します。

その後の設定は任意になります。評価に必要な構成項目を指定し、設定します。

本自習書では、いくつかの設定、電子メールサーバーの指定、ログ取得のための設定などを例として行います。これらの設定は一連の SharePoint Server 2010 自習書「SharePoint Server 2010 機能評価ガイド」や「SharePoint Server 2010 PowerShell / STSADM 評価ガイド」など、他の自習書で紹介されている機能評価を行うための最低限の設定となります。

1. SharePoint ファーム構成を行います。ウィザードで行うか、手動で構成するかを選択することができます。どちらを選択しても同じ結果にすることが可能ですが、複数台のサーバーで SharePoint 2010 を構成し、各サーバーが異なる役割を果たすのであれば、一括でサービス起動を行うウィザードを使用するより手動で行うほうが効率は良いでしょう。一台のサーバーで検証する場合はウィザードが便利です。ウィザードで行った設定は後ほど一項目ずつ設定しなおすことも可能です。

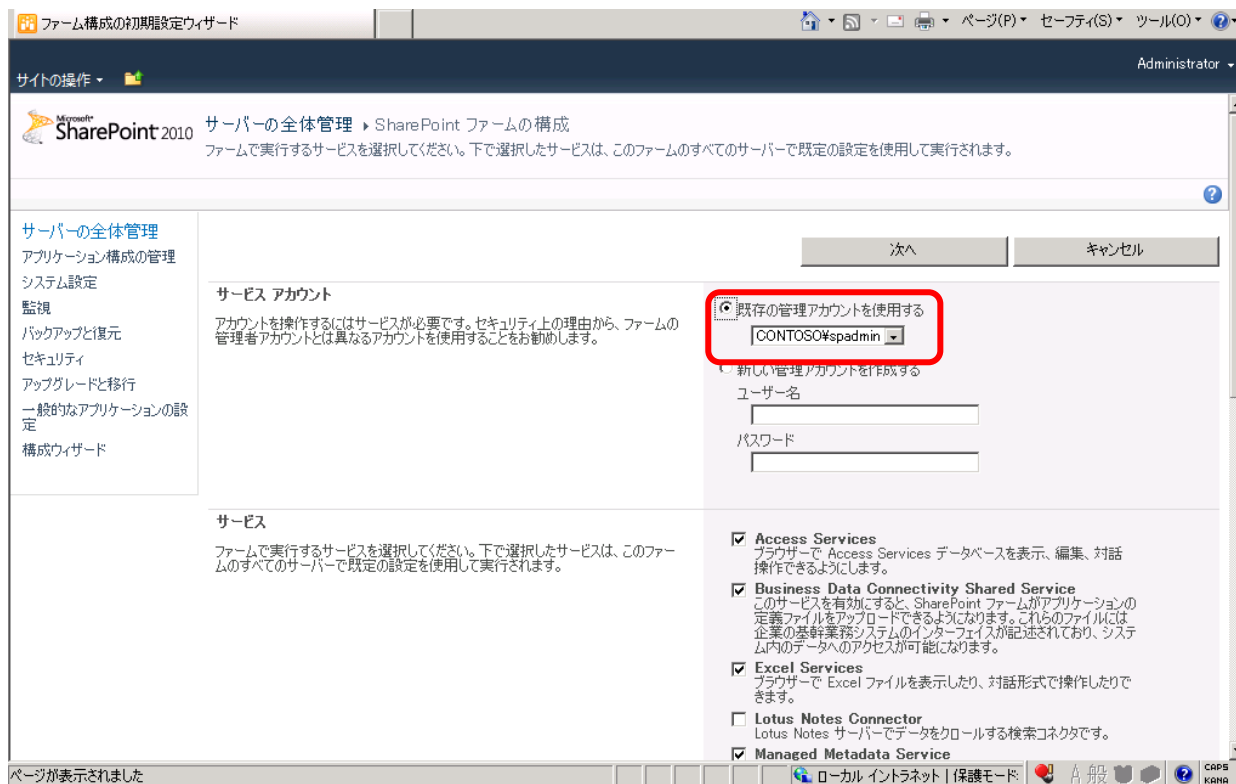
手動を選択した場合は、「SharePoint 2010 サーバーの全体管理」が直ぐに開きます。

本自習書ではウィザードを使用して構成します。

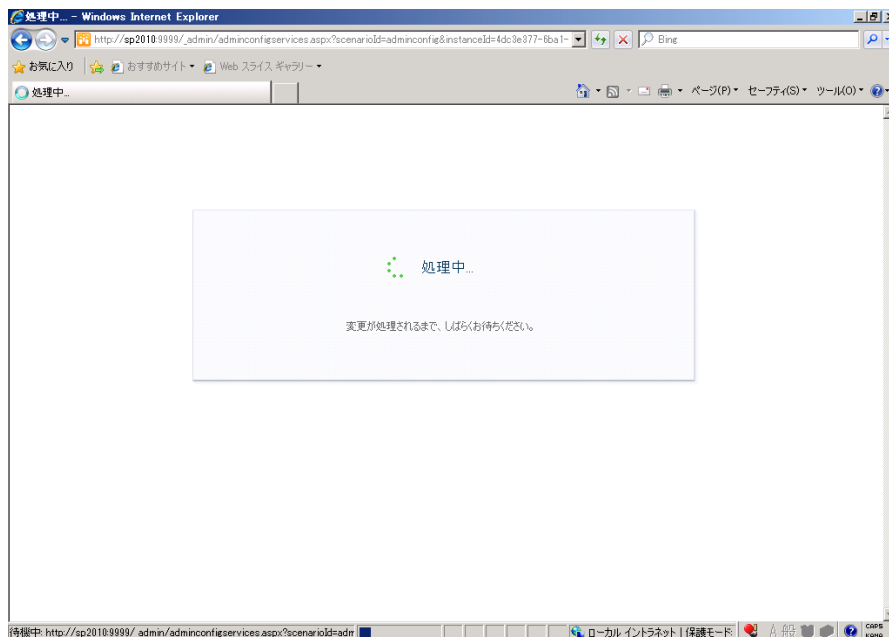
[このウィザードを使用して設定する] を選択し、[次へ] をクリックします。



サービスアカウントの設定を行います。 [既存の管理アカウントを使用する] を選択します。
[次へ] をクリックします。



各種サービスの起動が開始されます。（サーバスペックによっては時間がかかる場合があります）

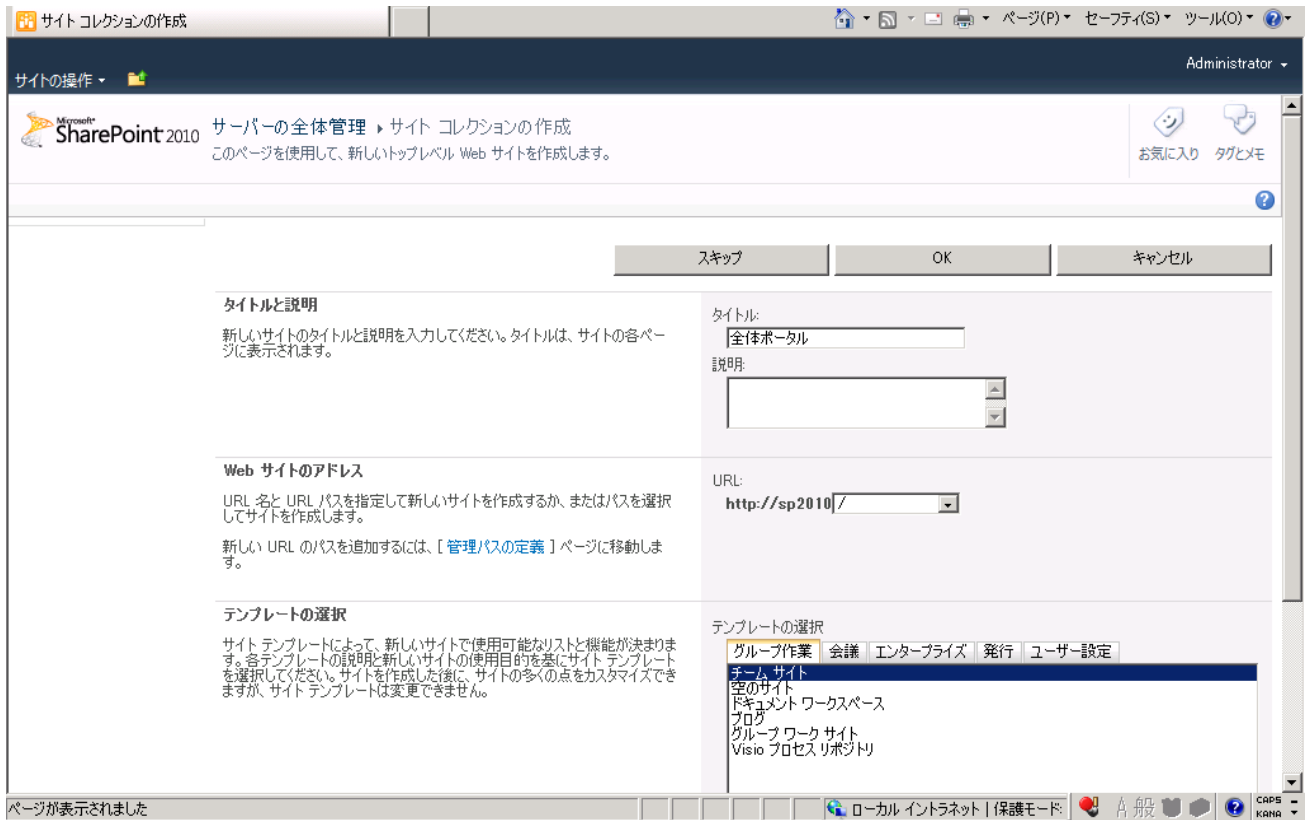


一つ目のサイトコレクションを作成するウィンドウが表示されます。

以下のように設定します。

タイトルと説明	全体ポータル
説明	空白
Web サイトのアドレス	http://サーバー名(SP2010)/ 既定値のまま
テンプレートの選択	[グループ作業] の [チーム サイト]

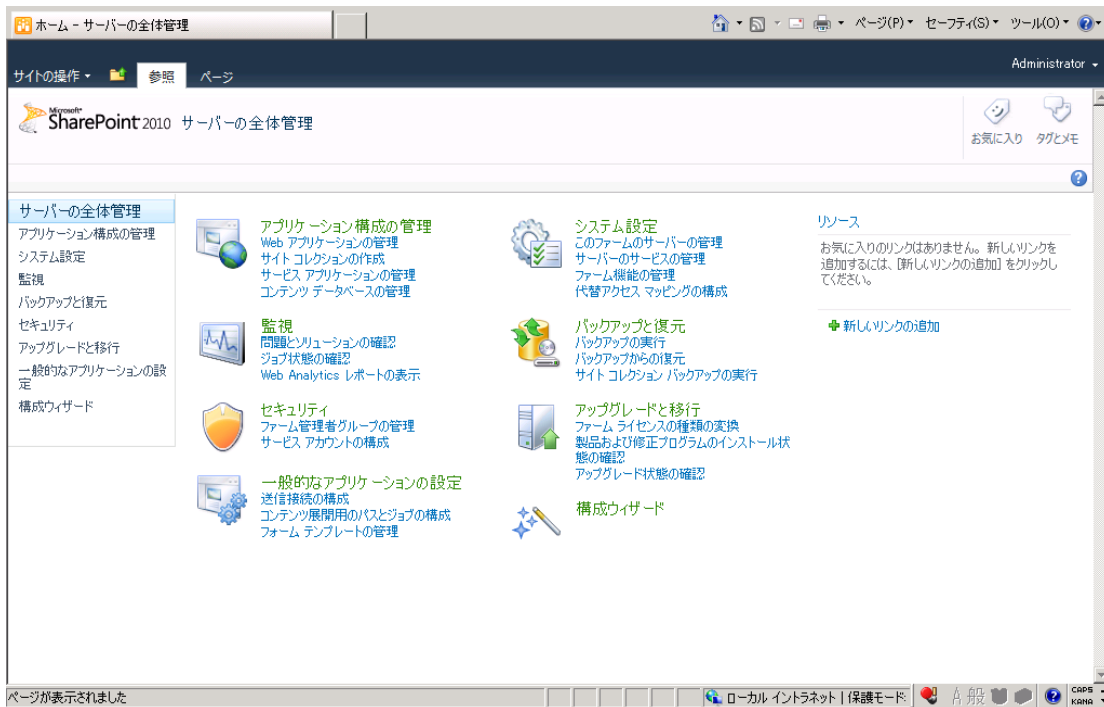
値を入力後、[OK] をクリックします。



ファームの構成内容が表示されます。作成されたサイトコレクション、URL、起動されたサービスが表示されます。
[完了] をクリックします。



サーバーの全体管理画面に戻ります。



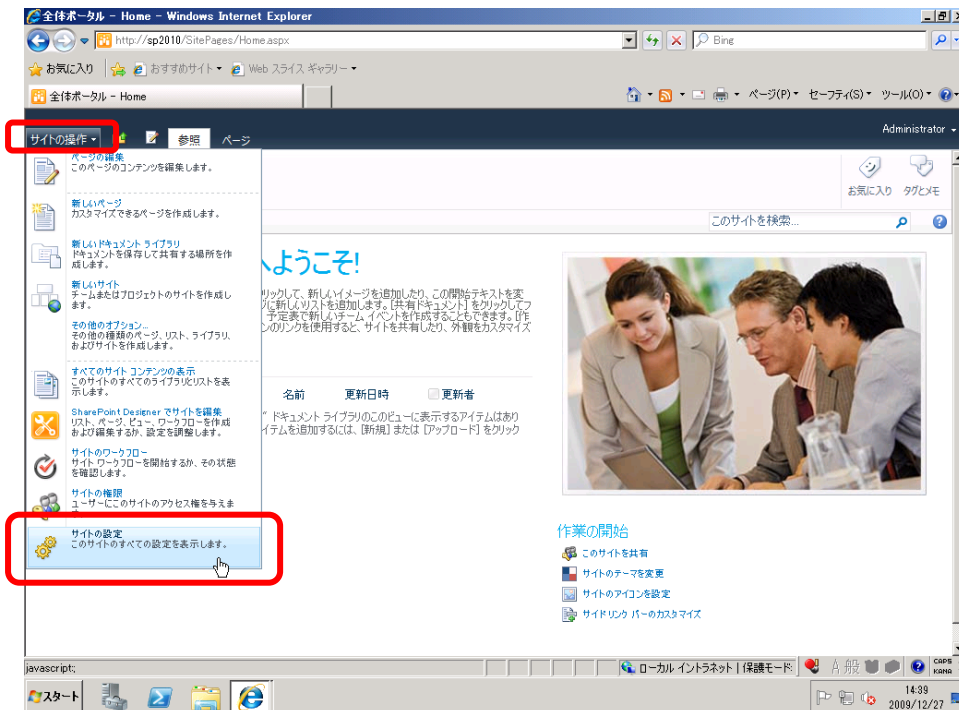
2.4 SharePoint Server 2010 サイトの機能の確認

ウィザードによって作成されたサイトを実際に起動し確認します。また Office Web App が機能することを確認します。

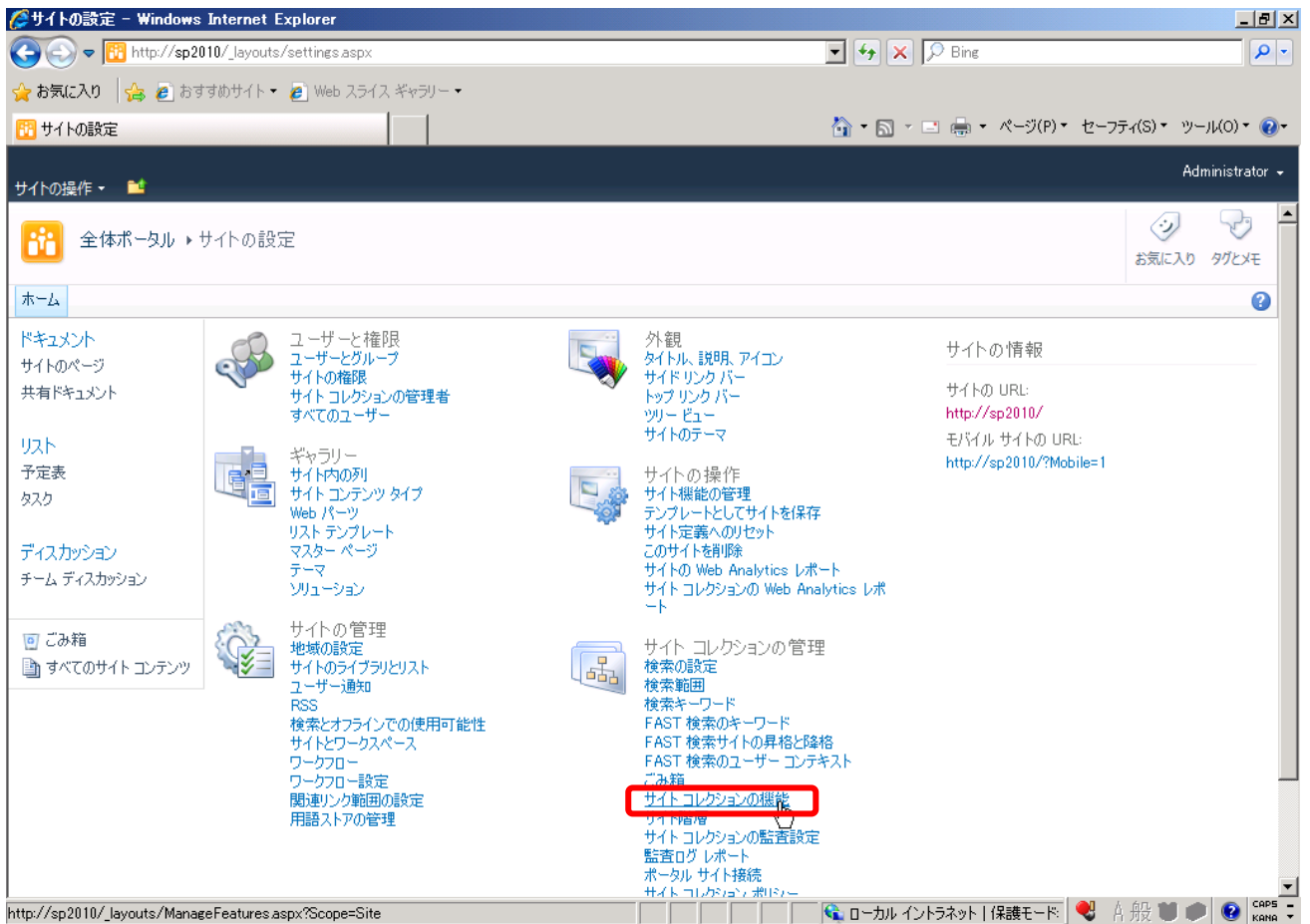
1. ブラウザのアドレスバーに <http://sp2010/> と入力します。 チームサイトが表示されます。



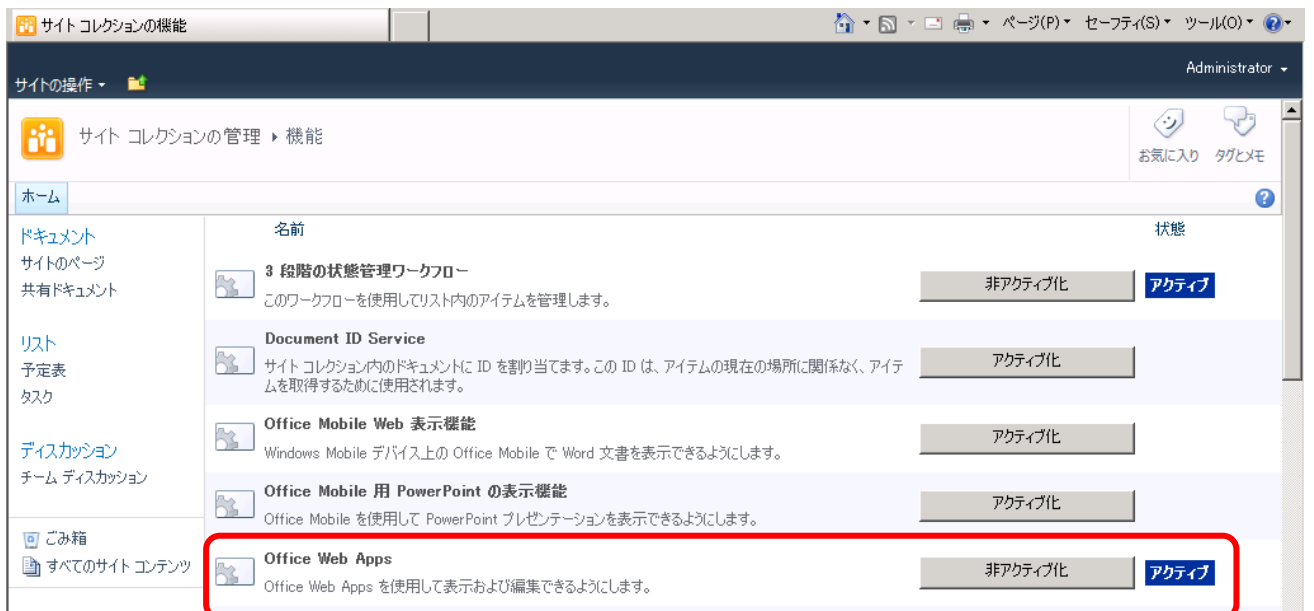
左上の[サイトの操作] をクリックし、メニューを表示します。メニューから[サイトの設定] を選択します。



[サイトコレクションの管理] カテゴリの[サイトコレクションの機能] をクリックします。



[Office Web Apps]機能が「アクティブ」になっていることを確認します。



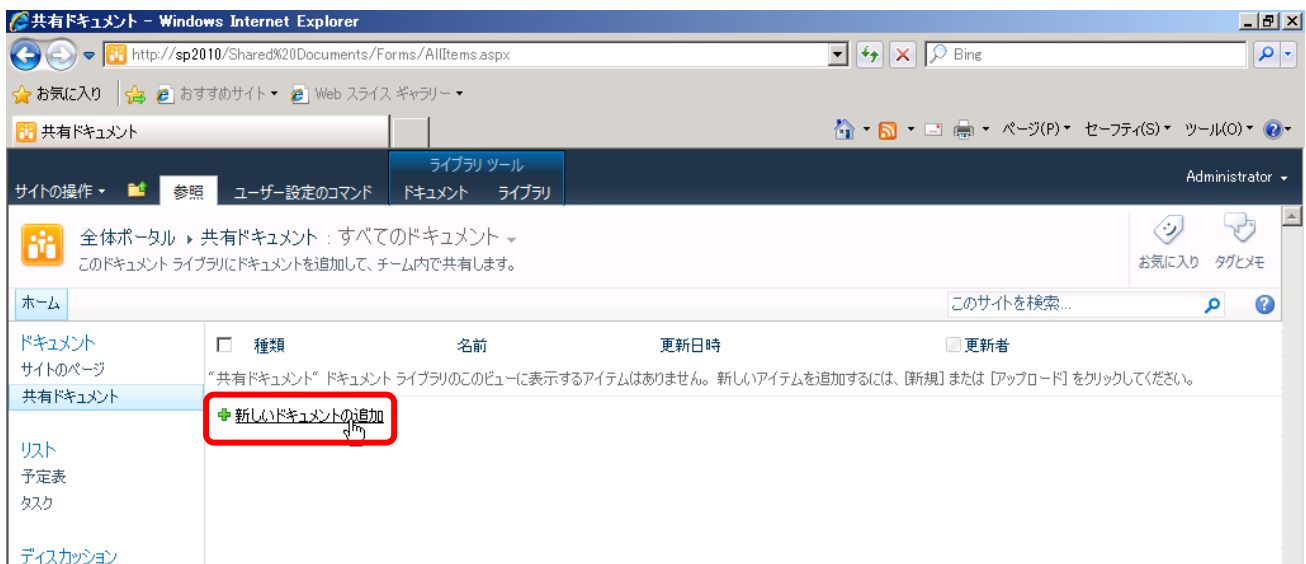
左上のナビゲーションツリーを表示させ、[全体ポータル] に移動します。



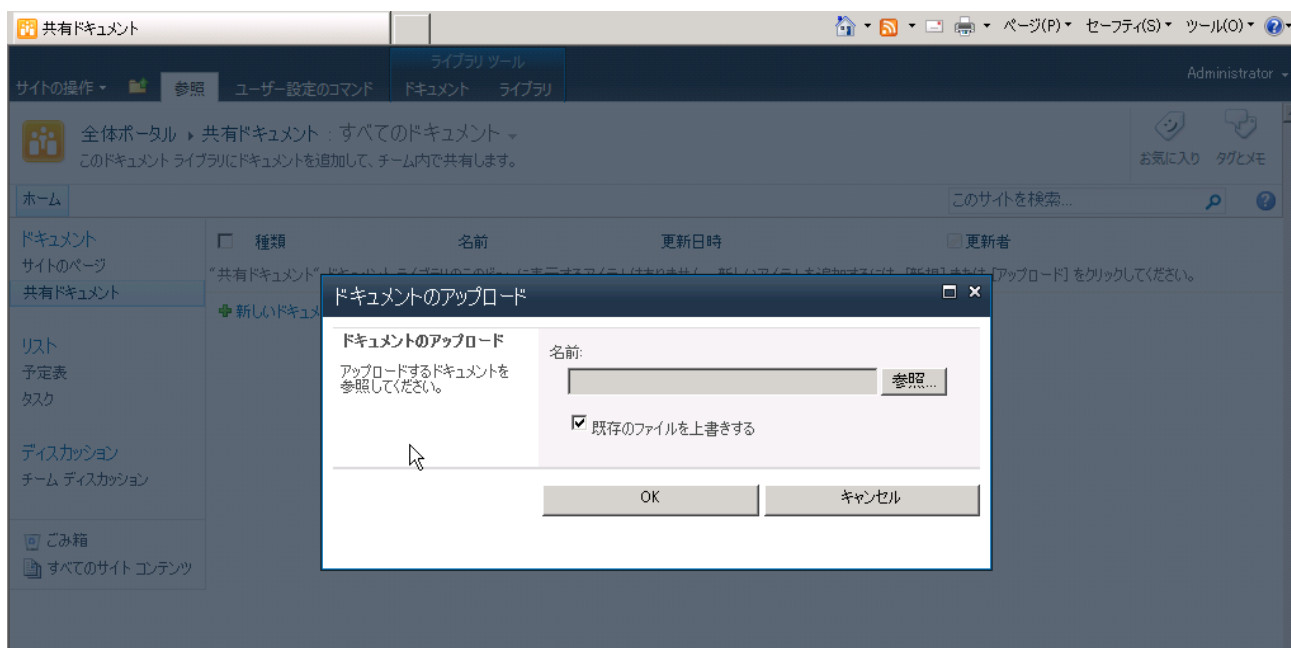
2. Office Web Application が動作することを確認します。

サイドナビゲーションから[共有ドキュメント] をクリックし、ドキュメントライブラリを開きます。

[新しいドキュメントの追加] をクリックし、ドキュメントのアップロードを行います。ここでアップロードするドキュメントは、お手元にある Word や Excel、PowerPoint で作成された文章を使用してください。



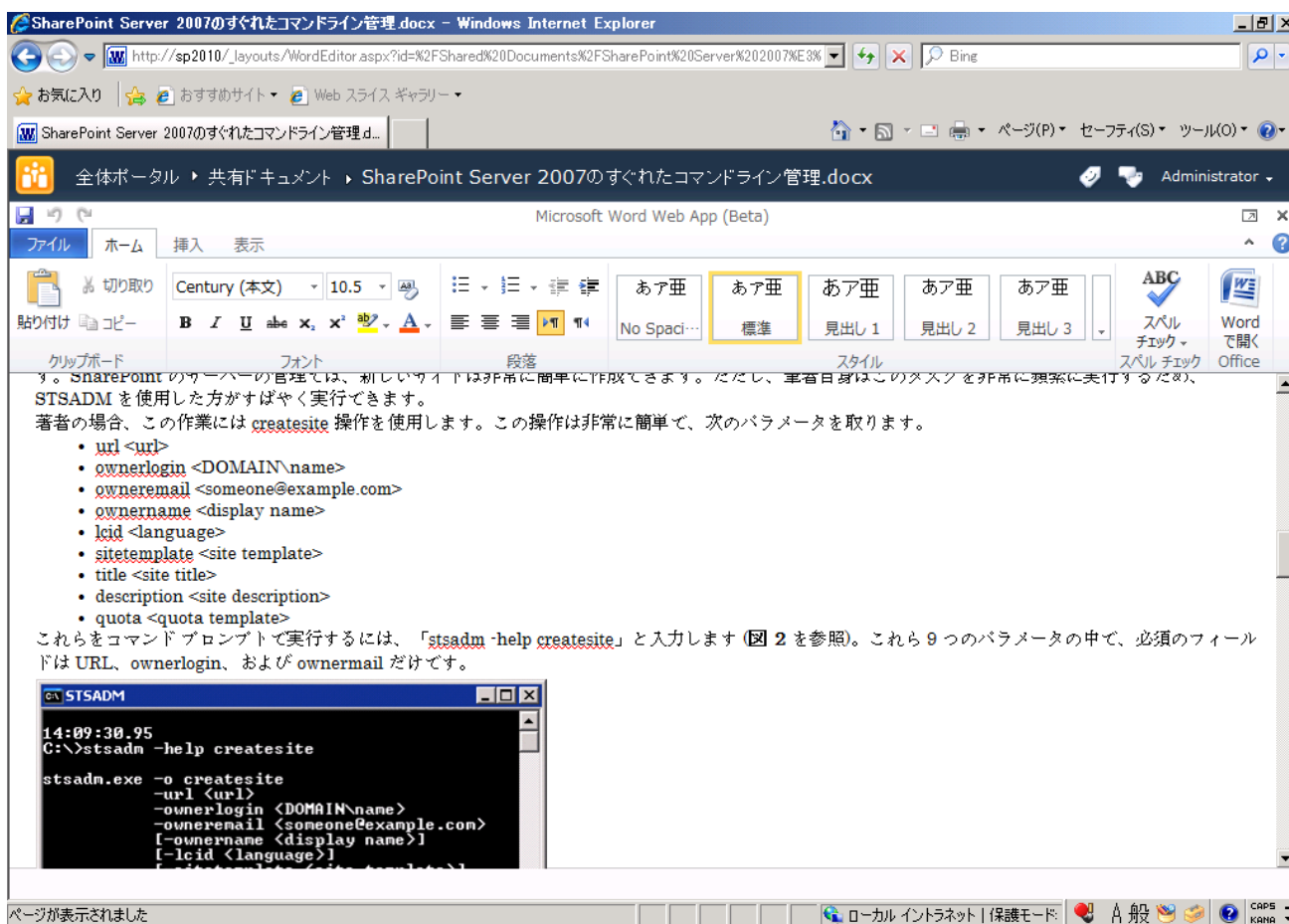
[新しいドキュメントの追加] をクリックすると、[ドキュメントのアップロード] ダイアログが表示されます。 [参照] をクリックし、ファイルを指定してから[OK] をクリックします。



ドキュメントがアップロードされたら、ファイル名の右に表示される「▼」をクリックし、サブメニューを表示します。メニューから[ブラウザで編集] を選択します。



ファイルがブラウザ内で表示され、編集が可能になっていることを確認します。

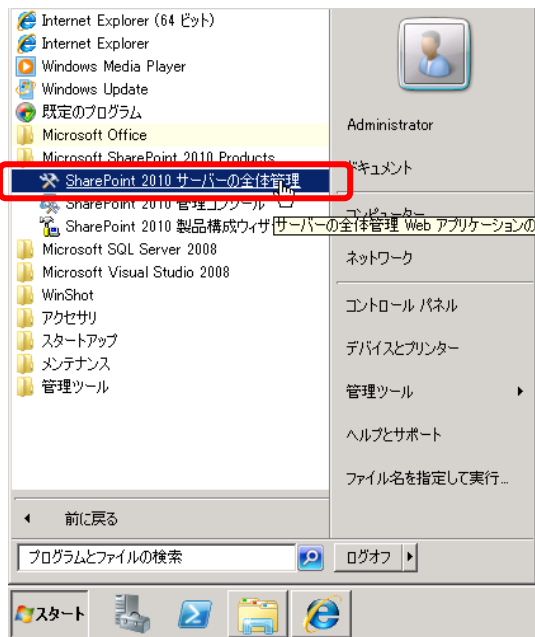


2.5 評価に必要な設定を行う

本自習書は、インストール、アップグレードを主眼に作成されているため、SharePoint Server 2010 インストール後に行わなければならない種々の設定のうち、機能評価に必要な幾つかの設定のみを行います。

1. 検索用サービスアカウントの設定を行います。

[スタート] から[SharePoint 2010 サーバーの全体管理] をクリックします。

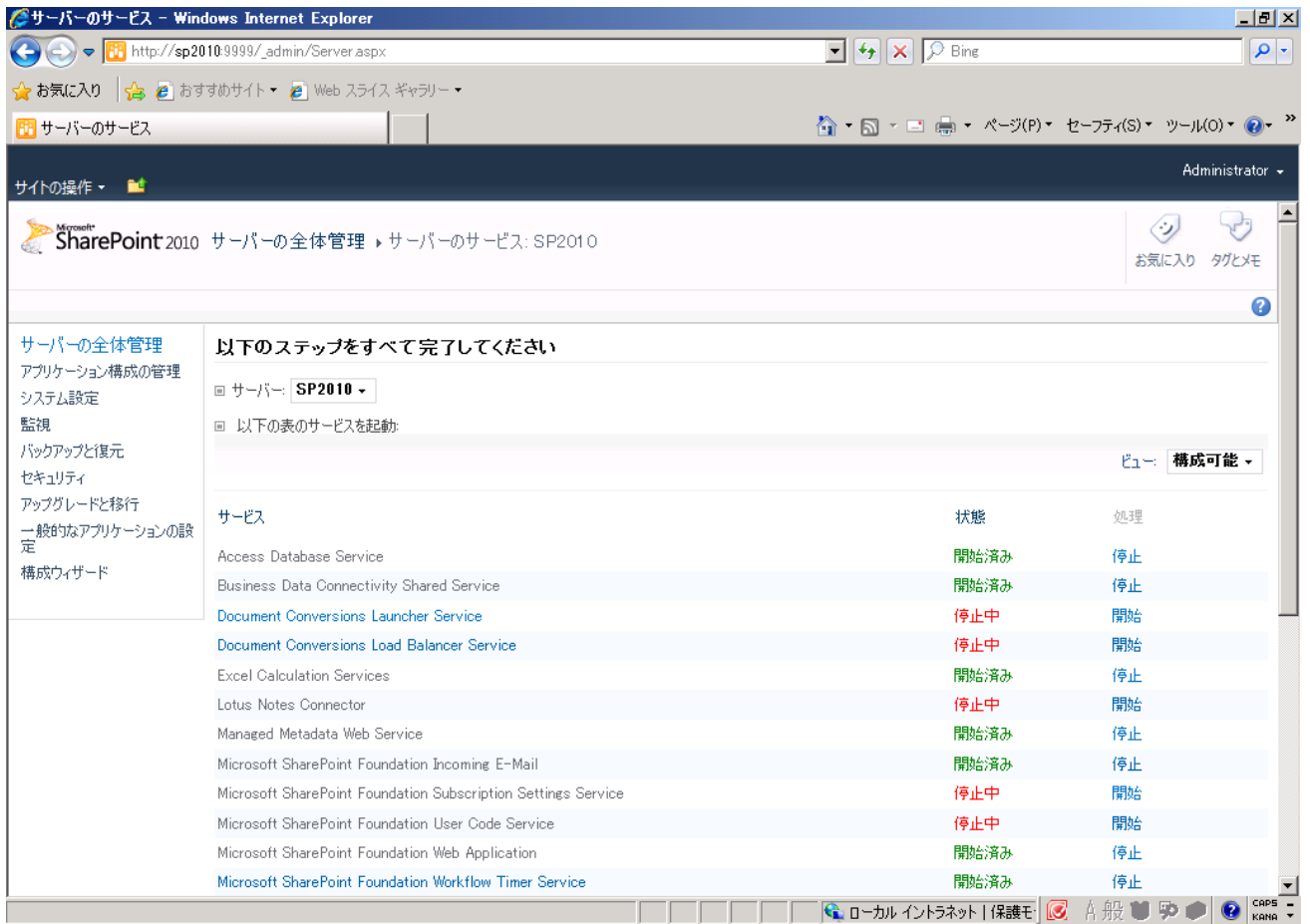


SharePoint Server 2010 サーバーの全体管理でサイドリンクバーから[システム設定] をクリックします。

[サーバー] のカテゴリから[サーバーのサービスの管理]をクリックします。



サーバーのサービスウィンドウが開きます。
 構成可能なサービスは「青いハイパーリンク」で表示されています。



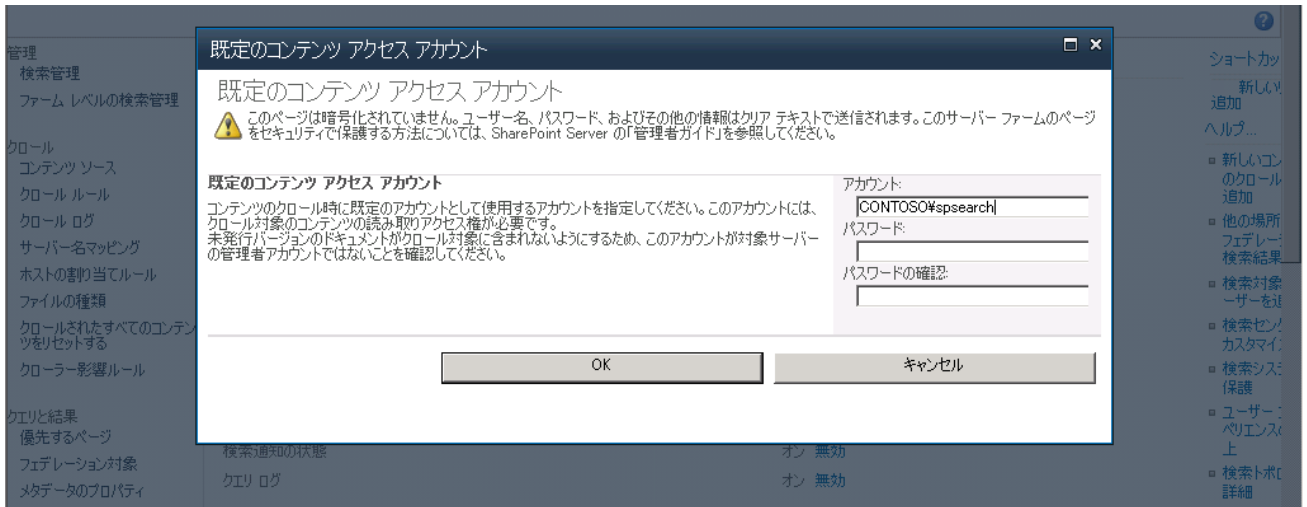
サーブिस一覧から[SharePoint Search Service] をクリックします。[ファームレベルの検索管理] ページが開きます。その後[Search サービス アプリケーション] をクリックします。



Search サービスアプリケーション: 検索管理 ページが開きます。
[既定のコンテンツアクセスアカウント] をクリックします。



既定の検索用サービスアカウントを入力します。

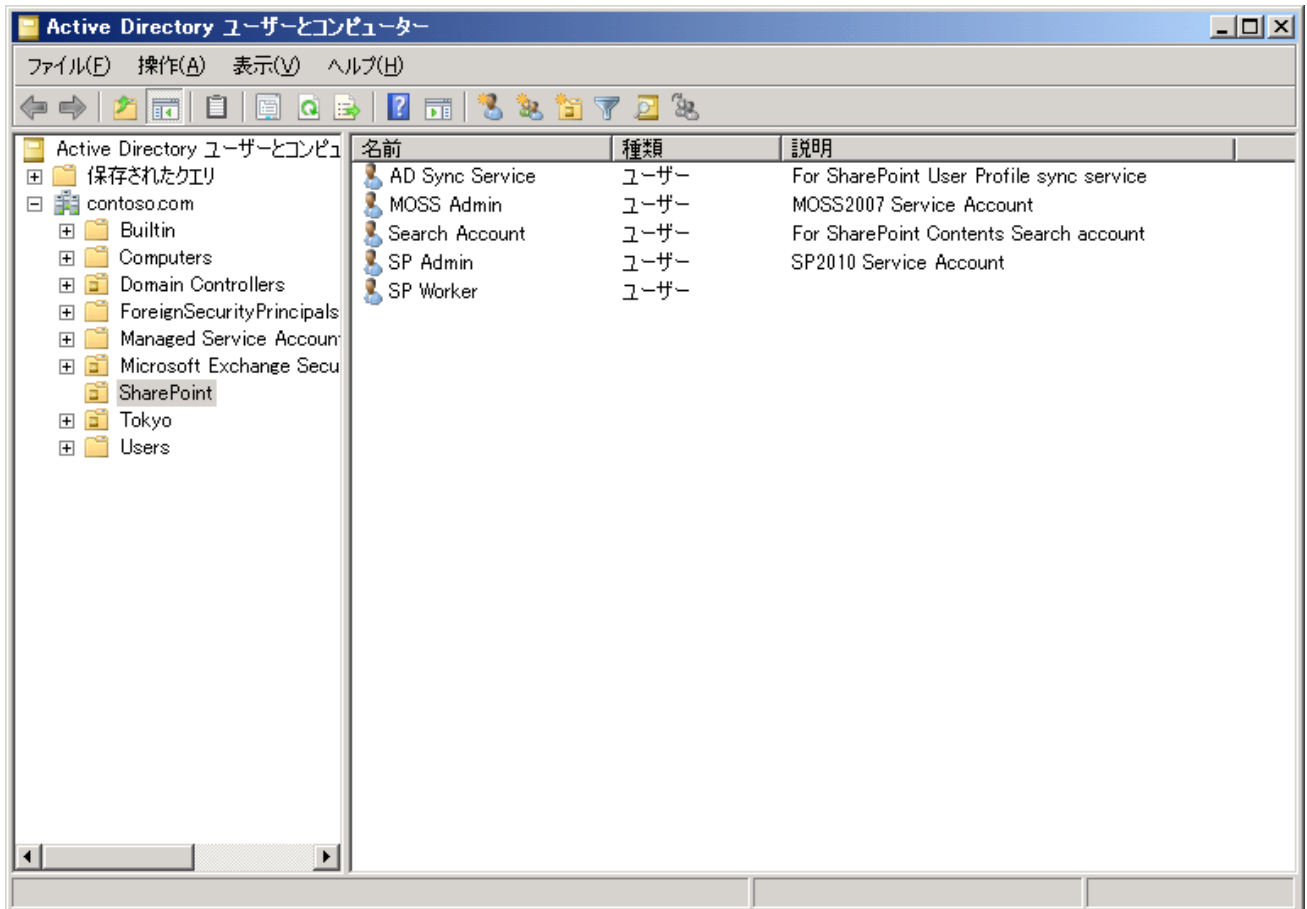


メモ:

SharePoint Server 2010 を評価するために、幾つかのサービスアカウントを準備しておくことをお勧めします。

検索用サービスアカウントは Domain Users に所属しているアカウントを使用することができます。

例:



コンテンツのクローリングを開始します。

サイドリンクバーから [コンテンツ ソース] を選択します。

[コンテンツ ソースの管理] ページで既定の [ローカルの SharePoint サイト] 右側に表示される [▼] をクリックし、メニューからフルクローリングの開始を選択します。

The screenshot shows the 'Content Sources Management' page in a Windows Internet Explorer browser. The address bar shows the URL: http://sp2010:9999/_admin/search/listcontentsources.aspx?appid=d9317b79%2D3fde%2D4ea2%2Da5b6%2Dc. The page title is 'Search サービス アプリケーション: コンテンツ ソースの管理'. The left navigation pane has 'コンテンツ ソース' (Content Sources) highlighted with a red box. The main content area shows a table of content sources. The first row is for 'ローカルの SharePoint サイト' (Local SharePoint Site), which is highlighted with a red box. A dropdown menu is open for this row, and the 'フルクローリングの開始' (Start Full Crawling) option is highlighted with a red box. The table columns are: 種類 (Type), 名前 (Name), 状態 (Status), 現在のクローリング時間 (Current Crawling Time), 前回のクローリング時間 (Last Crawling Time), 前回のクローリング完了 (Last Crawling Completed), 次回のフルクローリング (Next Full Crawling), 次回の増分クローリング (Next Incremental Crawling), and 優先度 (Priority).

種類	名前	状態	現在のクローリング時間	前回のクローリング時間	前回のクローリング完了	次回のフルクローリング	次回の増分クローリング	優先度
ローカルの SharePoint サイト	ローカルの SharePoint サイト	アイドル	00:03:20	2010/01/16 17:50	なし	なし	なし	標準

2. 受信メールの設定を行います。

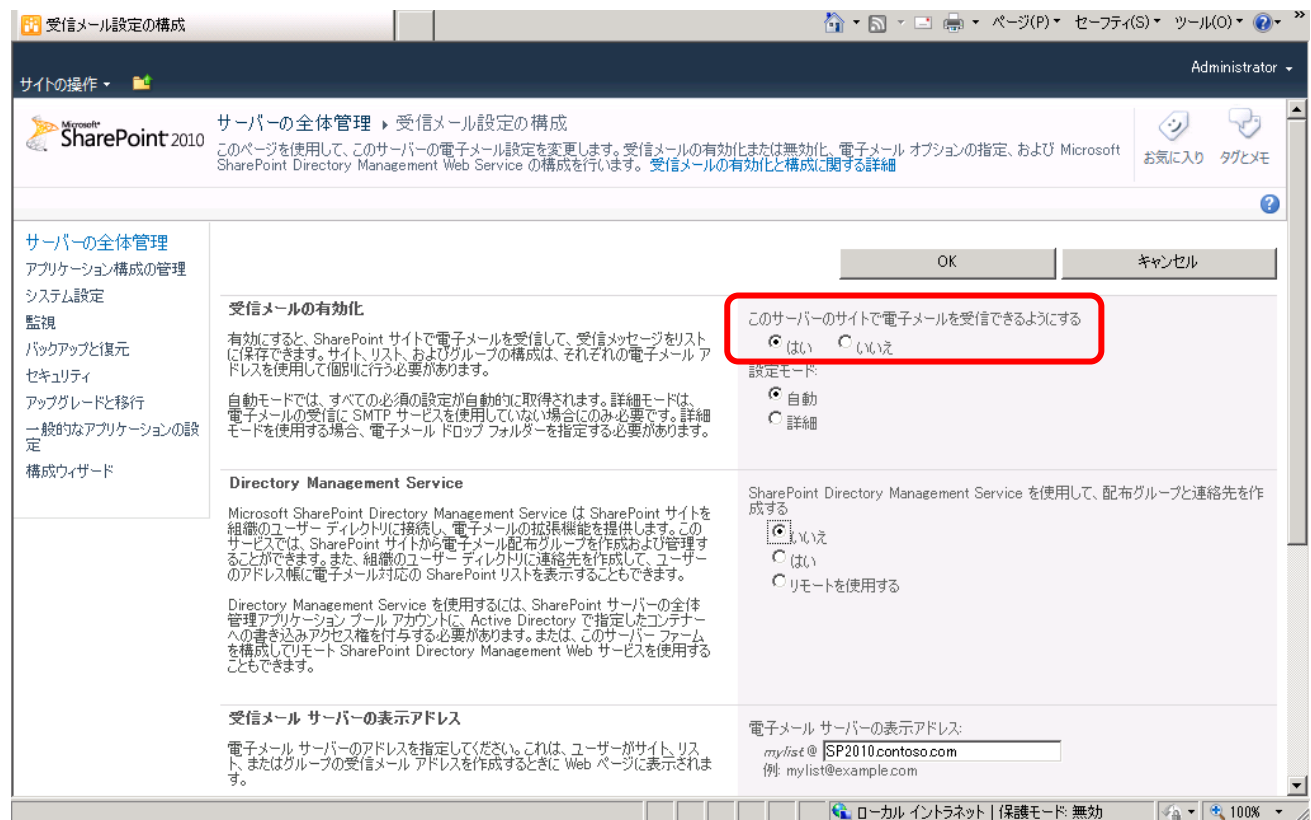
サイドリンクバーから[システム設定] をクリックします。

[電子メールとテキスト メッセージ(SMS)] カテゴリから[受信メール設定の構成] をクリックします。



[受信メールの有効化]セクションで[このサーバーのサイトで電子メールを受信できるようにする] で [はい] を選択します。

[OK] をクリックします。



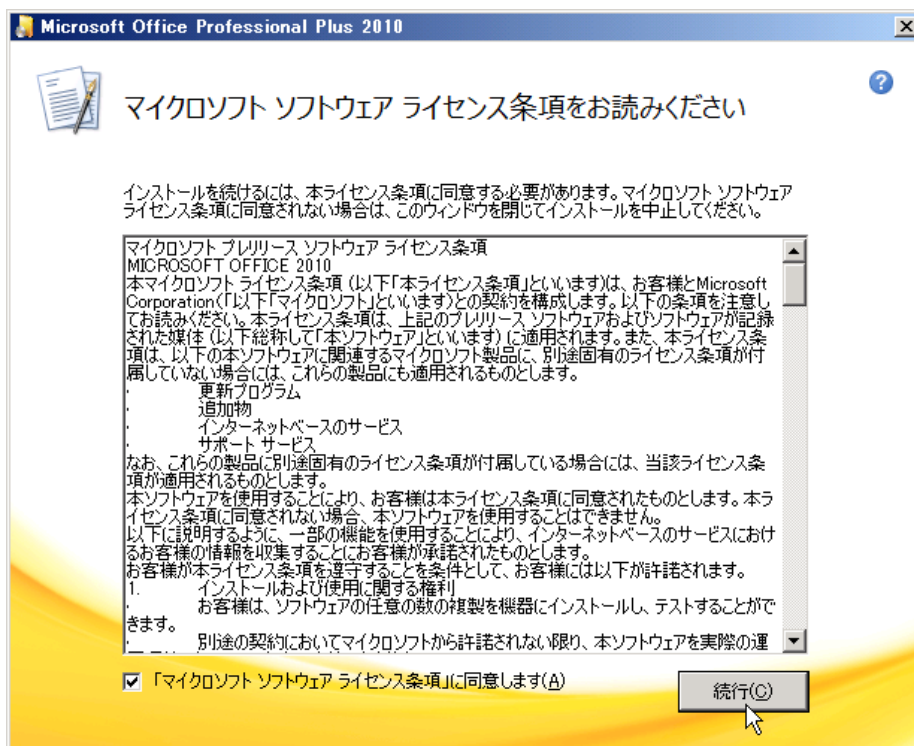
2.6 Microsoft Office 2010 ベータ製品をインストールする

Office Professional Plus 2010 はクライアントアプリケーション製品です。SharePoint Server 2010 サーバー上にインストールして検証することも可能ですし、別のクライアントOS（Windows 7 など）にインストールし、クライアントOS 側から SharePoint Server 2010 との連携を検証することもできます。

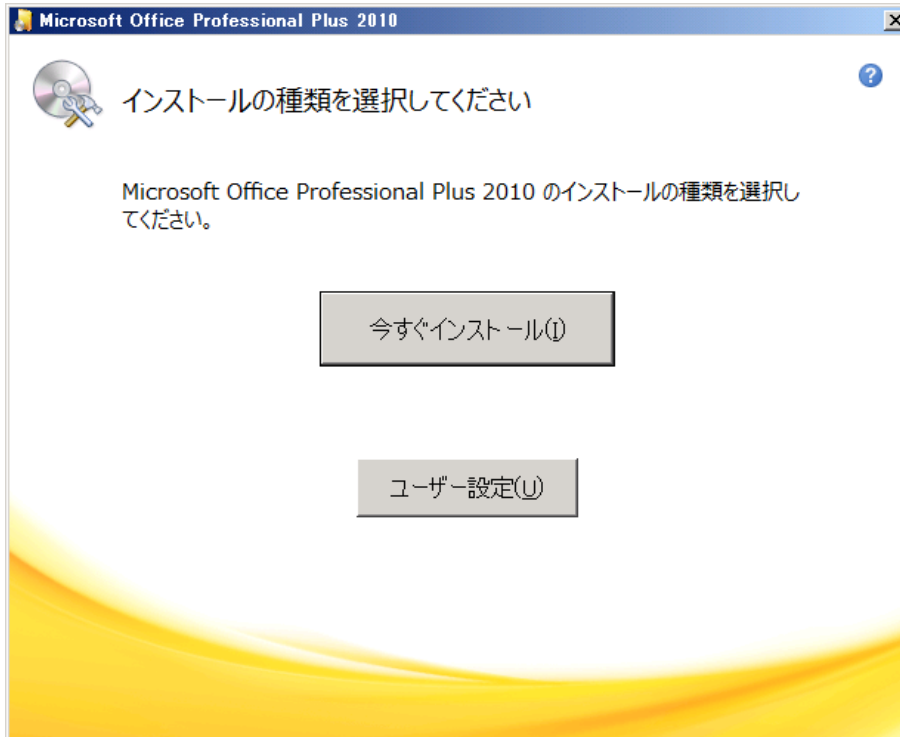
SharePoint Server 2010 サーバー上に Office 2010 をインストールするときは、Windows Server 2008 の機能「デスクトップエクスペリエンス」をインストールしておく必要があります。

（本自習書の手順では既にインストール済みの環境になっています。）

1. ダウンロードした Office Professional Plus 2010 ファイルをダブルクリックし、実行します。
[「マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項」]に同意します] を選択し、[続行] をクリックします。



プロダクトキーを入力します。プロダクトキーはダウンロード時に表示されたキーを入力し [次へ] をクリックします。
[インストールの種類を選択してください] で [今すぐインストール] をクリックします。



インストールが開始されます。終了後[閉じる] をクリックします。



Office Professional Plus 2010 が正しくインストールされたことを確認します。

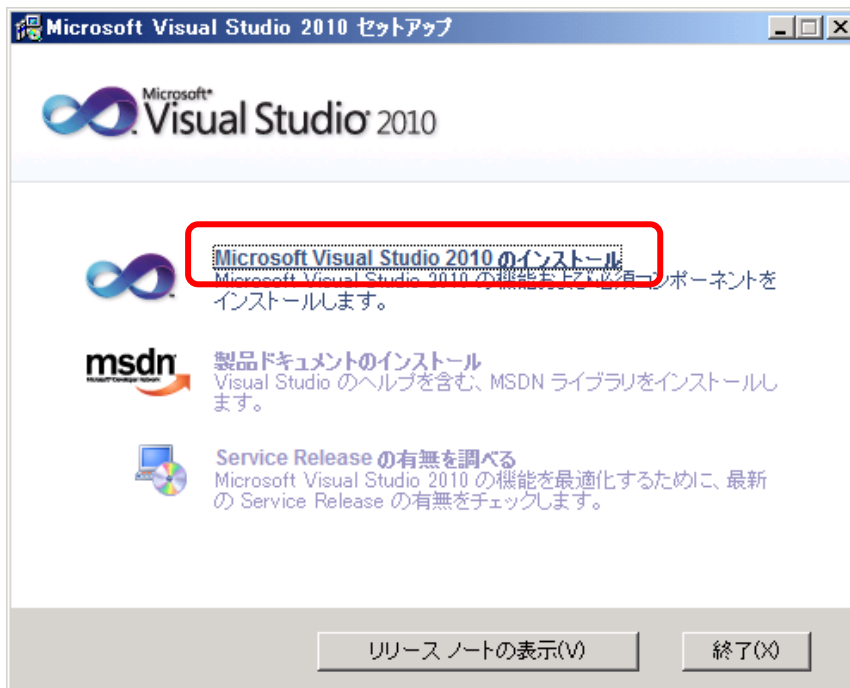


Microsoft Office Visio 2010、 SharePoint Designer 2010 も同様にインストールします。

2.7 Visual Studio 2010 Ultimate ベータ 2 をインストールする

この手順は、開発評価の必要がある場合にのみ行います。開発者は Visual Studio 2010 を合わせて検証することにより、SharePoint Server 2010 の開発が非常に容易になっていることを確認できるでしょう。

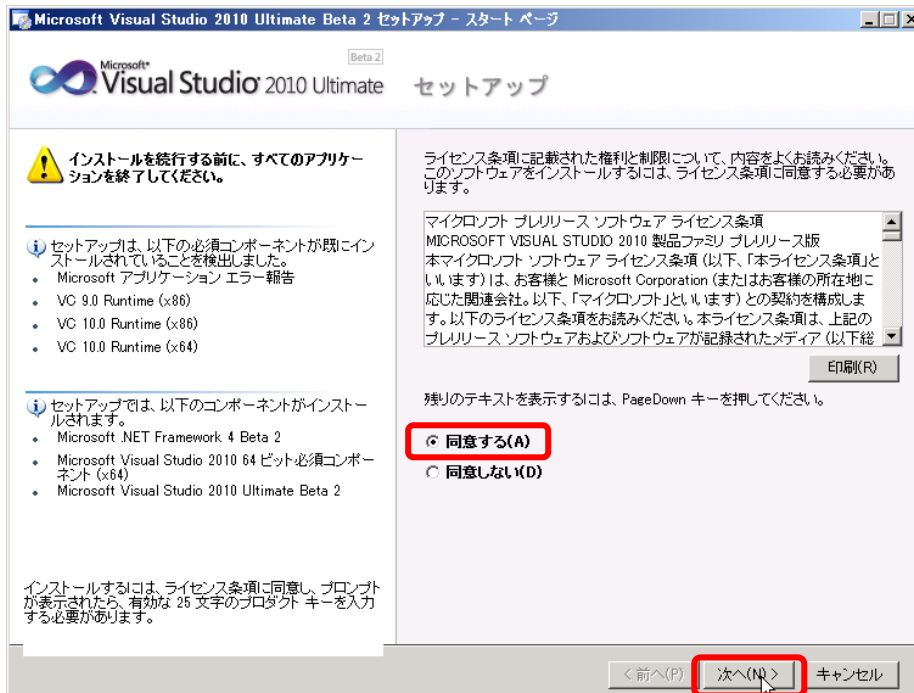
1. ダウンロード済みの Visual Studio 2010 Ultimate ベータ 2 DVD ディスクを用意します。 Setup.exe を実行いたします。 [Microsoft Visual Studio 2010 のインストール] をクリックします。



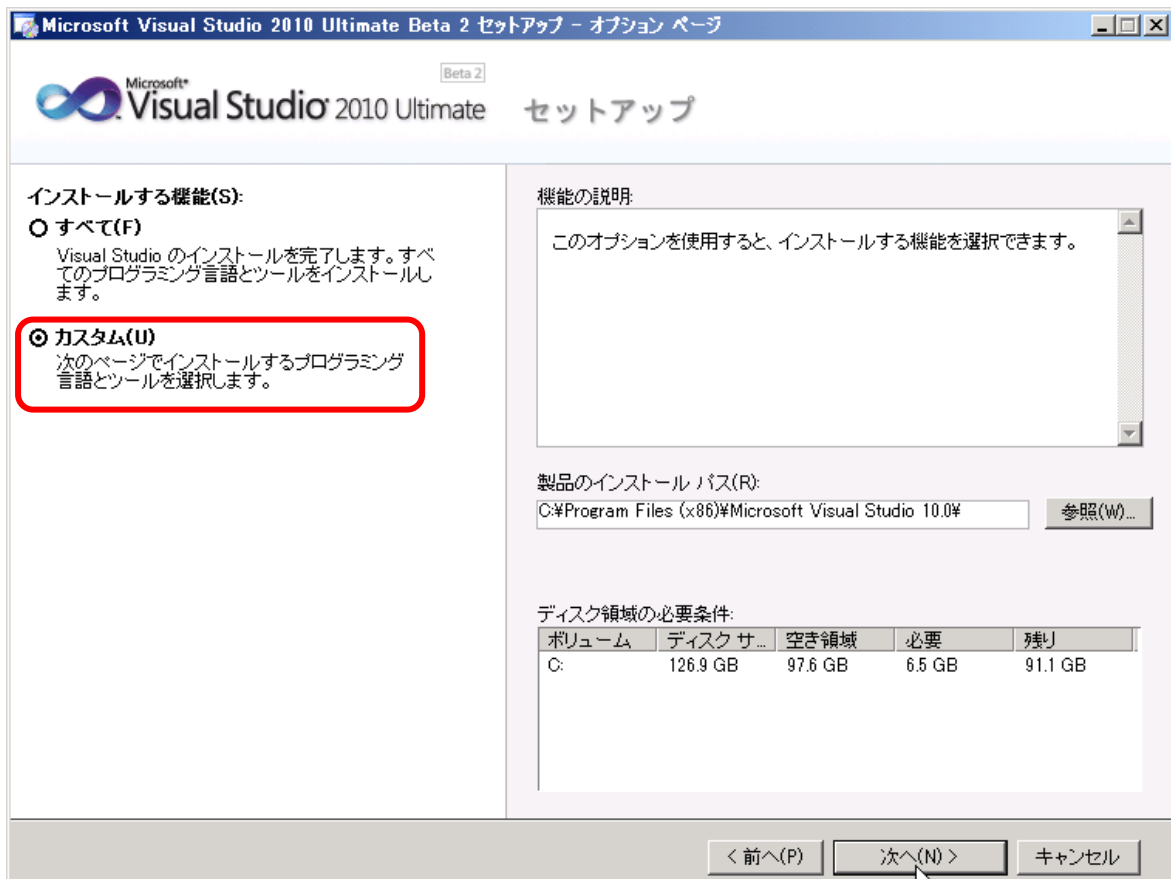
インストール ウィザードが立ち上がりましたら、[次へ] をクリックします。



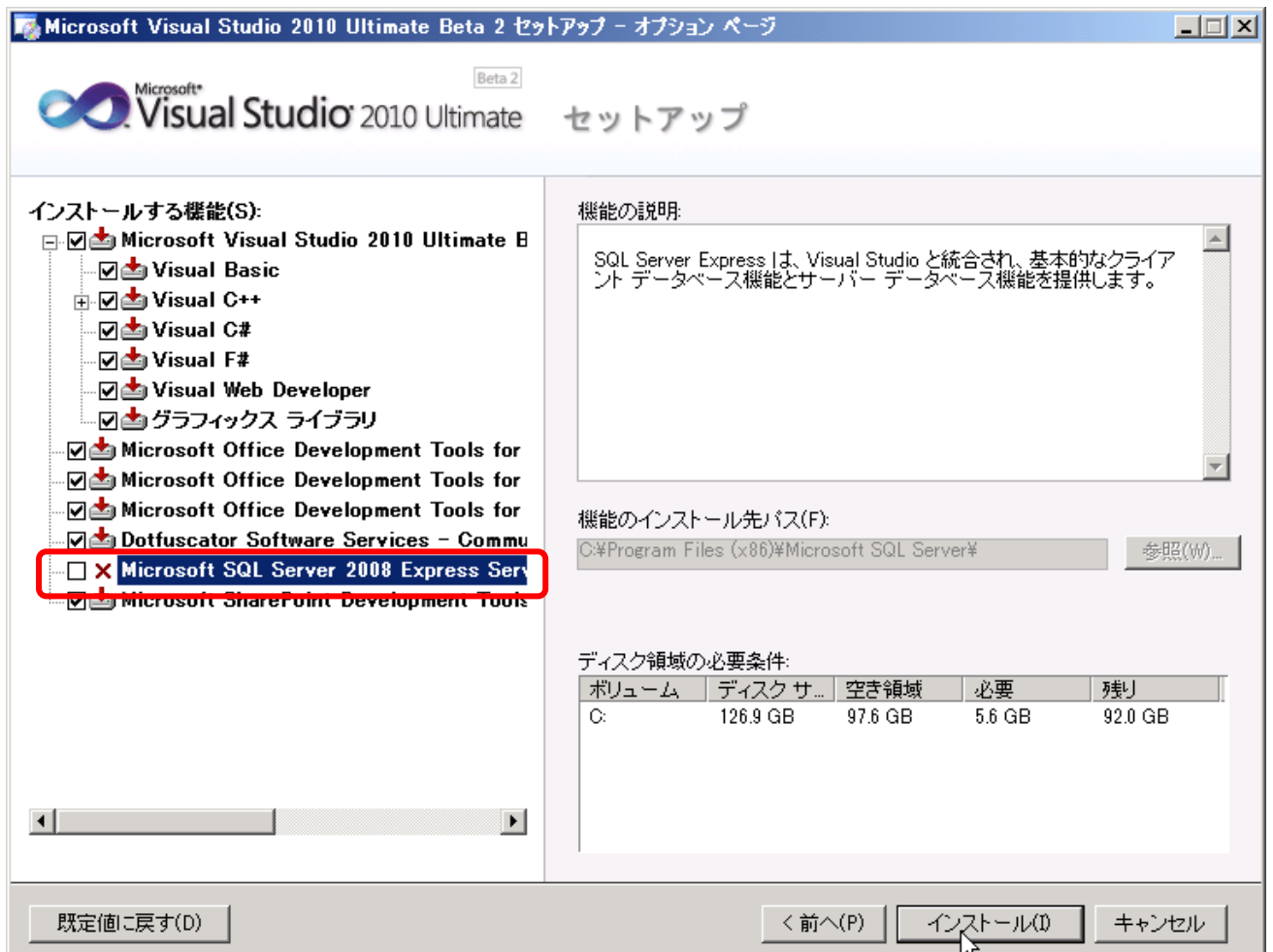
ライセンスに[同意する] を選択し、[次へ] をクリックします。



インストールする機能で [カスタム] を選択します。



この環境には既に SQL Server 2008 がインストールされているため、[Microsoft SQL Server 2008 Express] のチェックを外します。



インストールが完了したら、[完了] をクリックし、インストールを終了します。

2. (オプション) Visual Studio 2010 ベータ 2 SDK をダウンロードし、インストールできます。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=cb82d35c-1632-4370-acfb-83c01c2ece24&displaylang=en>

必要に応じてインストールを実行します。

第3章 SharePoint Server 2007 からのアップグレード

3.1 アップグレードを始める前に

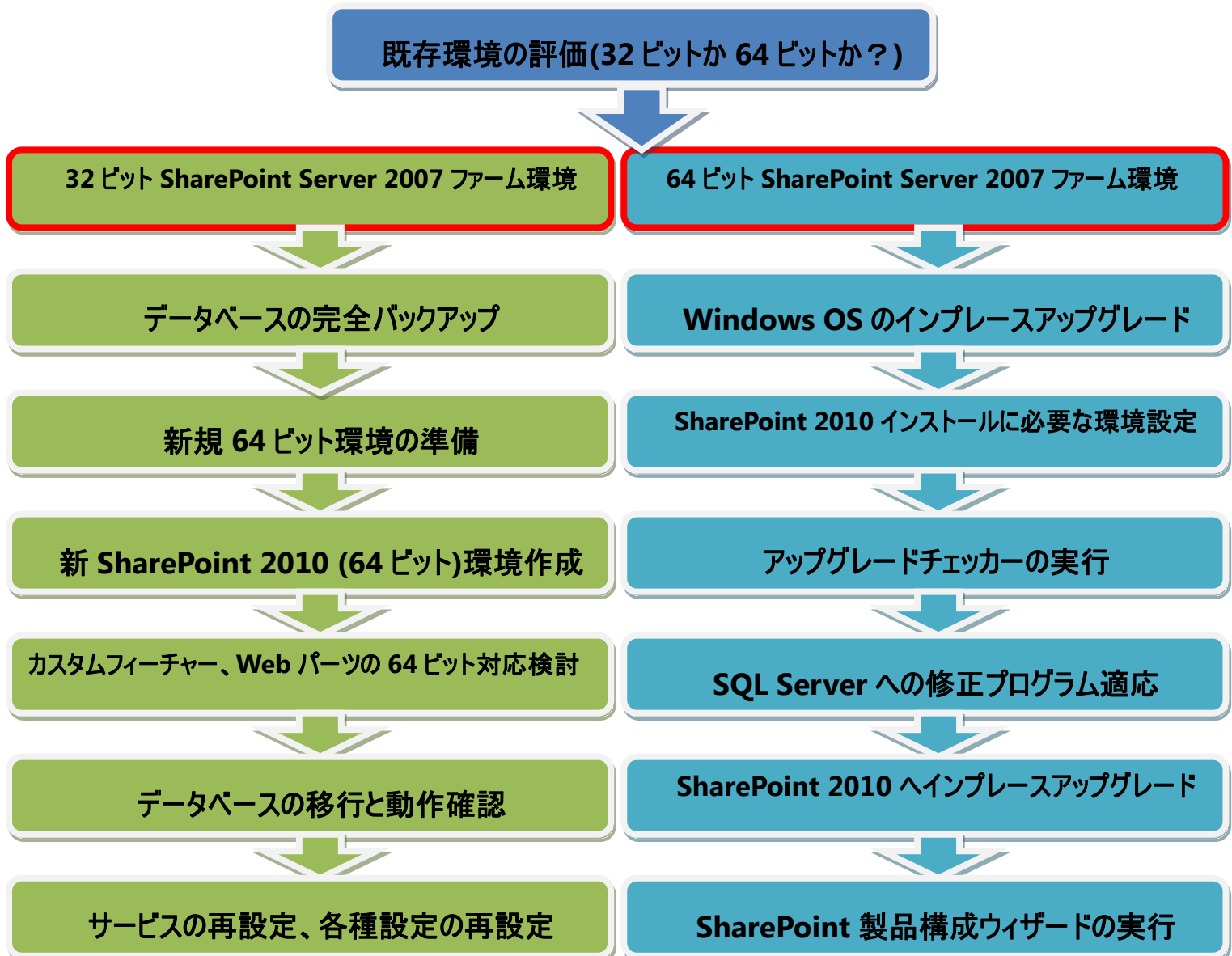
これまでの SharePoint Server 2007 では「一括アップグレード」、「段階的なアップグレード」とアップグレードをインストーラーベースで比較的容易に行うことができました。SharePoint Server 2010 でも一括アップグレードなどインストーラーレベルの GUI アップグレードが用意されていますが、考慮しなければならない大きな問題があります。

それは、SharePoint Server 2010 は 64 ビット版でしか提供されないということです。

これまでの SharePoint Server 2007 が 32 ビット OS 環境で構築されている場合は、まずファーム環境全体を 64 ビット OS 環境にアップグレードする必要があります。SQL Server 2005、もしくは SQL Server 2008 も 64 ビット環境にする必要があります。すべてを関連する 64 ビット OS 環境にする必要があります。

そのため、アップグレードを考える場合には、大きく分けて 3 つの手法が考えられます。一つはインプレースアップグレード、二つ目はデータベース移行、三つ目は「ハイブリット」とよばれる、インプレースとデータベース移行を組み合わせた手法です。

アップグレード実行前には、以下のチャートを考慮し、最適なアップグレード手法を選択してください。



3.2 既存環境が 64 ビットで、インプレースアップグレードを計画する

現在の Office SharePoint Server 2007 がシングルサーバー構成、またはファーム構成で、64 ビット環境で構築している場合には、インプレースアップグレードを実行することができます。

具体的には以下の条件を満たしている必要があります。

サーバーOS	Windows Server 2003 x64、Windows Server 2003 R2 x64、Windows Server 2008 x64 を使用している
SharePoint Server 2007	x64 版の SharePoint Server 2007 をインストールしている SP2 が適用されていること
SQL Server	SQL Server 2005 SP3 x64 SQL Server 2008 x64

本自習書では、Windows Server 2003 SP2 x64 版サーバーOSと SQL Server 2005 SP3 x64 に SharePoint Server 2007 がインストールされている状態を前提にインプレースアップグレードを紹介いたします。

アップグレード前の SharePoint Server 2007 は下記のようなサイトを持っています。

トップサイト: <http://moss2007>

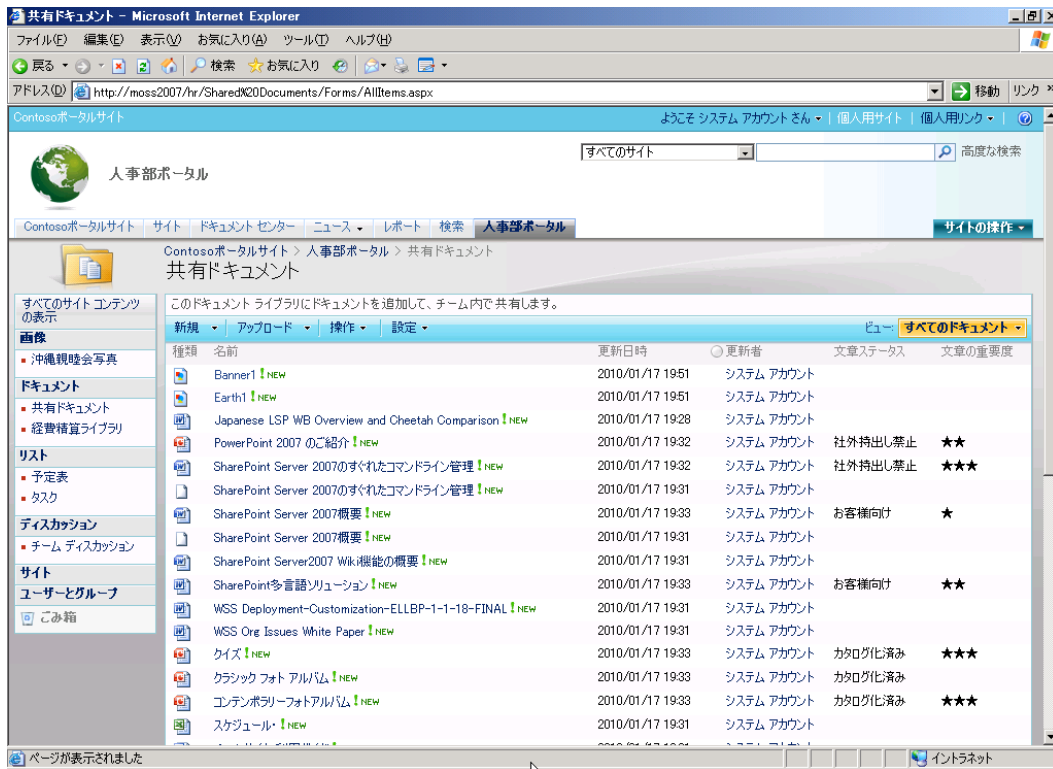


人事部ポータル: <http://moss2007/hr>

コンテンツとして、「お知らせ」、「リンク」、「共有ドキュメント」、「経費精算ライブラリ」などがあります。

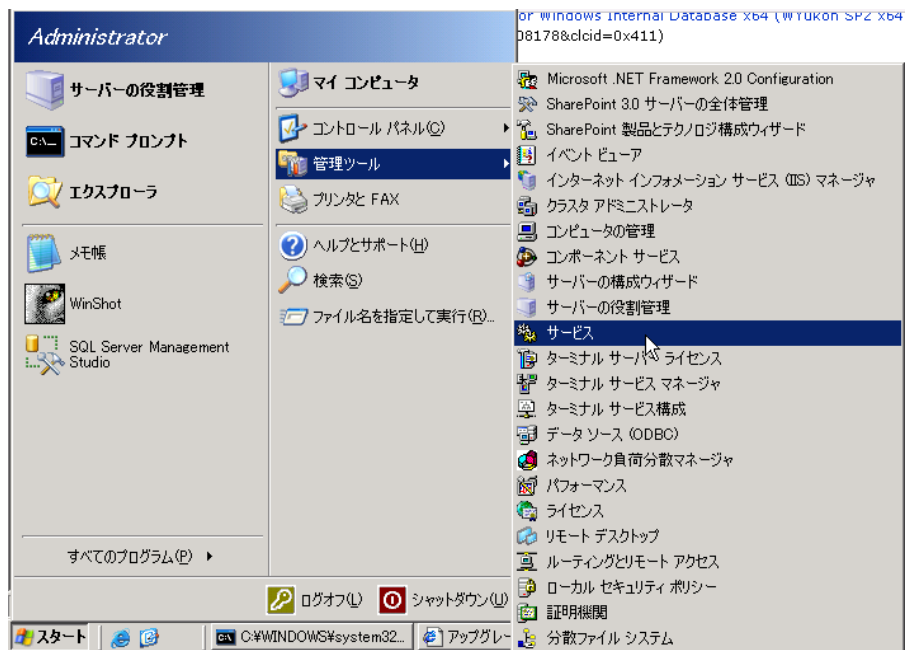


例: 共有ドキュメントの中



1. Windows Server 2003 SP2 x64 を Windows Server 2008 R2 にアップグレードします。
アップグレード中、検索サービスは停止している必要があります。

[スタート] から [管理ツール] を選択します。 [サービス] をクリックします。



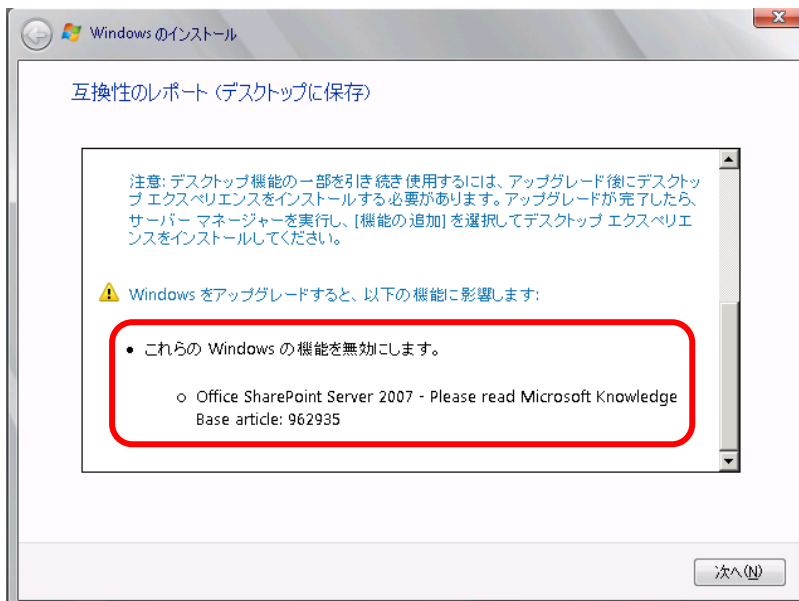
2. Windows Server 2008 R2 のメディアを挿入します。 [今すぐインストール] をクリックします。



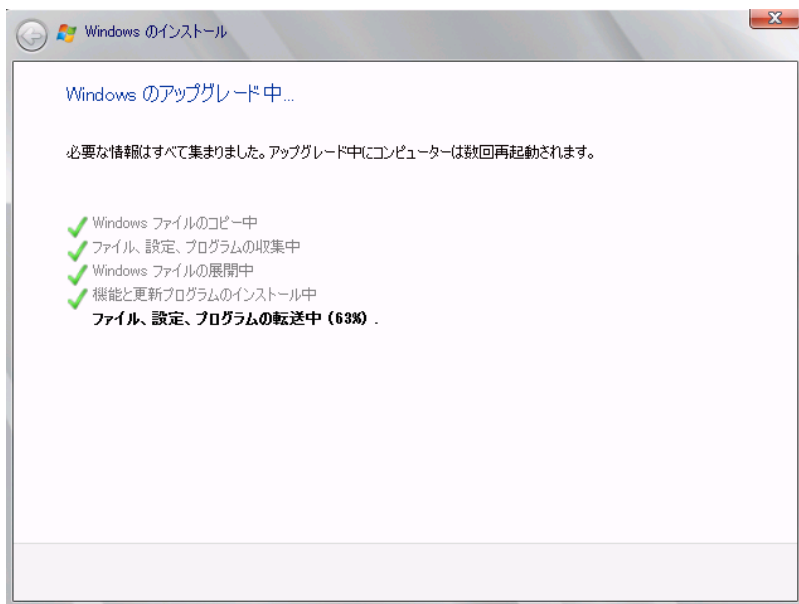
[インストールの種類] で[アップグレード] を選択します。



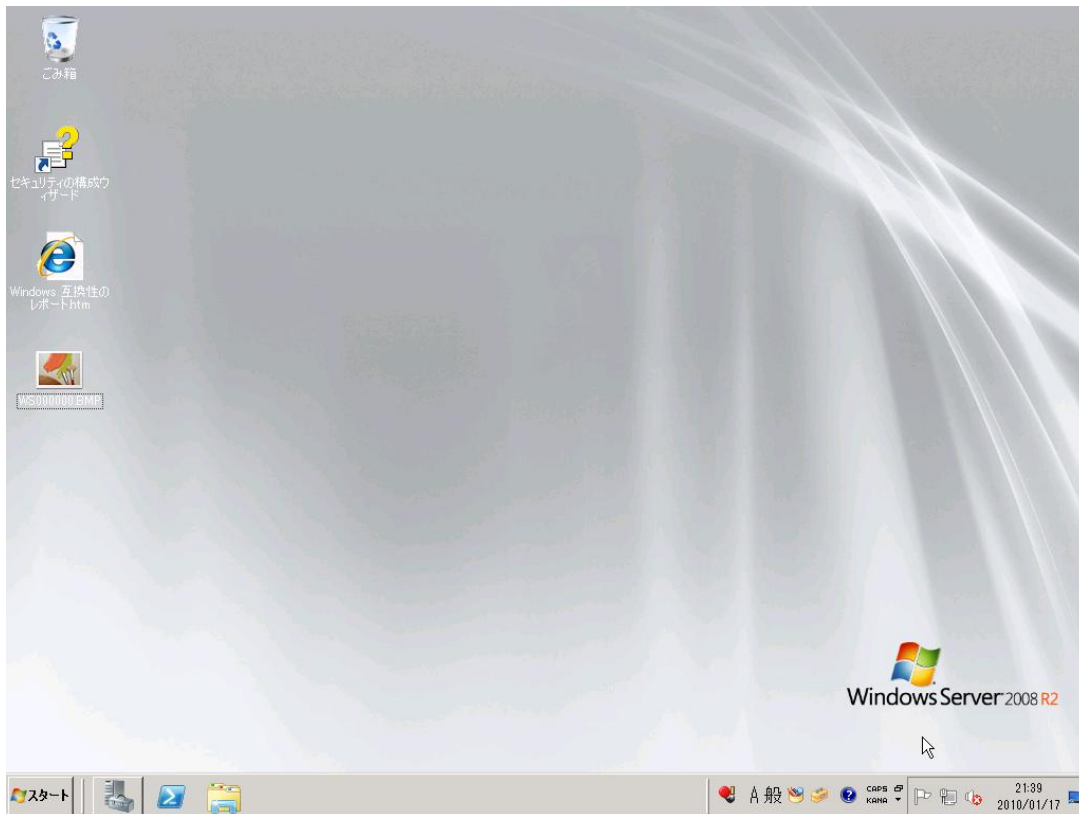
[互換性のレポート] で Office SharePoint Server 2007 の機能を無効になることを確認し、[次へ] をクリックします。



何度か再起動し、アップグレードが完了します。



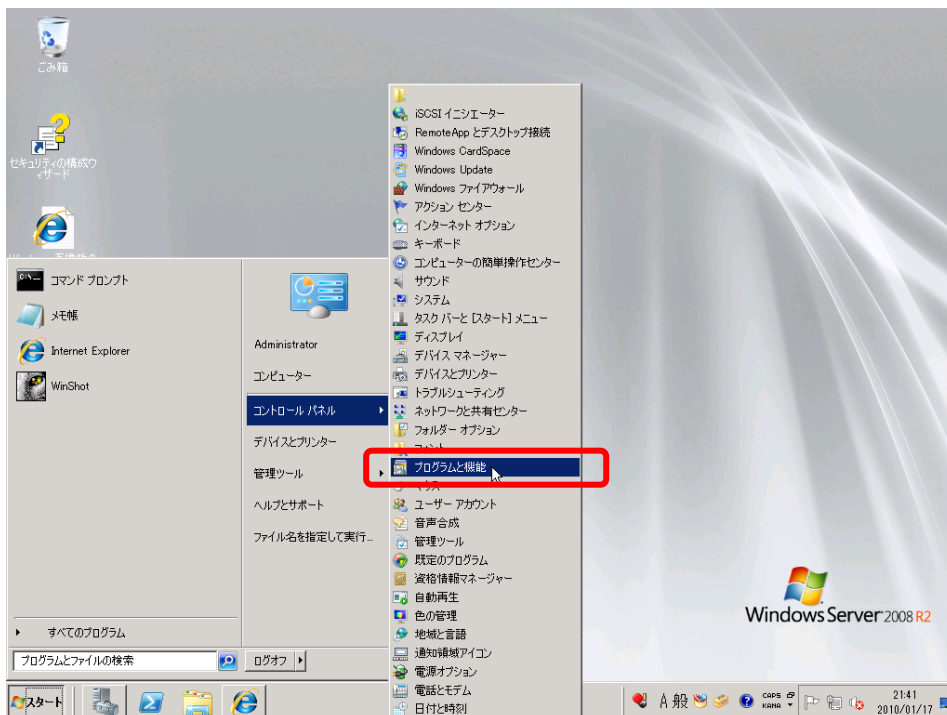
OS のアップグレードが成功したことを確認します。



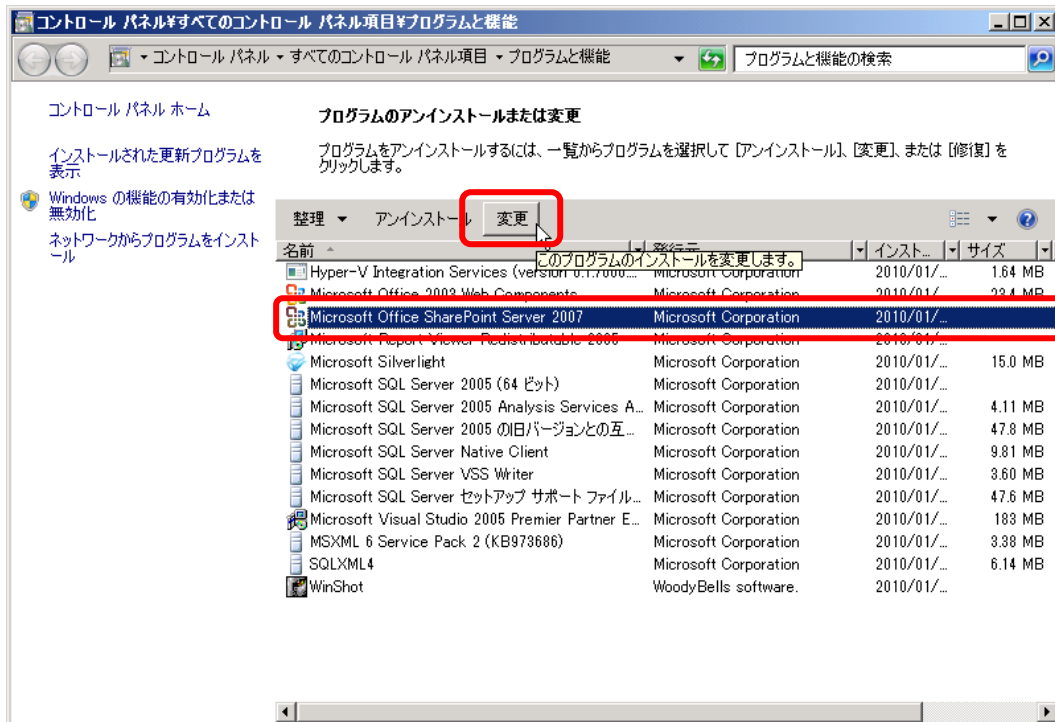
3. SharePoint Server 2007 を再度有効にします。

OS のアップグレードによって無効になった SharePoint Server 2007 を修復します。

[スタート] から[コントロールパネル] を選択します。 [プログラムと機能] をクリックします。



[プログラムのアンインストールまたは変更] から Microsoft Office SharePoint Server 2007 を選択し、[変更] をクリックします。



[修復] を選択し、[次へ] をクリックします。



修復完了後、[閉じる] をクリックします。



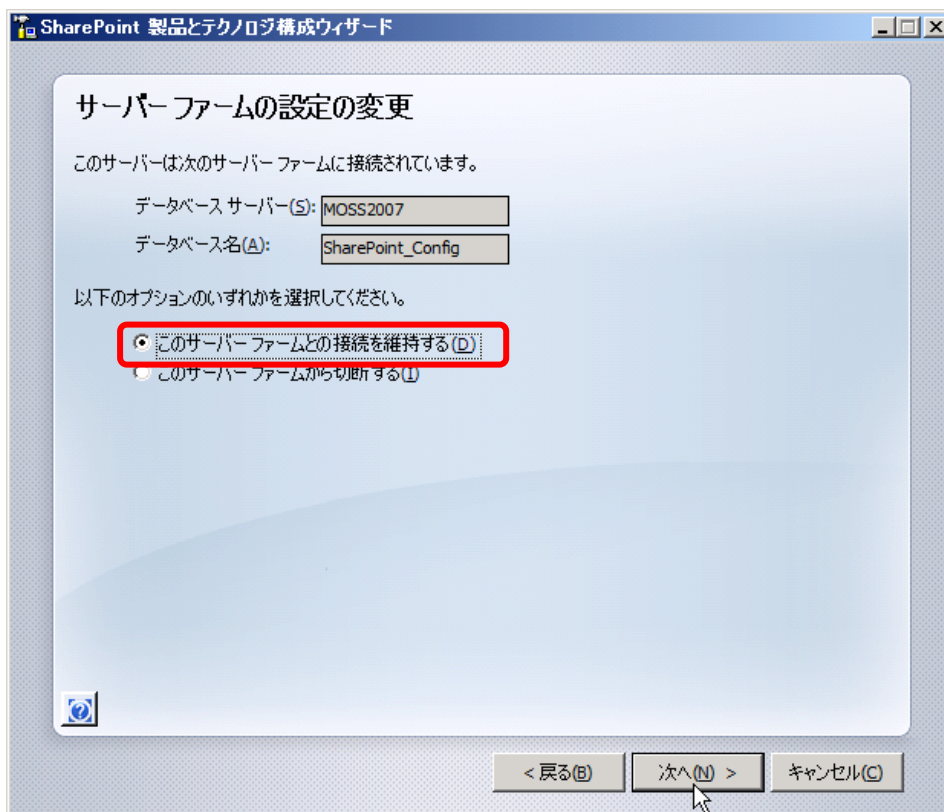
再起動します。 [はい] を選択し、今すぐ再起動します。



SharePoint 製品とテクノロジー構成ウィザードを起動し、[次へ] をクリックします。

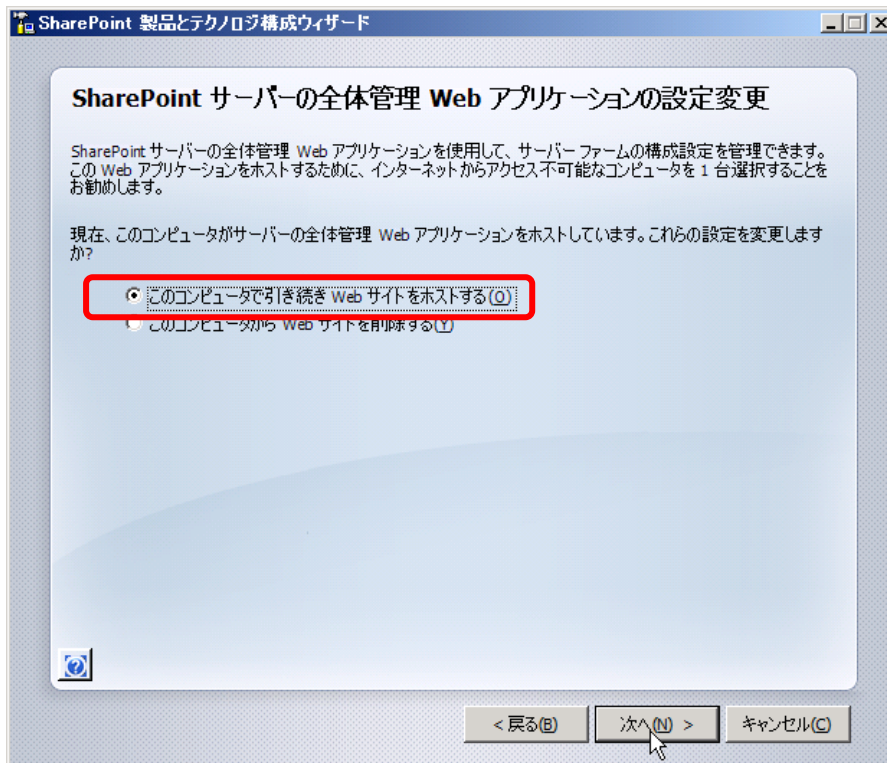


[サーバーファームの設定の変更] で [このサーバーファームとの接続を維持する] を選択し、[次へ] をクリックします。

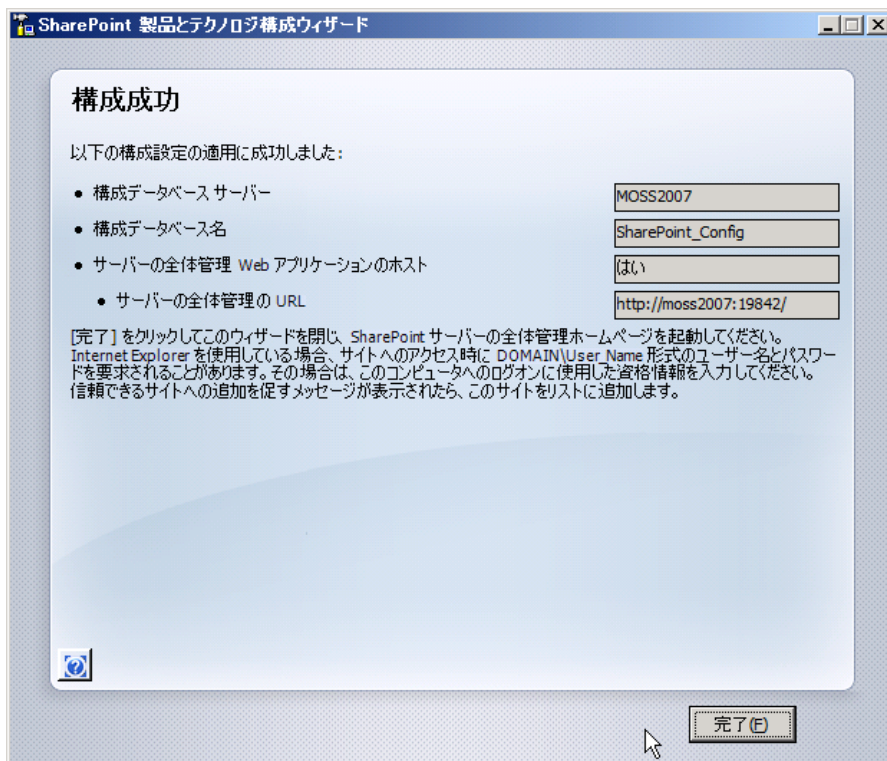


SharePoint サーバーの全体管理 Web アプリケーションの設定を確認します。

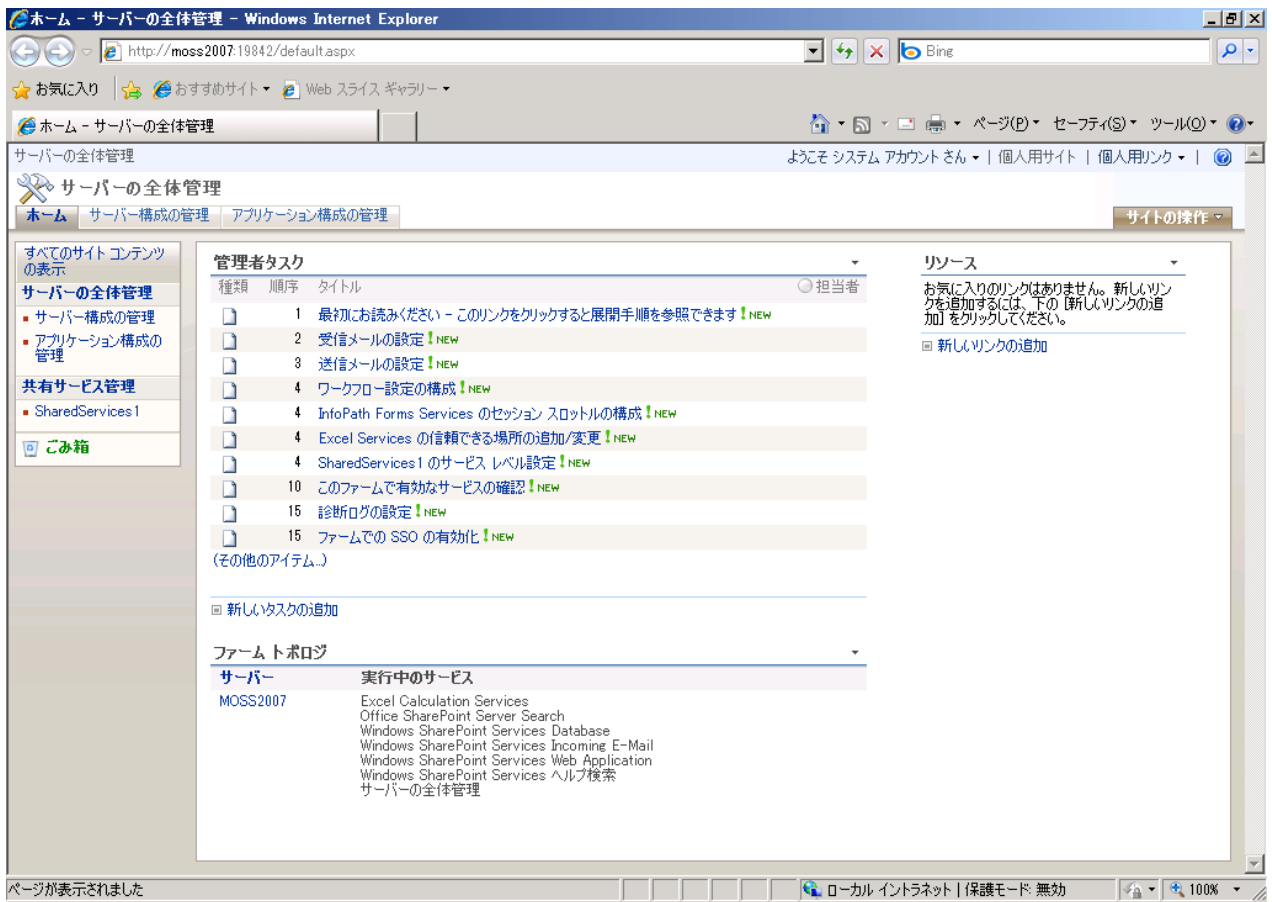
[このコンピュータで引き続き Web サイトをホストする] を選択し、[次へ] をクリックします。



[構成成功] で[完了] をクリックします。



[完了] をクリック後、SharePoint の全体管理ページが開きます。



SharePoint Server 2007 のサイトが正常に立ち上がることを確認します。



ここまでで、OS のアップデートによる SharePoint Server 2007 の再変更が完了しました。

4. インプレースアップグレードに必要な基本設定を行います。

新規インストールと同じ手順で修正モジュールのダウンロード、SharePoint 2010 のダウンロードを行います。

SQL Server 2005 SP3 はそのまま使用することができますが、最新の修正プログラムを適用する必要があります。

<http://support.microsoft.com/kb/967909/ja>

「SQL Server 2005 Service Pack 3 の累積的な更新プログラム パッケージ 3」は3つの修正プログラムから成り立ちます。

修正プログラムに関する同意を行い、電子メールアドレスを入力し、リクエストを請求します。

- ・Windows Server 機能の追加 (PowerShell、デスクトップエクスペリエンス)
- ・SharePoint Server 2010 事前準備ツールの実行
- ・Windows Server 2008 R2 WCF の修正プログラムを適用

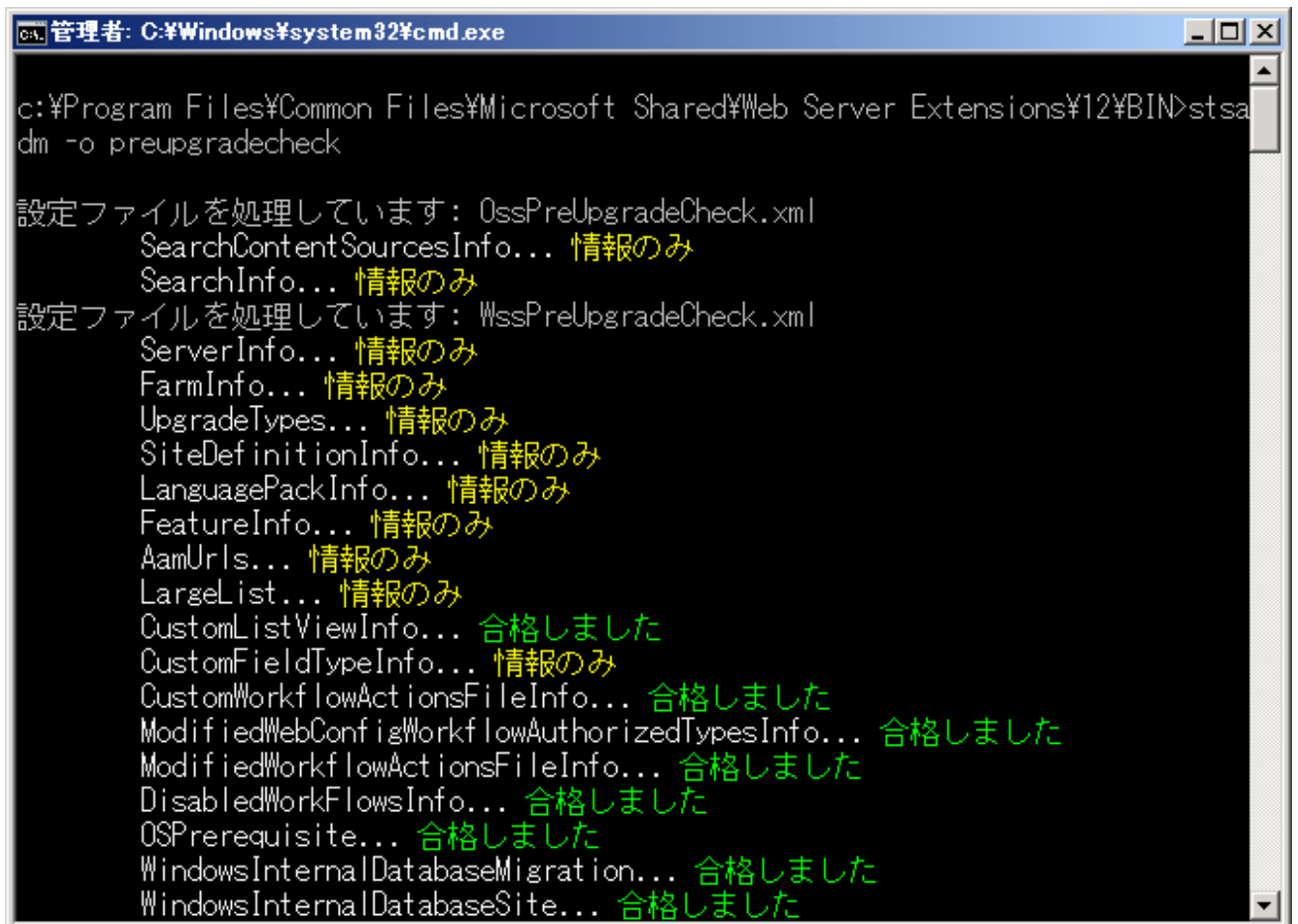
5. Preupgradecheck の実行をします。

[スタート] から [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[cmd] と入力しコマンドプロンプトを表示します。

STSADM.exe を実行します。

```
cd c:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\12\BIN
```

```
stsadm.exe -o Preupgradecheck
```

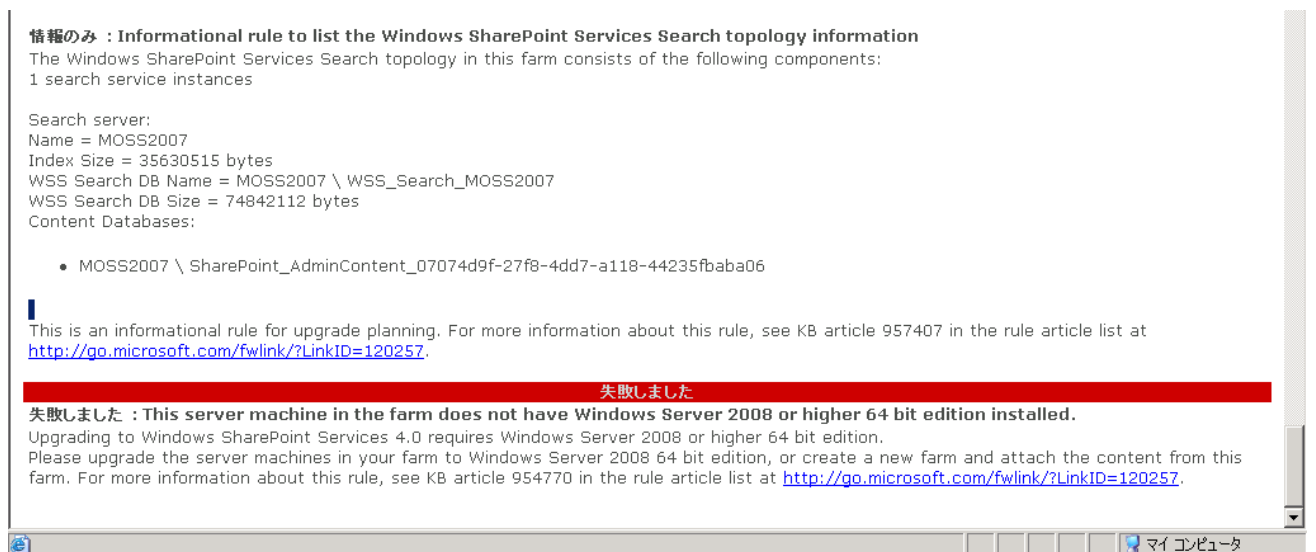


アップグレード前チェックレポートが出力されます。
レポートにエラーの記載がないことを確認します。

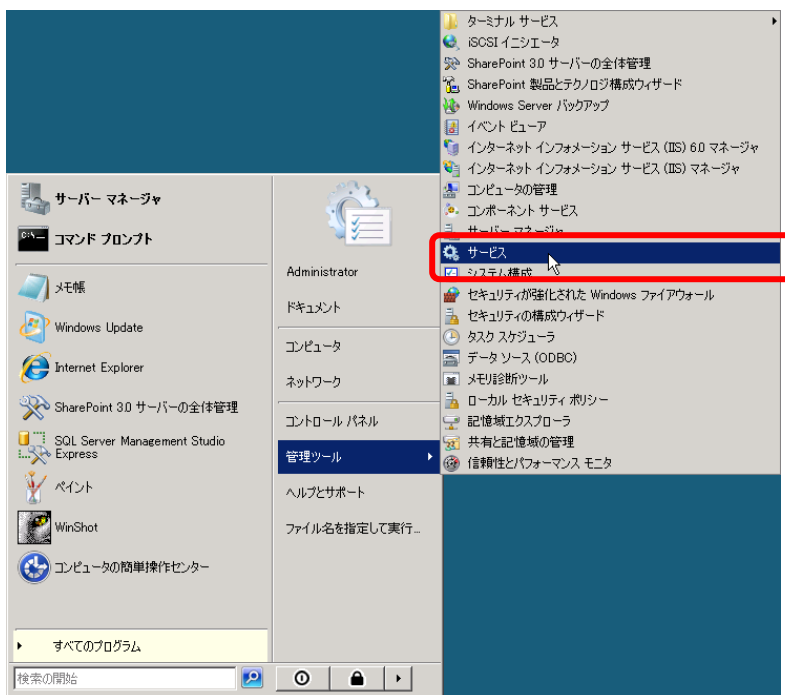


メモ:

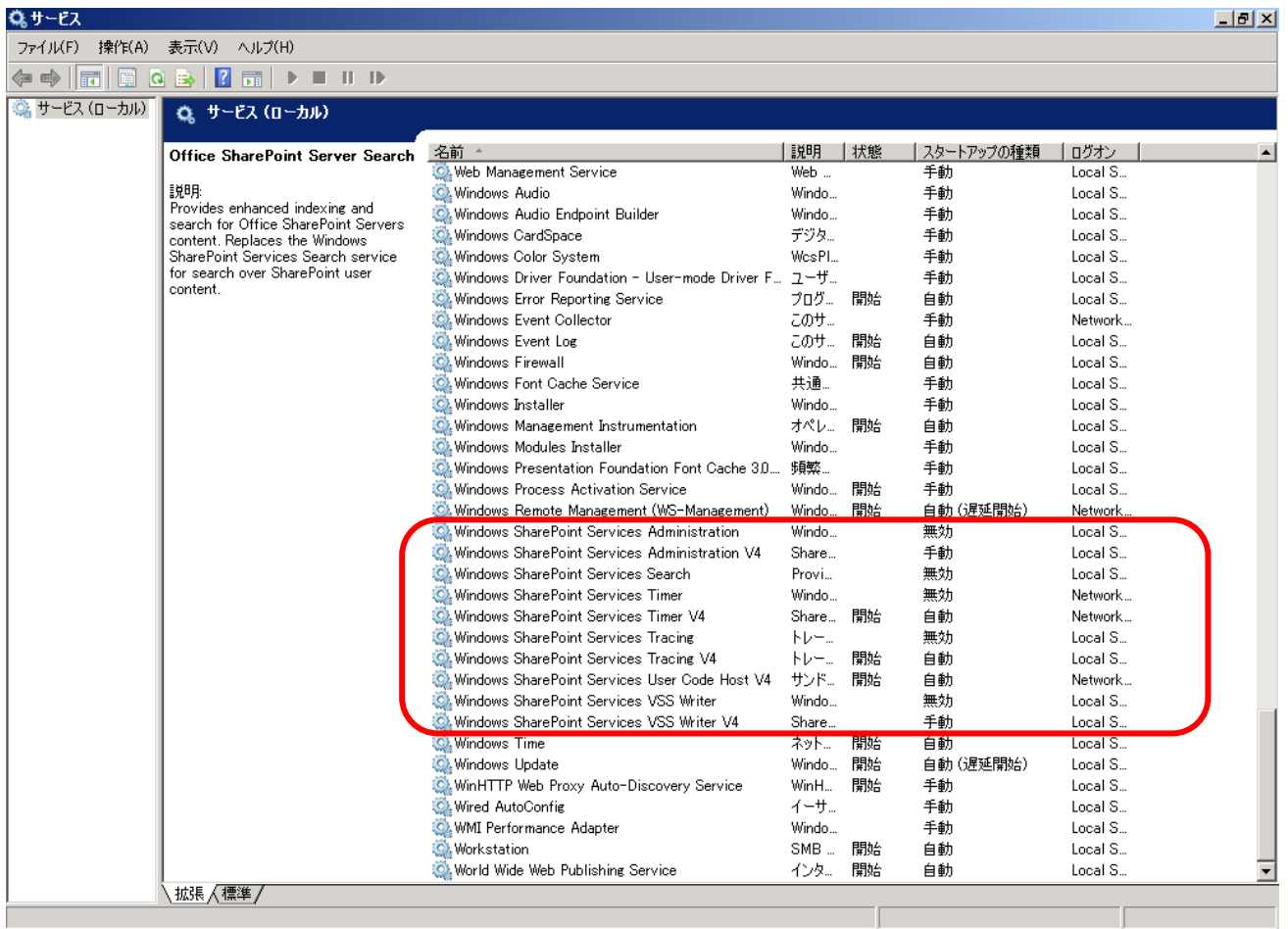
何らかのエラーがあるときには、下記のようにレポート内に「失敗しました」と表示されます。
その問題に対しての解決策がある場合にはリンクが提示されます。



6. SharePoint Server 2010 インストール前にすべての SharePoint サービスを停止します。
[スタート] から[管理ツール]を選択し、[サービス] をクリックします。



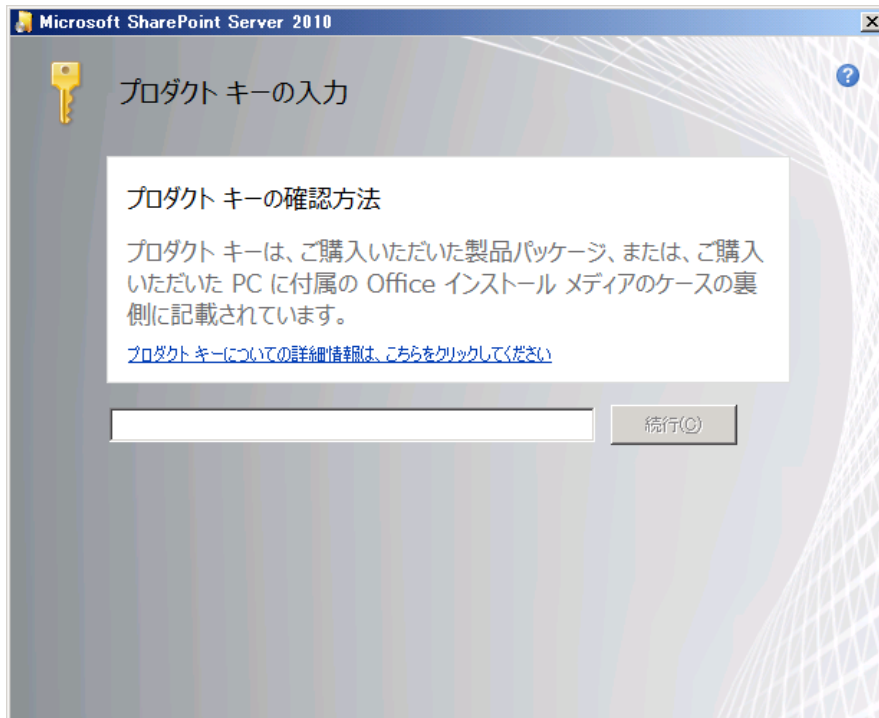
Windows SharePoint Services から始まる名前のサービス全て「Office SharePoint Server Search」を停止します。



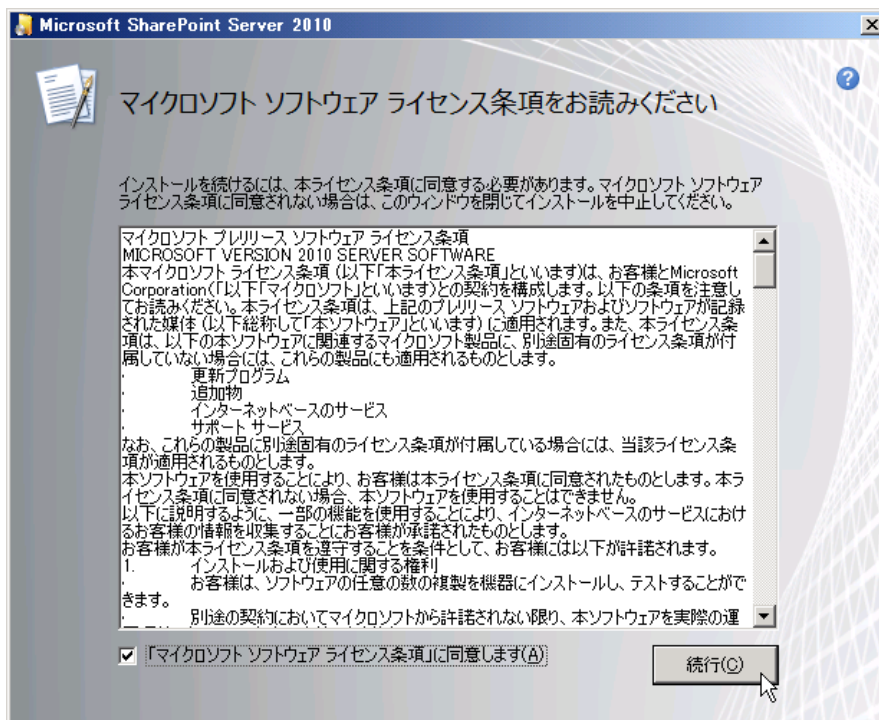
すべての SharePoint テクノロジーに関連するサービスが停止していることを確認し、インストーラーを起動します。

7. SharePoint Server 2010 のアップグレードインストールを行います。

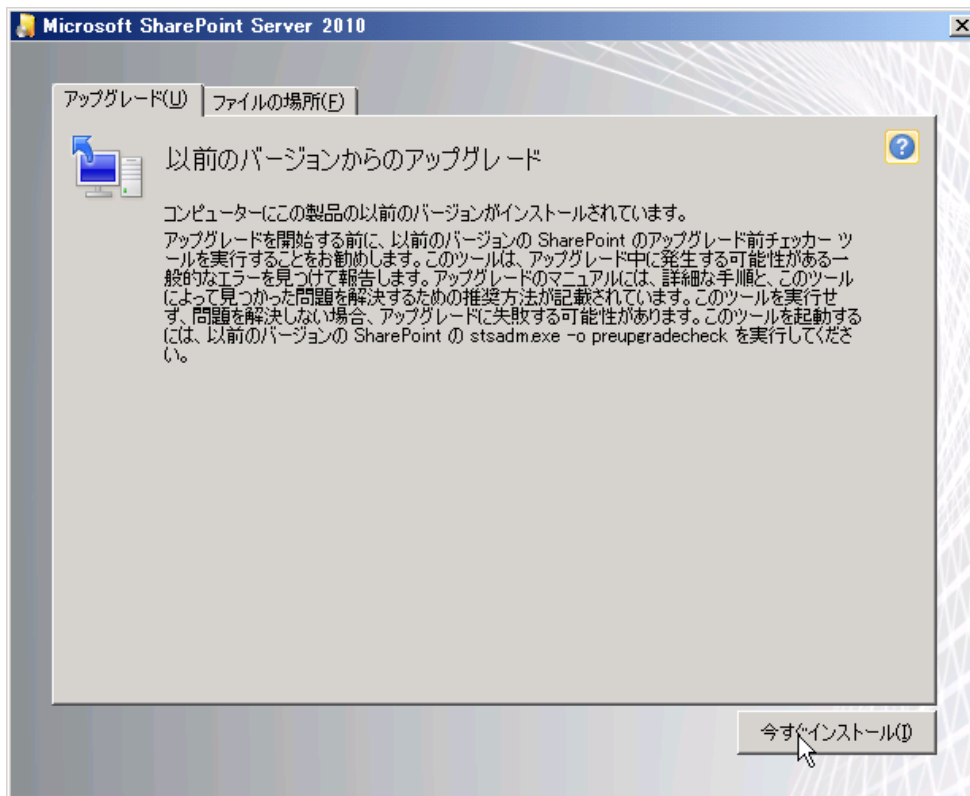
事前に解凍してある SharePoint Server 2010 から setup.exe を実行し、プロダクトキーを入力します。



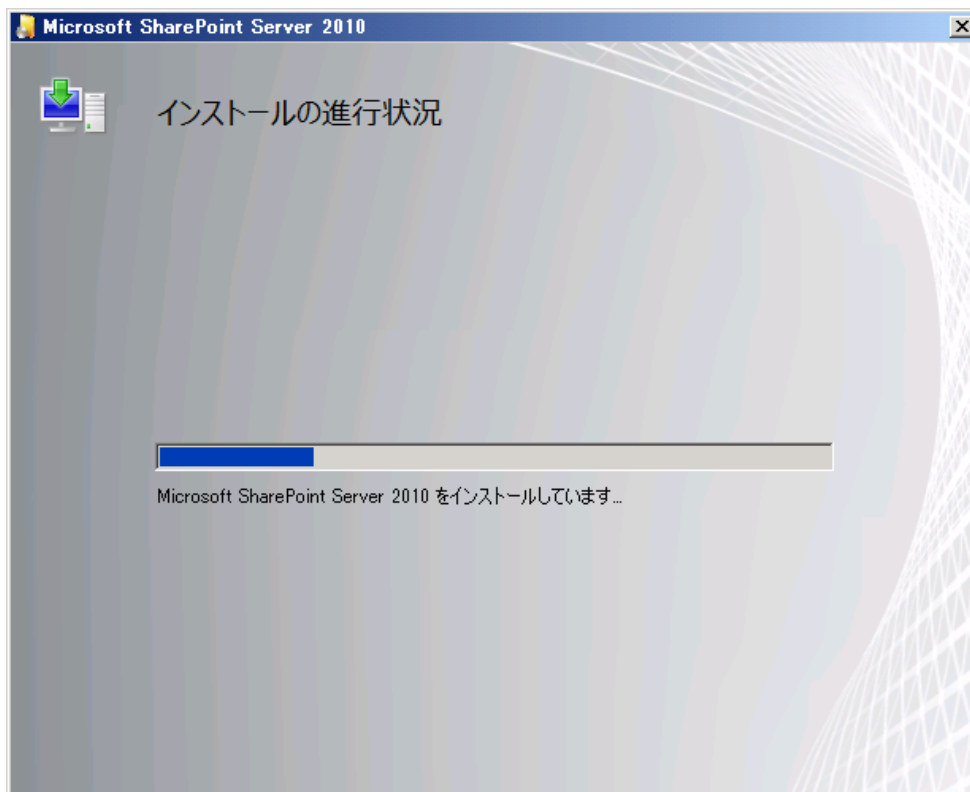
ライセンス条項に同意します。[続行] をクリックします。



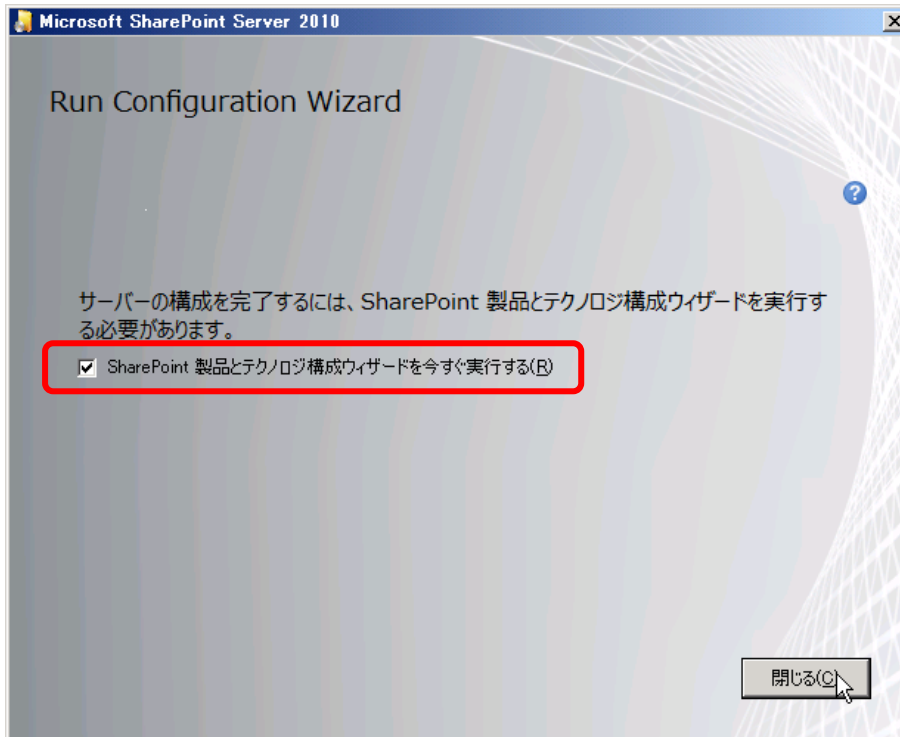
[以前のバージョンからのアップグレード] が表示されます。 [今すぐインストール] をクリックします。



SharePoint Server 2010 のインストールが行われます。



インストール終了後、[SharePoint 製品とテクノロジー構成ウィザードを今すぐ実行する] にチェックが入っていることを確認し、[閉じる] をクリックします。

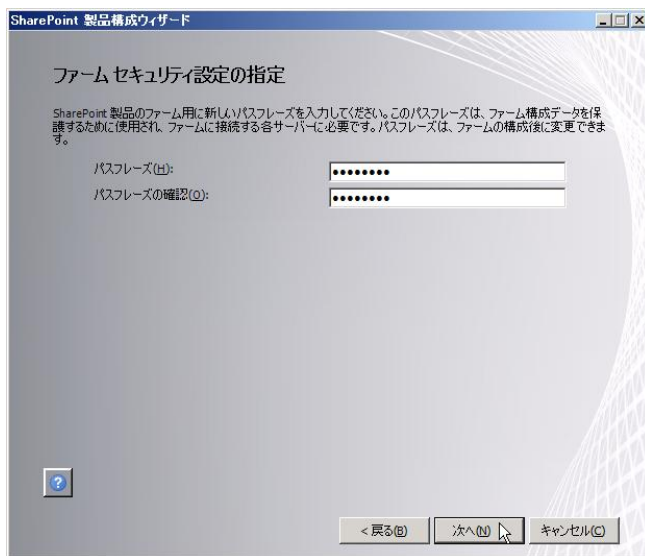


SharePoint 製品構成ウィザードが起動し、SharePoint 製品のアップグレードが実行されます。

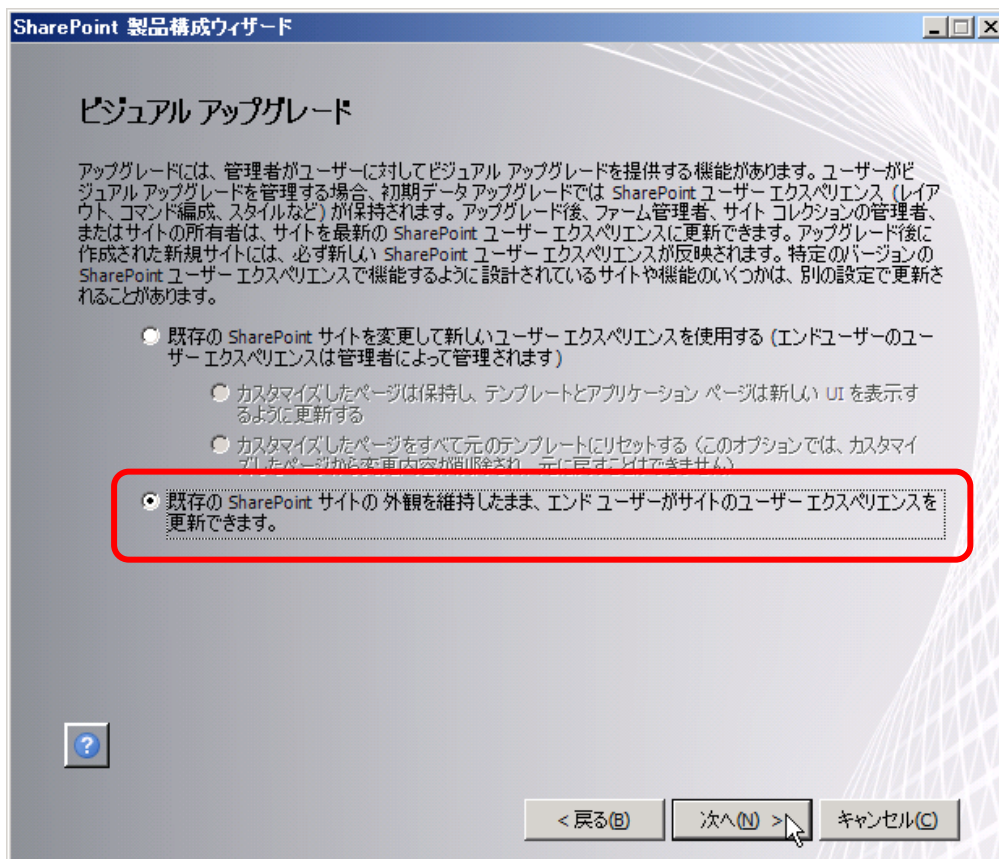


ファームのセキュリティ用にパスフレーズを入力します。

本自習書では「P@ssw0rd」と入力します。

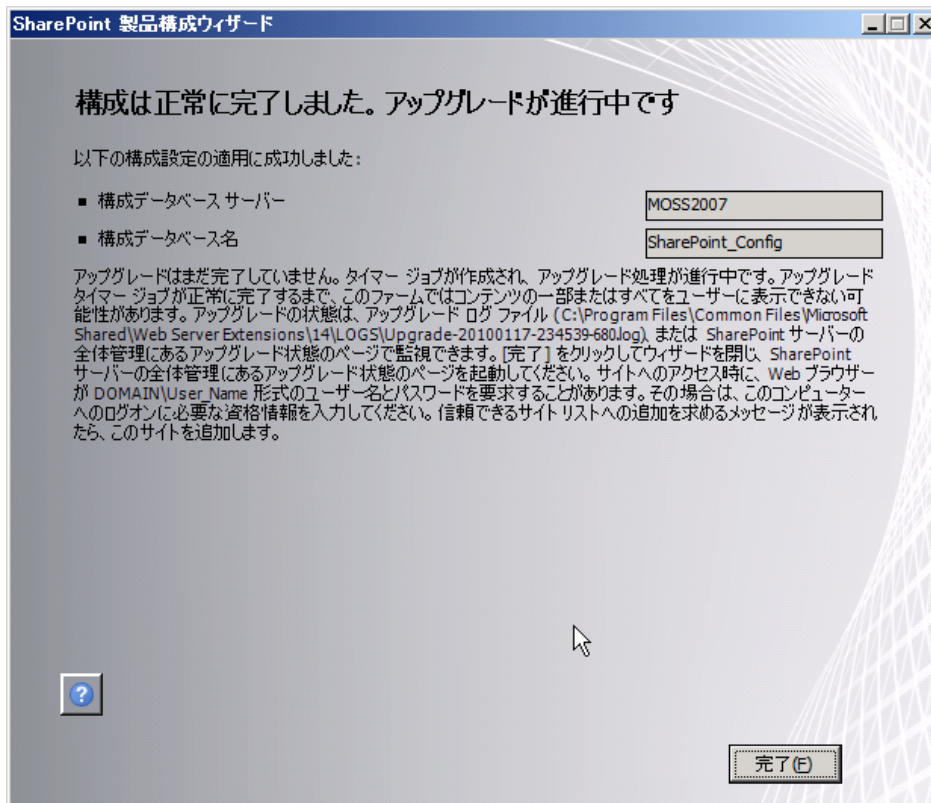


ビジュアルアップグレードの選択を行います。アップグレードの際、新しい SharePoint Server 2010 UI を使用するか、Office SharePoint Server 2007 の UI を維持するかを選択することができます。なお、この設定は後からでも変更できるため、[既存の SharePoint サイトの外観を維持したまま、エンドユーザーがユーザーエクスペリエンスを更新できます] を選択し、[次へ] をクリックします。



すべてが完了したことを確認します。

この後、SharePoint タイマージョブによりアップグレード処理が継続されます。



メモ:

SharePoint Server 2010 はまだベータ版のため、アップグレードの構成がエラーで終了する場合があります。

その場合には、再度構成ウィザードを実行するか、もしくは別の手段でのアップグレード、例えばデータベース移行などを選択することをお勧めいたします。

タイマージョブによるアップグレードの進行状況が表示されます。進行状況は1分おきに自動的にアップデートされ、最終的には「成功」が表示されます。

The screenshot shows the 'アップグレードの状態' (Upgrade Status) page in SharePoint 2010. The main content area is titled 'アップグレード セッション' (Upgrade Session). A table lists the session details, with the first row highlighted in red:

状態	サーバ	開始	最終更新	エラー	注意
進行中	MOSS2007	2010/01/18 0:01:17	2010/01/18 0:03:33	0	0

Below this table is a section titled '選択されたアップグレード セッションの詳細' (Details of the selected upgrade session), which provides further information about the session's progress and configuration.

注意:

アップグレード作業はファームの規模、データベースの大きさによって変わりますが、数十分から数時間かかることがあります。アップグレード実行中は **SharePoint Server 2010 の操作はしないでください。**

「成功」が表示されるまで、完了していません。

The screenshot shows the 'アップグレードの状態' (Upgrade Status) page in SharePoint 2010, indicating a successful upgrade. The main content area is titled 'アップグレード セッション' (Upgrade Session). A table lists the session details, with the first row highlighted in red:

状態	サーバ	開始	最終更新	エラー	注意
成功	MOSS2007	2010/01/19 11:09:58	2010/01/19 11:29:15	0	38

Below this table is a section titled '選択されたアップグレード セッションの詳細' (Details of the selected upgrade session), which provides further information about the session's progress and configuration.

メモ:

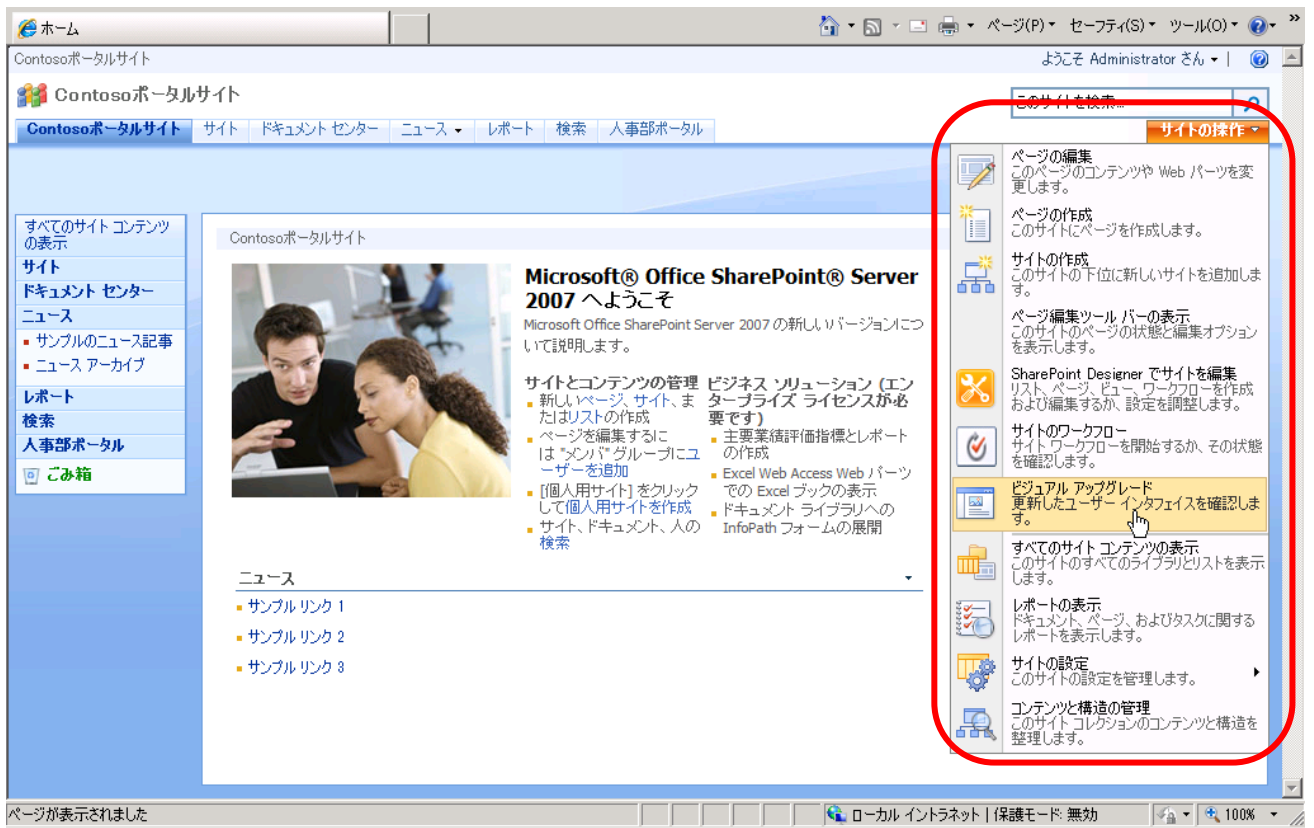
アップグレードのタイマージョブが「**失敗**」と赤字で表示されることがあります。

失敗している場合は、ログを確認します。問題となるところを修正した後、再度構成ウィザードを実行します。

また、アップグレード用タイマージョブは、SharePoint Server 2010 では廃止された共有サービスプロバイダに基づいてサービスの構成をしようとするため、一部のサービスが正常に起動せず、「失敗」で終了してしまうことがあります。

すべてのアップデートプロセスが完了後、サイトを立ち上げ確認します。

右上の [サイトの操作] をクリックすると、SharePoint Server 2010 にアップグレードされていることが確認できます。

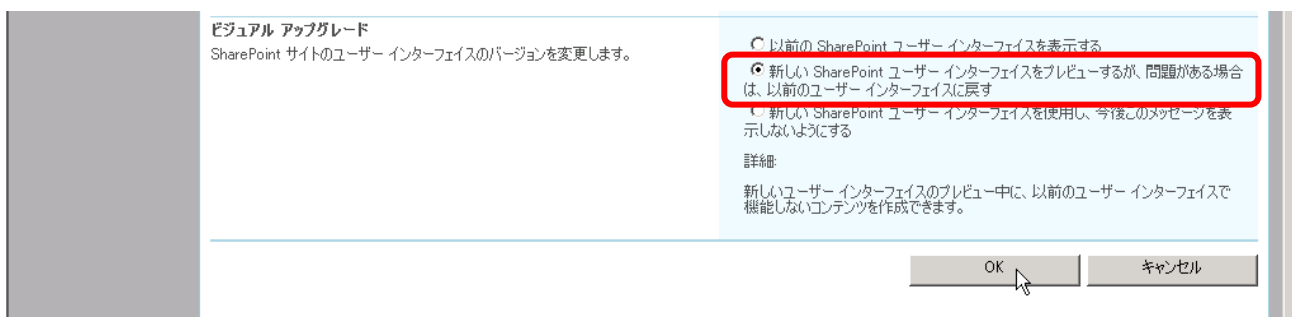


8. ビジュアルアップグレードで UI の変更を行います。
 [サイトの操作] から[ビジュアル アップグレード] をクリックします。



[タイトル 説明 アイコン] ウィンドウが開き、ビジュアルアップグレードの選択をします。

[新しい SharePoint ユーザーインターフェイスをプレビューするが、問題がある場合は、以前のユーザーインターフェイスに戻す] を選択し、[OK] をクリックします。



SharePoint Server 2010 の UI で表示されることを確認します。

上部に「黄色い帯」で UI に関する警告が表示されます。正常に表示されている場合は、これ以上警告を出す必要がないため、「黄色い帯」の[このサイトのビジュアルアップグレード設定を表示] をクリックし、「今後このメッセージを表示しないようにする」を選択します。



3.3 データベースの移行によるアップグレード

SharePoint テクノロジーでは、全てのコンテンツデータを SQL Server のデータベースに格納します。

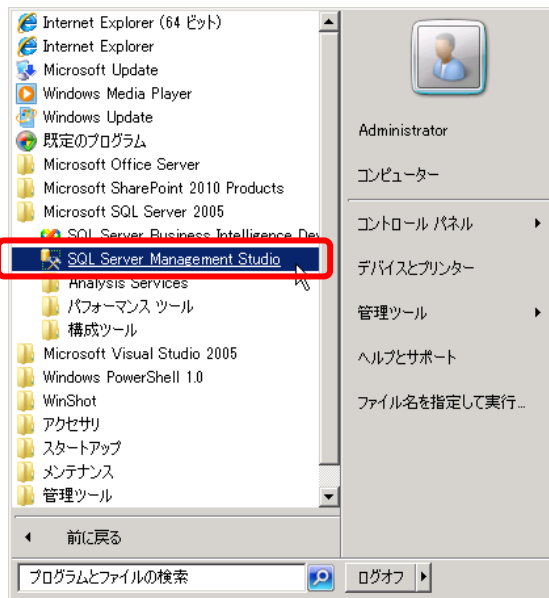
データベースのバックアップを取り、それを復元することによって SharePoint Server 2010 へアップグレードを行うことが可能です。コンテンツデータベースが複数ある場合には、一つずつ復元をしていきます。

この手法は 32 ビット環境から 64 ビット環境へ移行する際にも活用することができる手法です。

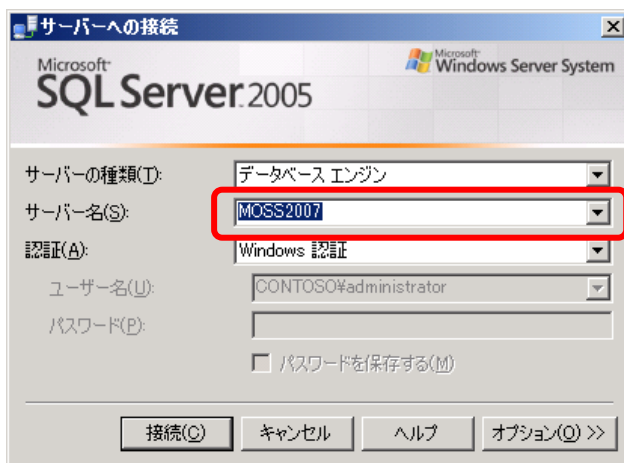
これからご紹介するデータベース移行の環境は、SharePoint Server 2007 と SQL Server 2005 がインストールされ、サーバー名が「MOSS2007」というファーム構成の環境から新規の SharePoint Server 2010 への移行です。

なお、移行先の SharePoint Server 2010 ファームは、これまでの章で構築した環境です。(最初の Web アプリケーションとサイトコレクションが作成済みの環境です。)

1. Office SharePoint Server 2007 で使用している SQL Server からデータベースのバックアップを行います。
[スタート] から[すべてのプログラム] を表示し、[Microsoft SQL Server 2005] にある[SQL Server Management Studio] をクリックします。



[サーバー名] に MOSS2007 と入力し[データベース エンジン] に[接続] します。

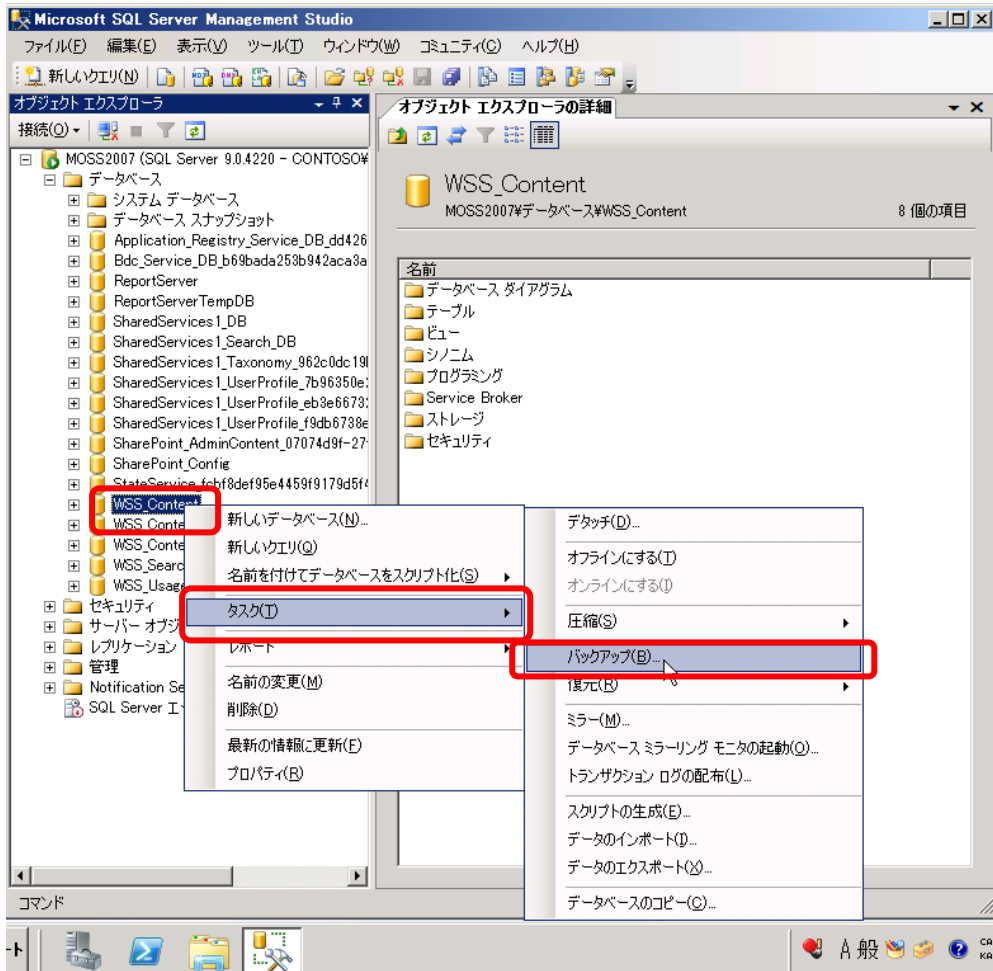


[データベース]を展開し、目的のデータベースを選択します。

本自習書では SharePoint Server 2007 のコンテンツデータベース「WSS_Content」を例にバックアップと復元を行います。

[WSS_Content] の上で右クリックしメニューを表示します。

[タスク] から[バックアップメニュー] を選択します。



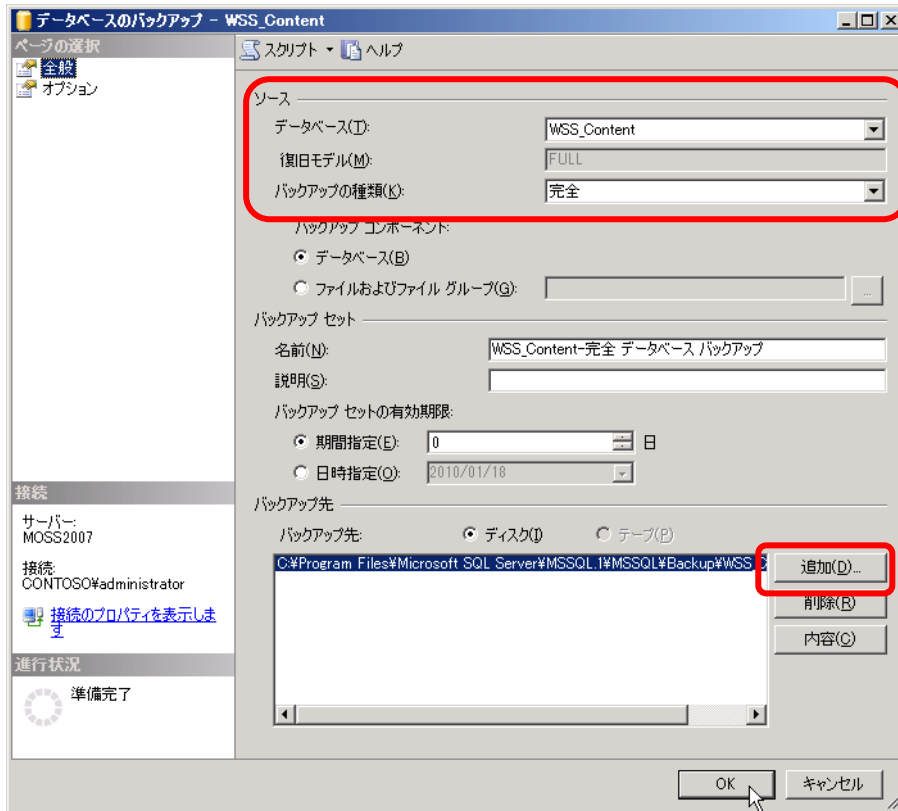
バックアップ内容と、バックアップ先を選択します。

データベース: WSS_Content

バックアップの種類: **完全**

バックアップ先: 任意のフォルダ

選択後、[OK] をクリックします。 指定したフォルダにバックアップファイルが存在していることを確認します。



2. バックアップデータを SharePoint Server 2010 で復元します。

[スタート] から[すべてのプログラム] を選択し、[Microsoft Office SharePoint 2010 Products] から[SharePoint サーバーの全体管理] を選択します。

サイドリンクバーから[アプリケーション構成の管理] を選択します。

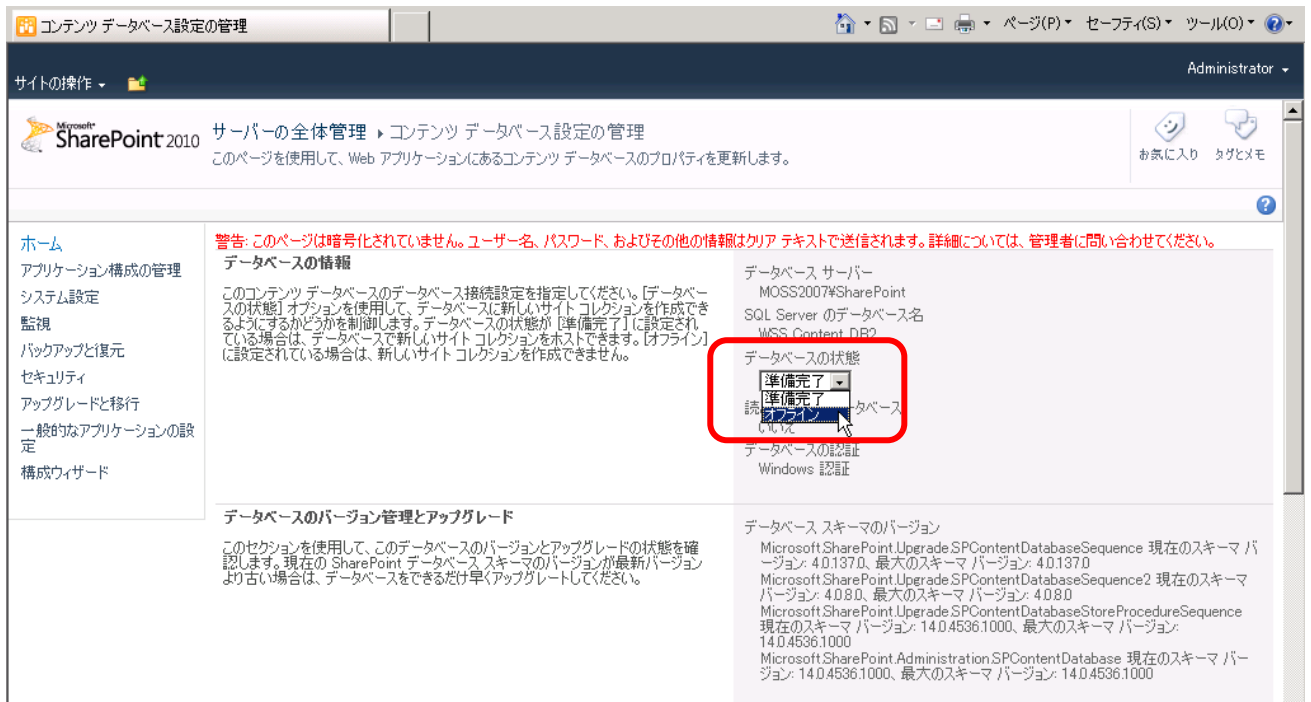
[データベース] セクションの[コンテンツデータベースの管理] をクリックします。



対象とするコンテンツデータベースをクリックします。本自習書では[WSS_Content] をクリックします。

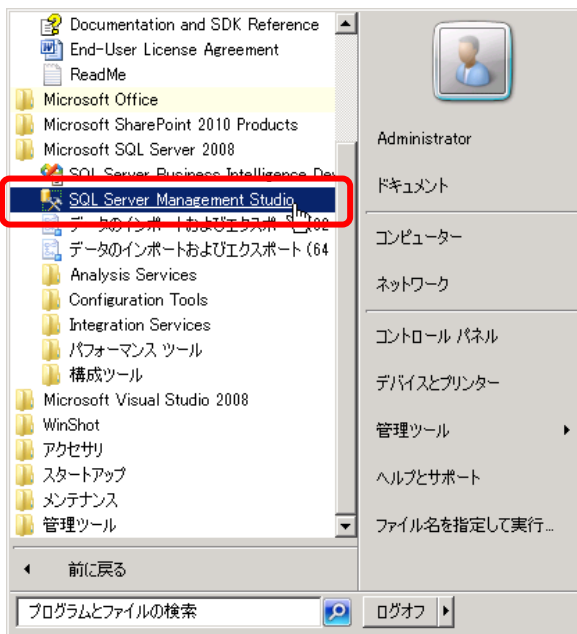


[データベースの情報] セクションで[データベースの状態] を準備完了から[オフライン] にします。



SharePoint Server 2010 をインストールした環境で SQL Server Management Studio を起動します。

[スタート] から[すべてのプログラム] を選択し、「Microsoft SQL Server 2008」の [SQL Server Management Studio] をクリックします。

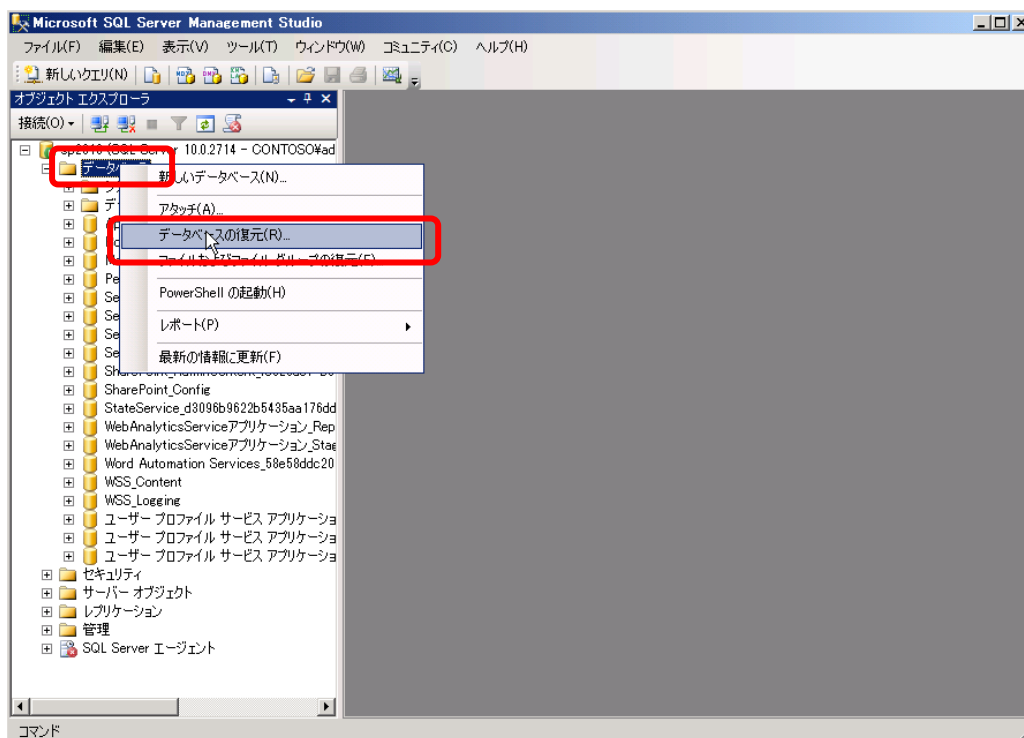


[データベース エンジン]、[SP2010] (SharePoint Server 2010 環境) に[接続] します。

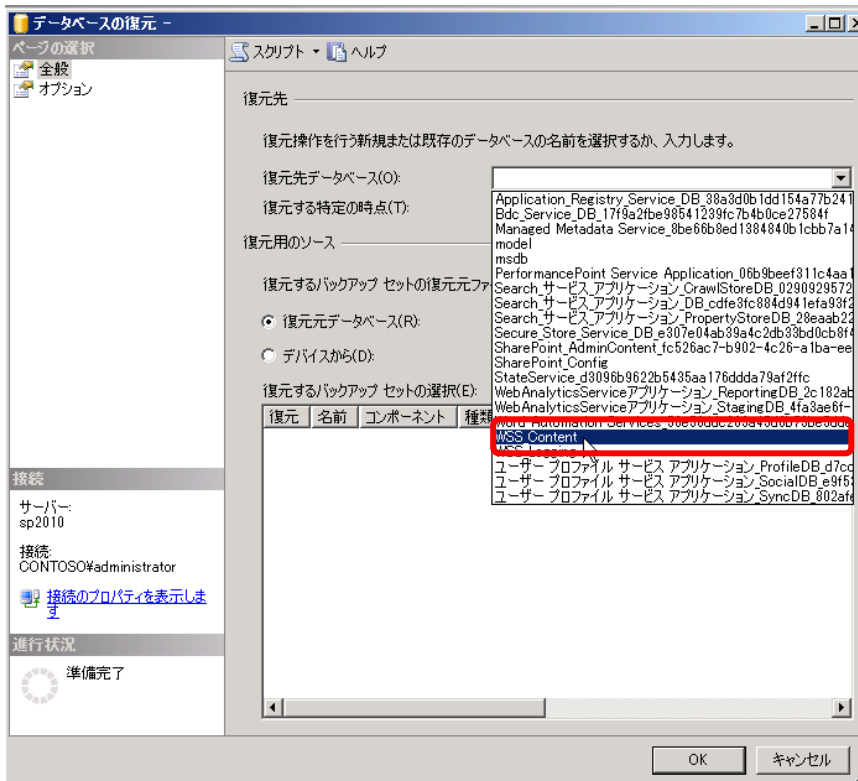


[データベース] を右クリックし、メニューを表示します。

[データベースの復元] を選択します。



データベースの復元ウィンドウから[復元先データベース] ドロップダウンを開きます。 [WSS_Content] を選択します。復元用のリソースとして[デバイスから] を選択し、バックアップしたファイルを指定します。(あらかじめバックアップファイルは既定の SQL Server データベースバックアップフォルダに移動しておきます。)

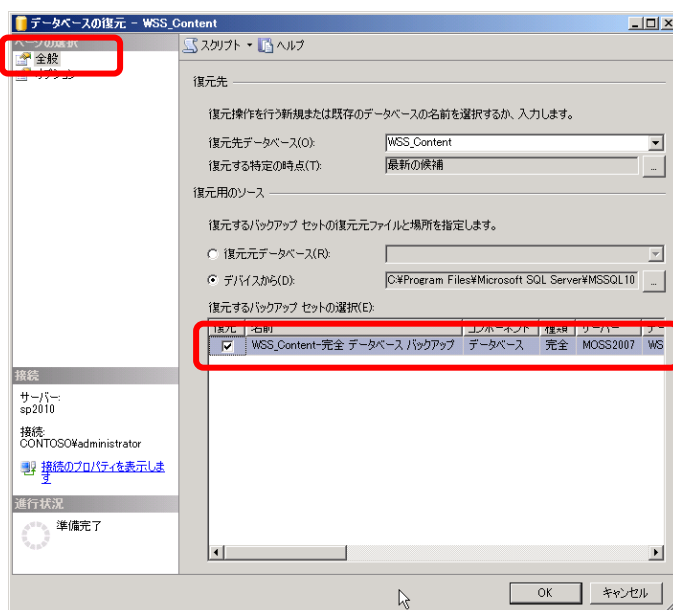


復元先と復元方法を確認します。

復元先データベース: WSS_Content

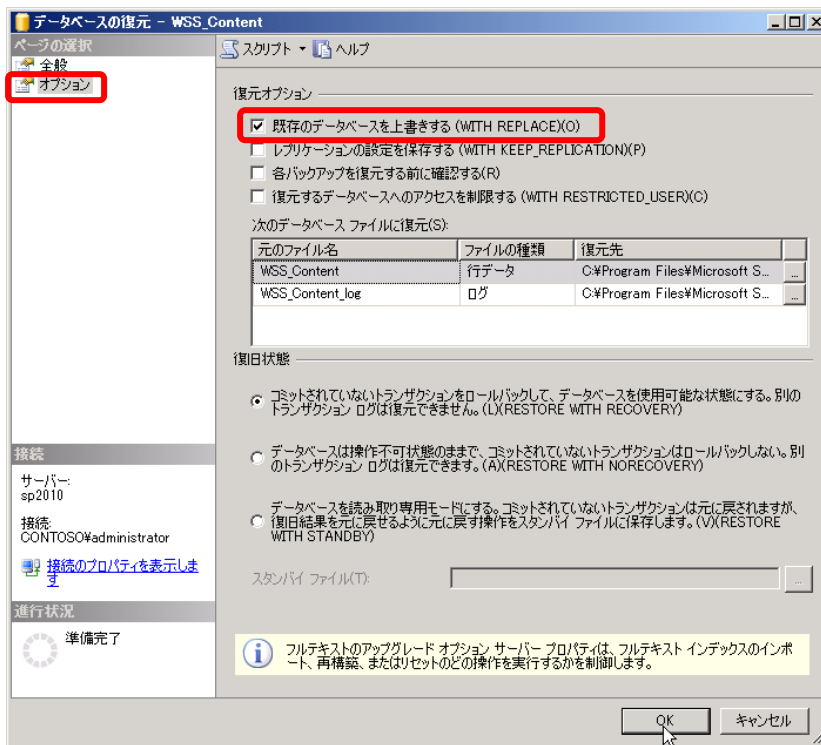
復元する特定の時点: 最新の候補

復元するバックアップセットの選択: WSS_Content 完全データベースバックアップ

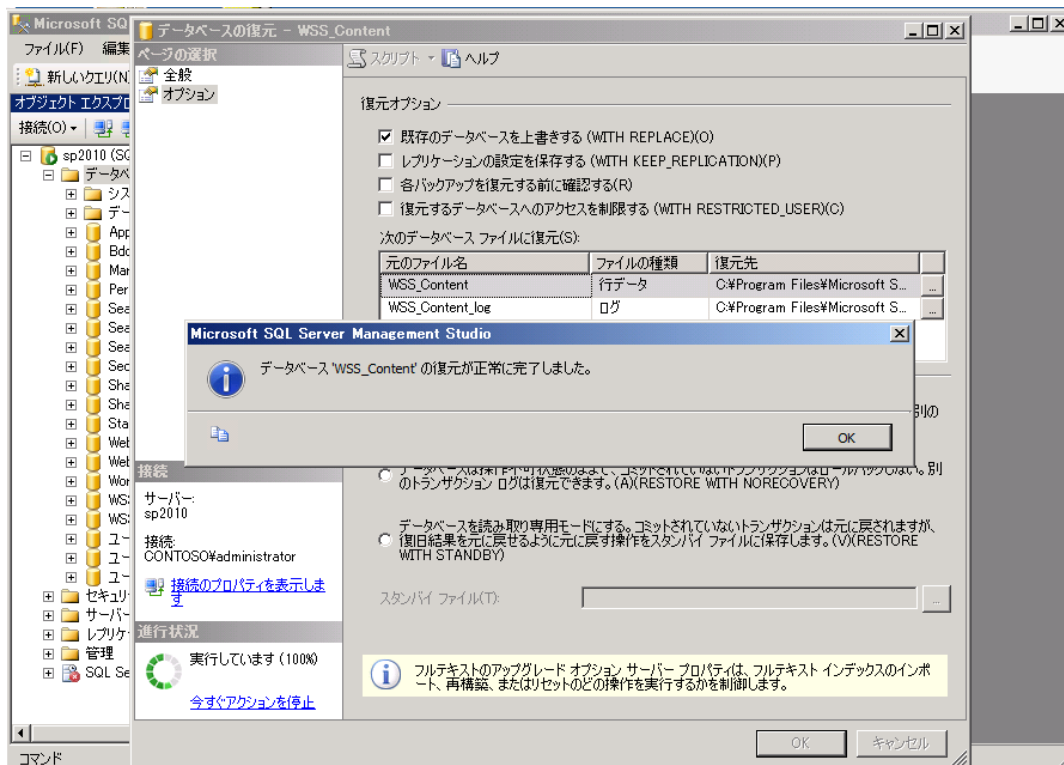


左ペインから[オプション] を選択します。

[既存のデータベースを上書きする] にチェックを入れ、[OK] をクリックします。



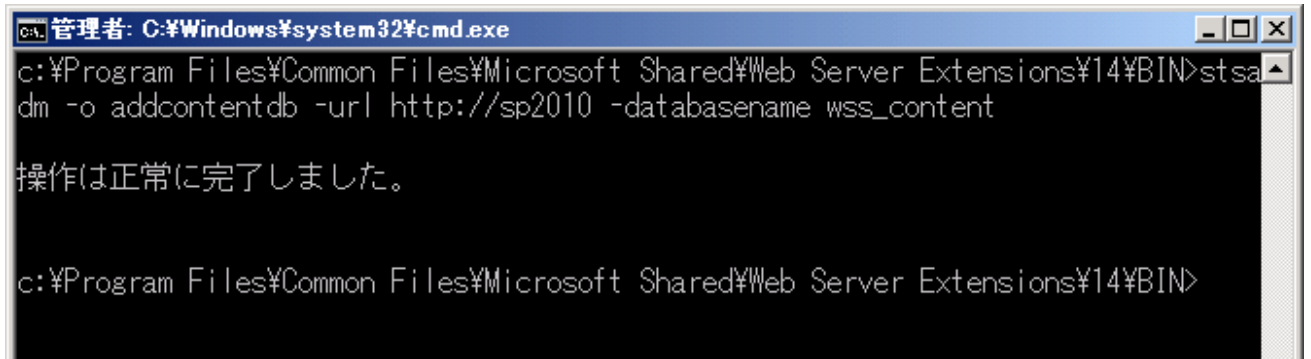
正常にデータベースが復元したことを確認し、[OK] をクリックします。



3. STSADM.exe を実行します。

```
cd c:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\BIN
```

```
STSADM.exe -o addcontentdb -url http://sp2010 -databasename wss_content
```



The screenshot shows a Windows command prompt window titled "管理者: C:\Windows\system32\cmd.exe". The command entered is "stsadm -o addcontentdb -url http://sp2010 -databasename wss_content". The output of the command is "操作は正常に完了しました。" (Operation completed successfully). The prompt then returns to "c:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\BIN>".

メモ:

上記のコマンドを実行するためには、サーバーローカルの Administrator 権限が必要です。また SharePoint ファームに対する権限も必要です。

重要:

本自習書で復元しているコンテンツデータベースは標準機能のみで、カスタマイズが加えられていない状態で作成されたものです。(InfoPath Forms Services を使用した InfoPath ソリューションも使用していません)

コンテンツデータベースが新ファーム環境に戻るのには以下の条件を満たしている場合です。

- ・これから復元するコンテンツデータベース内にあるサイトコレクションやサイトで「カスタム フィーチャー」がある場合、それらが正しく新ファームに復元されていること。64ビット用に再コンパイル必要なフィーチャーや Web パーツが含まれていないこと。(必要であれば 64 ビット用に再設計、再コンパイルを行います)
- ・これから復元するコンテンツデータベース内に「ルートサイト」が必ず存在すること。

カスタムのフィーチャーが使用されている場合、TechNet にある

[http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc262155\(office.14\).aspx#Customizations](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc262155(office.14).aspx#Customizations)

記事を参考にしてください。

4. 動作確認を行います。指定した <http://SP2010> をブラウザで起動し、アップグレードされたかを確認します。



5. 必要に応じて、ビジュアルアップグレードを行い、SharePoint Server 2007 の UI か、SharePoint Server 2010 の UI かを選択することができます。

6. 同様にデータベースデータを一つずつ戻していきます。

SharePoint テクノロジーで戻さなければならない重要なデータには下記のようなものがあります。

- ・コンテンツデータベース (WSS_Content_xxx から始まるデータベース)
- ・個人用サイト

コンテンツデータベースが正しく戻った場合、SharePoint Server 2007 の他のデータ、例えばインデックス用のデータ、ユーザープロフィールデータなどは、移行ではなく、新しい SharePoint Server 2010 環境において再設定、新規検索インデックス作成を行うことによって、SharePoint Server 2007 の時と同等の機能評価を行うことができます。ベータ版製品を効率よく評価するためにも、まずは最低限のコンテンツ復元で検証されることをお勧めいたします。

メモ:

データベース移行のより詳細な手法は

[http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc263299\(office.14\).aspx](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc263299(office.14).aspx) で確認することができます。